

此ノ獨斷教ハ「イエス」ガ信仰ノ爲ニ其ノ身ヲ殺シタル事實ニヨリテ人ノ耳目ヲ牽キ、其ノ使徒等ノ奮闘ニ必要ナル事實的根據ヲ附與シタリ。使徒等ハ「イエス」ニ於テ其ノ眞ニ貫徹セル信仰心ノ活キタル模範ヲ見、直接ニ其ノ不屈進取ノ態度ヲ學ビタリ。而シテ彼等自身ハ理窟モナク「イエス」ノ人格其ノ信仰ニヨリテ支配セラレ、相互ノ間ニ於テハ理論的根據ナク、直チニ相互ノ信念ニヨリテ交通スルコトヲ得タレドモ、異教ニ對抗シ新ニ信徒ヲ造リ廣ク布教セントスルニ及ンデハ「イエス」ノ事蹟ヲ靈妙ノモノトシ「イエス」ノ信仰ニ理論的根據ヲ與ヘ、且次第ニ團體ノ外部的組成ノ必要ヲモ感ジタリ。此ノ要求ハ猶太人ノ奇蹟其ノ他ノ信仰ヲ満足セシメ、希臘人ノ理智ニ融合シ、羅馬人ノ法律思想ト調和スル爲ニ殊更ニ切ナルヲ致セリ。然モ基督教ハ一概ニ是等ノ猶太人ノ信仰心、希臘人ノ究理心、及ビ羅馬人ノ制度心ヲ排斥スルコトナク、其ノ自己ノ信仰ヲ根據トシツツ、其ノ形式ト調和シ得ルモノハ一切之ヲ吸收スルコトニ勉メ、之ト融合シ得ザルモノハ理不盡ヲ問ハズ一切之ヲ排斥シ、終ニ宏大ナル教會及ビ「スコラ」哲學ヲ發生セシメ、其ノ神ノ信仰ヲ以テ世界ヲ風靡スルニ至レリ。今茲ニハ暫ク「イ

エス」ノ復活其ノ他ノ事蹟及ビ教會ノ外部的組成ノ方面ヲ省キ、專ラ哲理ノ方面ニツキテ討究セン。

直接ニ隨ヒシ使徒等ハ夫自身「イエス」ニ敬服シテ理窟ハナク、信仰ノ練修ニテ悟ガ通セリ。然ルニ「イエス」ノ死後ハ教ヲ弘メル爲ニ理窟ヲイハネバナラヌ。理窟モ亦生活上ノ必要ノ方面ナレバナリ。又「イエス」ノ有難味ヤ勿體ヲツケネバナラヌ。虛チイヘヌ故妙味ヲ付ケルニ骨ガ折レル。又弟子ヤ信者ガ殖エレバ外部的組成ニテ形式的ニ統一スルコトガ入用ニナリ、裏面ニハ大ニ形式的ノ弊害ヲ生ズルニ至レリ。尤モ基督教ノ今日在ルヲ得ルノハ教會ノ爲ノミナラズ、教會ニ反對セシ修道僧 Monachism 等ノカモ亦大ナリ。中世ニ於テハ修道僧ガ精神上ニテハ重要ノ地位ニ居リ、教會ハ寧ロ形式ノモノトナリタリ。

第二項 基督教ノ結成

基督教ハ「イエス」ノ教ナレドモ、其ノ口傳セシ教訓ニハ非ズシテ、彼ノ活歴史ノ教ナリ。故ニ「イエス」自ラガ猶太教ニ對シテ基督教ヲ結成セシメタルモノニ非ズ。之ヲ一種ノ獨立セル教ト爲シタル者ハ彼ノ徒弟ナリ。「イエス」ガ一個ニテ不滅ナルニ非ズ。彼ノ光明ヲ輝カシムル端緒ヲ開キシ者ハ彼ニ會心セシ徒弟ナリ。宛カモ「プラトーン」「アリストテレース」等アリシニヨリテ、吾人ノ所謂「ソク

信仰心ハ唯
テ會通シテ得
ベキノミ

スベキハ當初ヨリ「イエス」ノ有力ナル教敵パリサイ「パウルス」Paulus ナリ。
33(A.D.)ノ頃「イルサレム」ニテ捕ハレ 彼ハ逃遁セル「イエス」ノ徒弟ヲ追捕スル爲
ニ「ダマスクス」Damascusニ向ヒタル途中、心機一轉俄カニ「イエス」ニ會心シ、其ノ復
活ヲ經驗シ、「イエス」ノ十二使徒等ヨリモ一層活キタル「イエス」ノ信者ト爲リ、先ヅ
「アンチオーケ」Antiochニ於テ、次ギテ外國ヲ旅行シテ大ニ外國傳道ノ事業ニ從事
セリ。「パウルス」ハ信仰救濟ノ爲ニセル「イエス」ノ死ニヨリテ同ジク此ノ事業ニ
熱心ナリシ自己モ亦死シ「イエス」ノ事蹟ニヨリテ大悟セル自己ハ、即チ「パウルス」
ニハ非ズシテ「イエス」カ「パウルス」ニ於テ活キタルコトヲ感ジタリ。「イエス」ハ「パ
ウルス」一人ノ内ニ於テノミ專ラ活キツアルニ非ズ。彼ノ事蹟ニヨリテ悟リ
得タル人人ノ心ノ底ニ活キツアルヲ見タリ。 信仰心ハ唯信仰心ヲ以 彼ノ
生命ハ最早彼ノ生命ニ非ズシテ「イエス」ノ生命ナリ。 テ會通シテ得ベキノミ 彼ノ
此ノ感ジト共ニ「パウルス」ハ在來ノ行キ掛リニヨリ、變心ノ罪ヲ受クベキヲ顧
ミズ。形式上敗北シタル一青年、然カモ在來ノ教敵ニ降伏セリ。 沒我無我忘我ニ
ヨリ新生セル彼ハ、又獨立人ニ非ズシテ表現人タルコトヲ自覺シタルナリ。 基

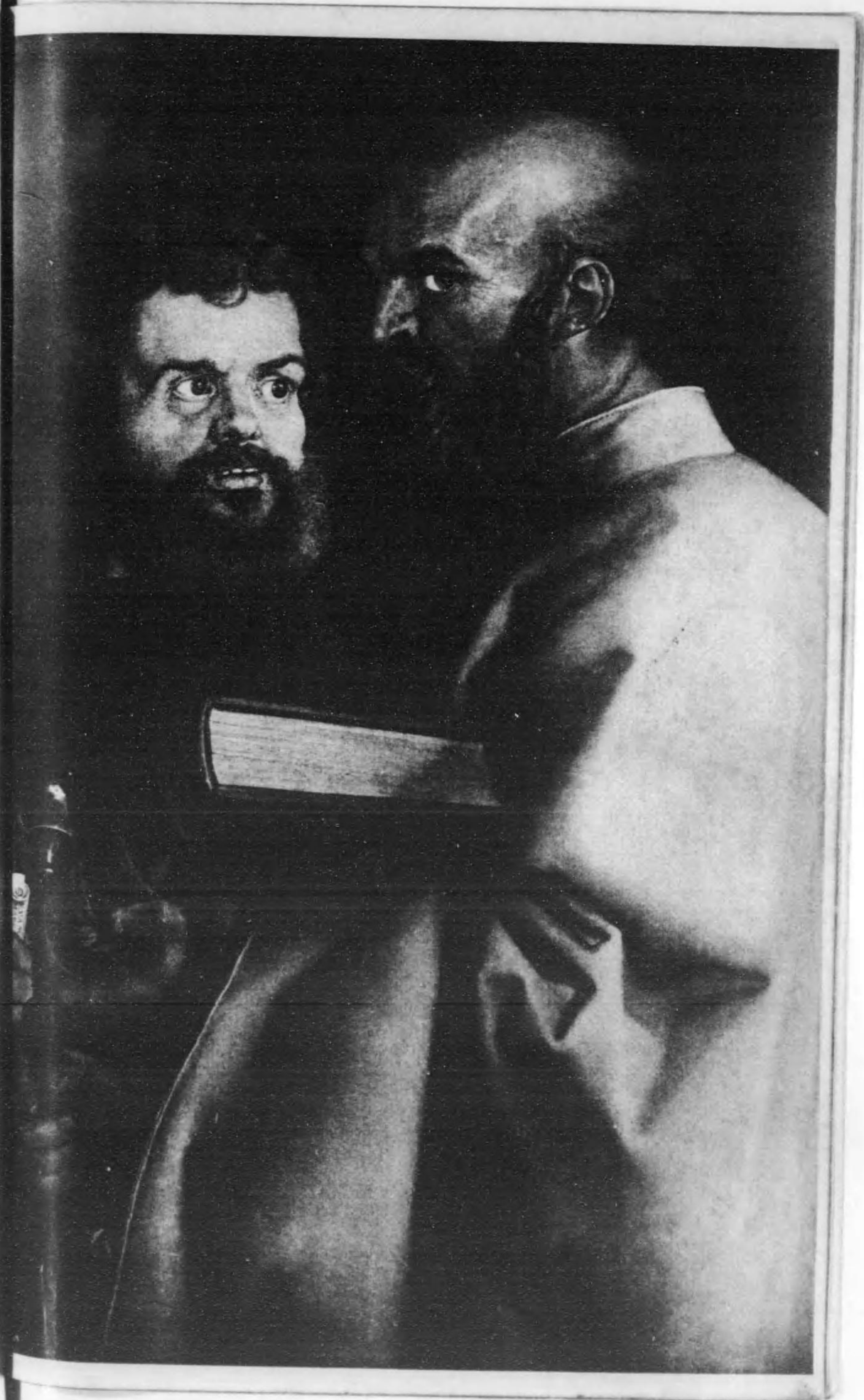
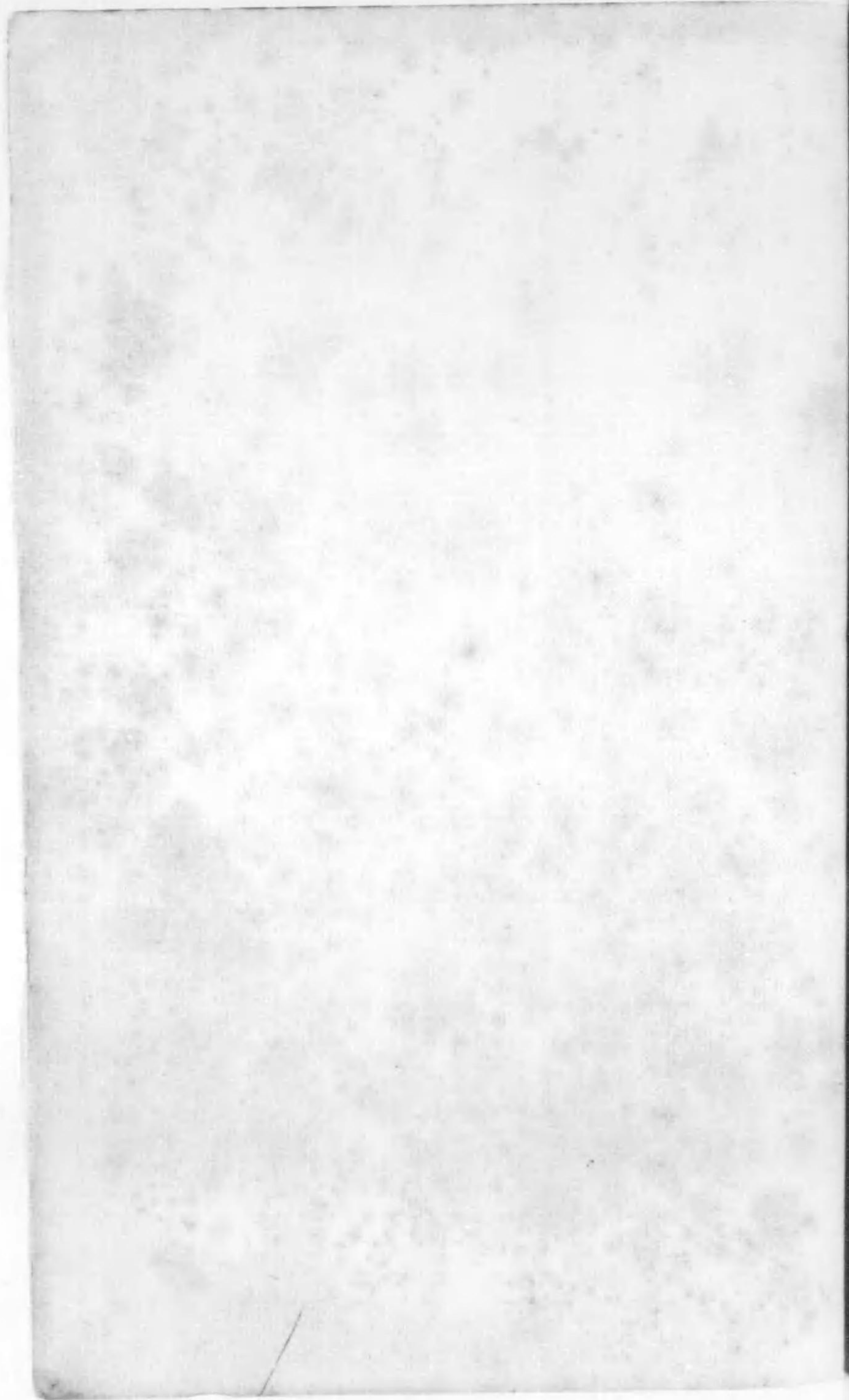
復活シタル
「イエス」ト
ナリテ法則
ナリテ法則
ヤ學問ヤ財
物ノ整理ヤ
ナサザルベ
カラズ

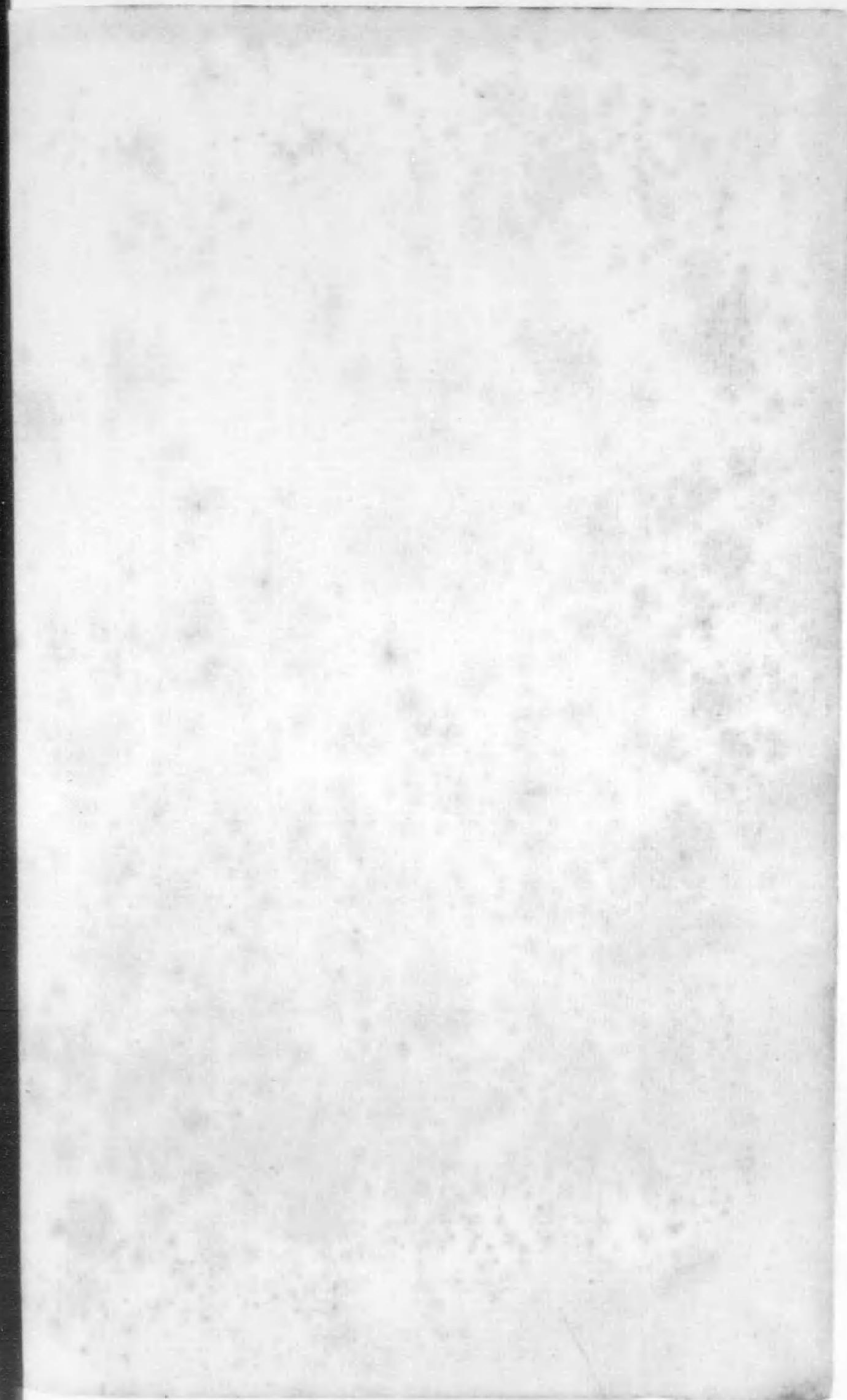
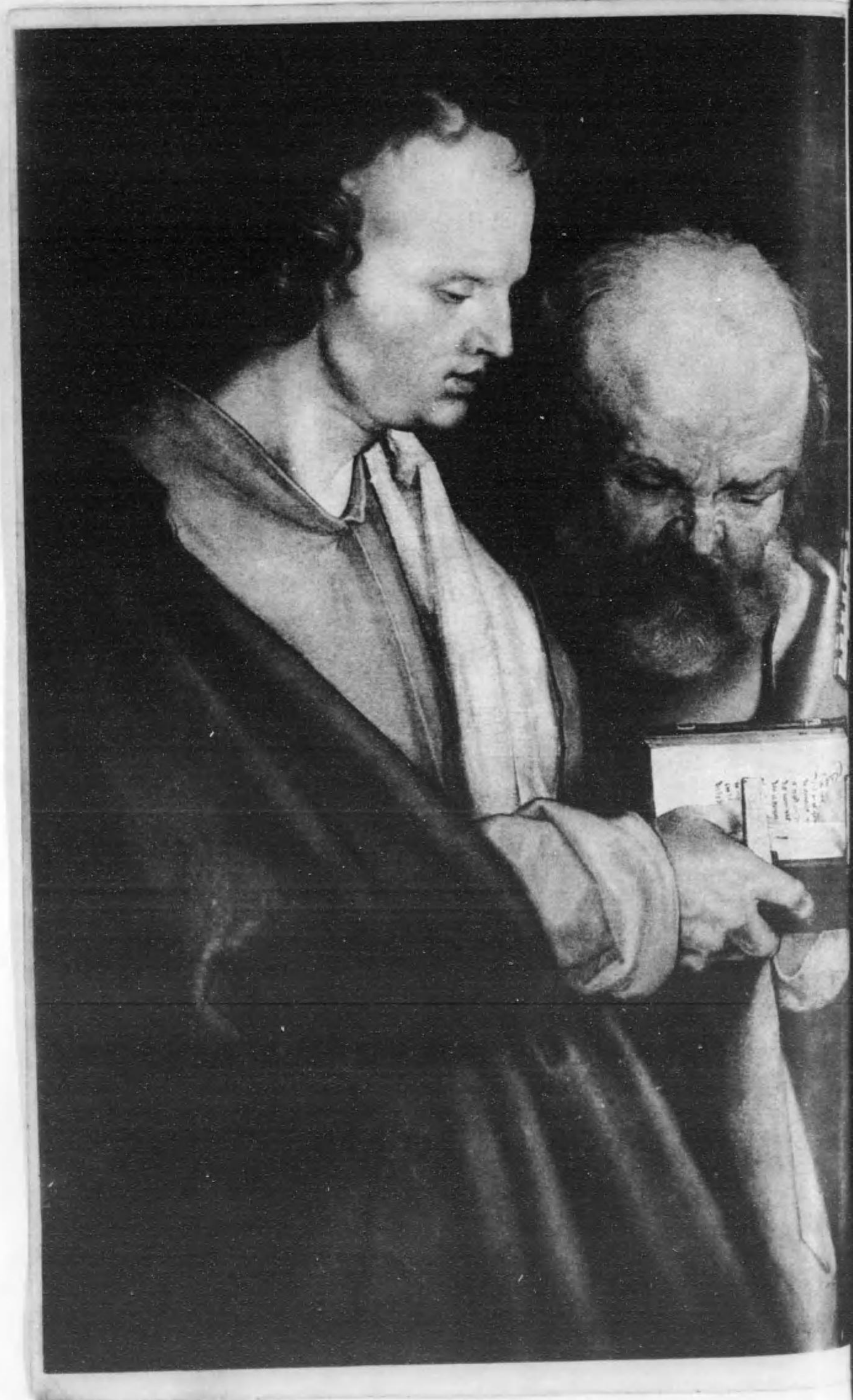
督教ノ今日在ルハ實ニ「パウルス」ノ力ニシテ、彼ノ公平無私ナル轉心ニ在リ。「パ
ウルス」ノ偉大ナルコト此ノ種ノ點ニツキテハ蓋シ十二使徒ノ上位ニ在リ。 ク
偉大ナル「パウルス」ハ风采ノ
揚ラヌ小男ナリシトイフ。
「パウルス」ハ「イエス」及ビ其ノ神ガ各人ノ方ヨリ神ニ歸一セントスル要求ニ對
シ、神及ビ「イエス」ノ方ヨリ積極的ニ遍照ノ德ヲ以テ各人ヲ愛シ、是等ニ歸一セン
トスル熱誠戀愛ノ主體タルヲ證得シタルナリ。苟モ熱誠ヲ以テ「イエス」ニ會シ
彼ノ神ヲ信ズルトキハ「イエス」ノ經驗ハ即チ皆各人自身ノ經驗ナリ。尙生活セ
ル各人ハ死セル「イエス」ノ根據ノ上ニ復活セル「イエス」ヲ包藏セルモノナリ。自
ラ神ニ歸一シ、神ヲ表現シ、且熱誠ト戀愛ト自由トヲ以テ自他神人ハ合一ヲ個
ハ行動ニヨリ個個ノ場合ニ實現シ得ルナリ。從ツテ又冷淡ナル打算及ビ強制
力ヲ前提スル所謂權利義務 眞ノ權利義務ニ非ズ 義ノ域ヲ超越シ得ベシ。從ツテ奮死ニ滅
スルモ表現人ノ苦ナリ、死亡ナリ。苦ニシテ所謂苦ニ非ズ。死シテ所謂死ニ非
ズ。詳言スレバ苦ニシテ所謂苦樂ノ域ニ在ラズ、死シテ生死ノ域ヲ脱ス。(表現
普遍人ノ生命及ビ活働九〇頁參照) 自我トシテノ苦悶ハ生キタルモノヲ惱殺

スベシ。普遍我絶對我トシテノ苦ハ安ンジテ自由自在ニ猛進セシメ、獨立單純人ハ死シテモ表現人普遍人トシテ益、永遠ノ生命ヲ有スルコトヲ證得シタルナリ。自我ノ苦ハ人ヲ憔悴セシメ、普遍我ノ苦ハ人ヲシテ活躍セシメ、絶對我ノ苦ハ人ヲシテ平靜不動ナラシム。天地ト共ニ憂ヒ宇宙ト共ニ樂シムモノハ、苦例ヲ出ヅルガ如シ。

復活ニハ八蓋數キ論アレドモ、迷信ヲ前提トスル故八蓋數キモノナリ、自然科学ヨリ考ヘズシテ信仰ヨリ見レバ明ラカナリ。

「パウルス」ハ元來希臘羅馬ノ哲學ニモ通ジタリシガ、律法主義ヨリ博愛主義ニ轉化シタルト同時ニ「イエルサレム」Jerusalemノ教會ニ於ケルヨリモ自由主義ヲ採リ、律法ノ形式ヲ離レ「アンチオーケ」ニ於テ内外人ニ傳道シ、終ニ基督教ノ内外ニ對シテ大奮闘ヲ開始スルコトナレリ。初メ基督教徒ト稱呼セラレタルハ「パウルス」ノ教徒ニツキテナリ。之ニ反シテ「イエルサレム」ノ教會ハ、初メヨリ猶太教ト分立スルノ意思ナク、猶太教ノ形式律法ヲ重ンジ、門閥ヲ貴ブコト在來ノ如クナリシカバ、間モナク「イエス」ノ弟「ヤコブ」Jacobヲ其ノ長ニ推シ、愈、其ノ活力ヲ失ヒタリ。現今ノ基督教ハ「パウルス」等ニヨリ希臘羅馬ニ傳ハリシ教ニシテ「ペテ





ロヲ以テ教會ノ祖ト看做セリ。

第三項 基督教ノ發達

第一目 概要

「パウルス」Paulusノ自由主義並ビニ外國傳道ハ「アンチオーケ」Antiochノ教會ハ固ヨリ「イェルサレム」Jerusalemノ教會ヲモ争鬪ニ捲キ込ミタリ。此ノ矛盾ニヨリテ「パウルス」Paulusノ立場モ内外ニ於テ明確ニ分析意識セラレ、又外部ニ對シテ基督教ノ獨立ガ完成セラレタルナリ。以後希臘羅馬ニ於ケル基督教ノ歴史ハ矛盾衝突ノ歴史ナルガ、「コンスタンチヌス」Constantinus大帝ニ至ルマデハ特ニ甚ダシク殉教者ヲ以テ充タサレタリ。矛盾ニ於ケル奮闘力ハ基督教徒ノ本質ニシテ、波ナキ處ニモ殊更ニ矛盾ヲ作り出ダセシガ、其ノ相手ヲ統括スルニ足ル、窄平タル根本的信仰ヲ有セシコトハ、矛盾セル毎ニ益、此ノ教ノ活力ヲ増進セシムル所以タリシナリ。

基督教ハ博愛ヲ標榜スレドモ、其ノ喧嘩好キノコトハ福音書ニ在ル文句

青年ノ熱心
ト主觀念
的ナルガ上
シニモ勢ヒ長

一切ノ我慾
ヲ捨テテ
「イエス」ニ
信賴シツ
唯頼メシ
トスルニ
急ナルナリ
一家族ハ第
二ノ私ナリ

ニテモ分カル。馬太傳ノ第十章ニハ地ニ泰平ヲ出サン爲ニ我來レリト意
ハ勿レ、泰平ヲ出サントニ非ズ、乃チ出サン爲ニ來レリ。夫ヲガ來ルハ人ヲ
其ノ父ニ背カセ、女ヲ其ノ母ニ背カセ、媳ヲ其ノ姑ニ背カセンガ爲ナリ。人
ノ敵ハ其ノ家ノ者ナルベシ。我ヨリモ父母ヲ愛ム者ハ我ニ協ハザル者ナリ、
我ヨリモ子女ヲ愛ム者ハ我ニ協ハザル者ナリ、其ノ十字架ヲ任テ我ニ從ハ
ザル者モ我ニ協ハザル者ナリ。其ノ生命ヲ得ル者ハ之ヲ失ヒ、我爲ニ生命
ヲ失フ者ハ之ヲ得ベシトイフテアル。此ノ言葉ノ心持ハ身ヲ捨テ家ヲ捨
テ親族ナレバナリ。ヲ捨テ、一切ノ私ヲ沒シ無我トナツテ表現人ニ歸セヨト
イフコトデアアルガ、夫ニシテモ如何ニモ荒荒シイ殺伐ノ言ヒ方デアアル。其
ノ平地ニ波ヲ起ス方面ノ批評ハサテ措キ、如何ニ身ヲ投グ捨テテ喧嘩腰ニ
ナリ奮闘スル覺悟デ仕事ニ從事シテ居ルカガ分カル。沒我トイフモ尋常
ノ平穩ニシテ在ルカ無キカ見エモセネバ聞エモセヌ沒我デハナク惡戰苦
闘ヲ厭ハザル奮闘スル爲ノ沒我デアアル。殊ニ「イエス」ハ三十歳前後ニ於テ
爲シタル行動デアアルカラ、何程偉聖デアアルトシタ所デ、若者ハ若者ニ相違ナ

イカラ八十歳ニテ涅槃ニ入ツタ釋迦ノ平靜ナルコトトハ異ナルハ當リ前
ノコトナリ。此ノエライ勢ニ感化セラレタ弟子共ガ「イエス」ノ教ヲ奉ジテ
外國傳道ヲ始メタカラ、死ヲ以テ何ヨリノ樂シミトシテ猛進シタノハ分カ
リキツタ話デアアル。

基督教徒ノ此ノ猛進ニ伴フテ起ツタコトハ彼等ノ教難デアリ、殉教ノ事
實デアアル。佛教ニ於テモ其ノ信仰ノ爲ニ迫害ヲ受ケタ者モ皆無デハナイ
ガ、基督教トハ比較ニナラヌ程少ナイ。又佛教ニ於テハ法ガ大切デアアルガ、
基督教ニ於テハ法デナクシテ教デアアル故ニ殉法ニ非ズ殉教ナリ、護法ニ非
ズ護教ナリ、法難ニ非ズシテ教難ナリ。基督教ハ「ギリシヤ」哲學ト接觸シ「ロ
ゴス」ト其ノ教トノ關係モ説カレタガ、遂ニ冷靜ノ理法デハナク、熱烈ナル感
得ヲ言ヒ表ハシタル斷定的ノ教條デアアル。基督教徒ガ其ノ信仰ニヨリ此
教條ヲ固守シ、之ヲ人ニ押シ賣リスル爲ニ死スルコトハ、生キテ居ルヨリモ
遙カニ望ム所デアアル。然ルニ其ノ當時主トシテ其ノ對手トナツタ「ローマ」
人ハドウカ。「ローマ」人ハ信仰ノ趣味ニ乏シク武斷的デ聞カン氣デアリ、且

自己ニ征服セラレタル亡國ノ民ナドハ輕蔑シテ居ル。其ノ亡國民ニ屬スル名モ知レヌ一人ノ血氣ノ青ニ才然モ死罪ニ行ハレタ者ヲ擔ギマワツテ、其ノ信仰ヲ人ニ強ヒ不思議ニモ人人ヲ籠絡スルコトヲ慨嘆シ其ノ徒ヲ絶滅セント考ヘタ。斯ク「ローマ」人ハ基督教徒ヲ殺シテヤリタイト思ヒ、基督教徒ハ教ハ爲ニ殺サレテ天國ニ行キタイト思フ。ソコデ「ローマ」ニ於テ作サレタ基督教徒ノ數ハ夥シイ。「パウルス」モ卒先シテ「ネロ」帝ニ殺サレタ一人デアル。此ノ傾向ハ此ノ教ガ「ローマ」ニ滯留スルコト久シキニ及ブ程益著シクナツタ。夫モ其ノ筈「イエス」ノ活精神ト「ローマ」人ノ氣質ト「ストア」主義ト此ノ點ニツキ見事ニ結合シタカラデアアル。

此ノ種ノ自由觀念的氣質ハ皇國人ノ長所ナリ故ニ東西ノ此ノ精神ヲ結合セシメシ天草一揆等モ中頑強不撓ナリシナリ。

斯様ニシテ基督教徒ガ莫大ニ殺サレタ結果其ノ徒ガ滅ジタカトイフト、否、其ノ正反對テ熱心ナル信者ガ益殖エテ來タハ「ミナラズ」「イエス」一人ニ止マリシ宗教的事實及ビ宗教的經驗ガ無數人ニ擴張セラレタ。宗教ノ教義

皇國建國ノ第一事實ト比較スベシ

古神道ノ第一事實

ヨリモ哲理ヨリモ實修ノ形式ヨリモ何ヨリモ一番大切ナル宗教的事實及ビ之ニ伴フ宗教的經驗ガ限リモノナク擴ゲラレタ。是ニ於テ基督教ハ永久ニ亘リ不動ノ生命ヲ獲得シ、間モナク羅馬帝國ノ國教トマデ成リ上ツタ次第デアアル。奮闘ヲ主義トスル基督教ハ其ノ根柢タル信仰ノ確實ナルト共ニ奮闘ニヨリ其ノ光ヲ發揚スルニ至ツタ次第デアアル。

使徒及ビ其ノ直弟子ハ此ノ奮闘力ヲ以テ人ノ注意ヲ惹起シ、博愛ヲ標榜シテ有ラニル階級ニ其ノ單純精銳ナル深キ信仰ヲ叩キ込ミタリ。此ノ後「ユスティヌス」Justinus 一六五年頃「アルクス」アウレリウス「Marcus Aurelius」帝ノ朝ニ殉教ス。「スト改心スルコトヲ得タル者ナリ。元「パレス」ヲ初メトシテ教理ヲ組織シ、異教徒ニ對抗シタル所謂護教家 Apologeten ノ多數ヲ出ダセリ。「タチアヌス」「Tatianus」第二世紀シリア「Syria」人ナリ、「ユスティヌス」ノ弟子ニ「ミヌチウス」「Minucius Felix」世ニシテ希臘ノ神話哲學美術ヲ罵倒セリ。「ミヌチウス」「Irenaeus」115年ニ生レ、202年ニ死セリ。其ノ弟子「ヒッポリツス」Hippolytus 二世紀ノ後半ニ生レ、240年頃殉教セリ。東「テルトリアヌス」Tertullianus 150-160頃「カルターゴ」Carthagoニ生レ、250-245年ニ死セリ。其ノ弟子「キプ

リアヌス]Cyprianus 二世紀ノ末カ三世紀ノ始ニ北部亞弗利加ニ生マリ。等ニシテ、是等ノ人人ノ中ニ希臘哲學及ビ異端ノ臭味ヲ帶ビタル「グノーシス」Gnosis 派ノ教理ニ反對シタル者多ク、何レモ基督教ノ教理ヲ以テ神ノ啓示ニシテ、且眞正ノ哲學ナリトスルニ一致セリ。此ノ發達ハ先ヅ二ツノ方向ヲ取レリ。一ハ希臘語ノ行ハルル地方ニ於ケル發達ニシテ、他ハ羅旬語ノ行ハルル地方ニ於ケル發達ナリ。

第一 希臘語地方ニ於ケル發達。

是等ノ地方ハアレクサンドリアヲ中心トシテ希臘哲學ノ素養ヲ以テ或ハ希臘哲學ヲ攻撃シ、或ハ希臘哲學以上ノ神ヲ成立セシメントセシモノナリ。「パントーヌス」Pantenus 「ストア」ヨ「クレメンス」Titus Flavius Clemens 二世紀ノ終リ頃ヨリ活躍ス。フクロン及ビ「ストア」ヲ利用ス。希臘哲學モ根柢ニアリ。オリゲネース]Origenes 155年生於テハ皆神ノ智慧ノ顯現ナリトセシ者。アリ。オリゲネース]Origenes 155年生影響シタル點モ亦少ナラズ。「アウケステイヌス」チ佛敎ノ龍樹ニ比スレバ、オリゲネースハ之ヲ馬鳴又ハ無著ニ親シテハ此ノ傾向ヲ大成セシ者ナリ。彼ハ若年ニシテ已ニ信仰ノ問答敎育ニヨリ人ヲ敎ヘタリシガ、異敎者ニ對抗スルノ必要

Platonが彼の骨髄ナリ

哲學的倫理的基督教

ハ、希臘哲學ヲ修メザルヲ得ザルコトナリ、殊ニ當時名聲盛ンナラントセシ「アムモニウス、サッカス」Ammonius, Sakkas ニ就キ、新「プラトーン」學派ノ哲學ヲ修メ、フクロン「アムモニウス」ユスティヌス「クレメンス」等ノ說ヲ折衷シ、神靈其ノ發出及ビ「ロゴス」ヲ説キ。哲學モ亦「ロゴス」ノ顯現ナレドモ、其ノ最モ根本的ナルモノハ聖書ノ眞理ナリ。聖書ハ最高神聖ノ知識ナレバ、哲學ハ之ニ根據セザルベカラザルコトヲ説キタリ。其ノ著作ハ甚ダ多ク、其ノ哲學的ナルコトハ人ノ争ヒ難キ所ナリキ。サレバ彼ノ說ハ古代ノ終リニ於テ至大ノ影響ヲ與ヘタレドモ、基督教ノ性質トシテ、猶木ニ竹ヲ接ギシ傾向アルヲ免レズ。羅馬敎會ハ之ヲ異端ト宣告シ、引續キテ之ヲ禁ゼリ。從ツテ、僅カニ希臘敎會ハ、敎義ノ根據ト爲リテ、其ハ生命ヲ保チタルハ、ミ。「オリゲネース」Origenes ノ弟子ニ大「ディオニジウス」Dionisius der Grosse アリ。彼ニ次ギ問答敎育ノ事業ニ從ヒ、觀念的哲學ヲ助ケトシテ希臘敎ノ正當ナルヲ證明シ、テルトリアヌス「系統ノ實在主義並ビニ機械的世界觀ニ反對セリ。併シ信仰的獨斷的ナル基督教ガ、尙ホ哲學ト調和スル必要ヲ有セシコトハ、是等ノ試ミニテモ知ラレ得レドモ、元來信仰的獨斷的ナル敎ナレバ、

全クハ希臘哲學ト調和シ得ザリシコトモ亦之ヲ想像スルニ難カラザルベシ。

第二 羅甸語地方ニ於ケル發達。

實際的基督
教ノ發達
政治的宗教

希臘語地方ニ於ケルト異ナリ羅馬語ノ世界ニ於テハ「ストア」及「ピ羅馬」固有ノ思想ガ至大ノ影響ヲ與ヘ「キケロ」Ciceroノ學說ノ如キハ基督教教理發達ノ主ナル滋養分トナレリ。一言ニシテ曰ヘバ知識的ニ非ズシテ信仰的・道德的ナリ。意思的ナリ獨斷的ナリ。而シテ羅馬ノ統治ノ意識ハ一方ニハ羅馬教會ノ外部的組成ヲ完成セシメ他方ニハ基督教ニヨリテ現ハサレタル神ノ信仰ヲ總攬スル者ノ性質ヲ明確ニ爲サシメタリ。前掲セシ「ミスチウス・フレリックス」Minucius Felix「テルトリアヌス」Tertullianus「キケロ」ノ自由心・責任心・正義心・良心・神又ハ靈魂不滅等ノ意識即チ人類ノ共通意識 consensus gentiumト稱セシモノ又ハ羅馬「ストア」ノ義務心・人格完成ノ意識ヲバ永遠又ハ絶對ノ域ニ擴張シテ基督教ノ教理ヲ組成シ殉教ノ喜ビヲ讚歌セリ就中「テルトリアヌス」ノ如キハ西方教會ノ神學ノ祖ト稱セラル。降ツテ三四世紀ノ交ニハ「ラクタンティウス」Lactantiusアリ「アムブロジウス」Ambrosius 336-397 羅馬「貴族」ニシテ法律學ニ通ジ知アリ。「アムブロジウス」336-397 羅馬「貴族」ニシテ法律學ニ通ジ知アリ。「アムブロジウス」336-397 羅馬「貴族」ニシテ法律學ニ通ジ知アリ。「アムブロジウス」336-397 羅馬「貴族」ニシテ法律學ニ通ジ知アリ。

ス「四世紀ニ於テ専ラ羅甸基督教徒ノ間ヲ支配シ居リシ」ストア「キケロ」ノ道德思想ヲ原始ノ基督教主義ト融合セシメントスル當時ノ思潮ヲ完成シテ更ニ西方神學希臘ニ對シテイフニ發達ノ根據ヲ附與セリ。而シテ「ヌミディア」Numidiaヨリ出デ是等基督教神學ノ根據ヲ大成セシノミナラズ西洋古代ノ思想ヲ統一シテ之ヲ不動ノ意識トナシ近世ニ至ルマデ永ク思潮ノ根柢トナリ近世ニ至リテ再ビ歐洲ニ其ノ華ヲ咲カシメタル偉人ハ「アウレリウス・アウグスティヌス」Aurelius Augustinusナリ。

「ルーテル」ハ此ノ人ノ思想ヲ活カシタル者ナリ。又近世學問ノ出發點ヲ與ヘシ「デカルト」ノ如キモ「アウグスティヌス」ヨリ出發セシ者ナリ。

第二目 「アウグスティヌス」ノ說

「アウレリウス・アウグスティヌス」Aurelius Augustinus 354-430 ハ「キケロ」及「ヅァルター」Zuñigaト共ニ西洋時文家ノ第一ト稱セラル。彼ハ神學者ニシテ隱遁主義ノ生活ヲモ營ミ終ニビシヨッフ監督ノ職ニ就ケリ。其ノ哲學說ハ「デカルト」ヲ經テ歐洲近世

龍樹ト「ア
ウグステイ
ウグステイ
ウグステイ
比較スル
要スルチ

哲學ノ出發點ト爲リ、其ノ神學說ハ中世羅馬教會確立ノ根據ト爲リ、其ノ神國論ハ永ク國家ト教會トノ關係ニ影響ヲ及ボシ、ヤガテ近代ノ立憲國ヲ生ジ出ダサシムル一因トナリタリ。

第一支 哲學說

第一 彼「グノージス」Gnosisノ一派ニ歸セシガ、次ギデ「アカデミー」派ノ懷疑

說ヲ採リ、更ニ轉ジテ新「プラトーン」派ニ屬セシガ、終ニ基督教ニ立チ返リテ、其ノ内心ノ要求ヲ満足シ得、安心立命ノ動カザル根柢ヲ發見セリ。

「アウグステイヌス」ハ古代ノ哲學ガ矛盾反對セルニ對シ、就中懷疑派ガ人心ニ起サシメタル不安ノ念慮ニ對シ、人心ノ根柢ト離ルベカラザル信仰、生活活動並ビニ學問ハ不動ノ出發點タルコトヲ證得セリ。

向上心
トス

「デカルト」
ヨリモ根本
的ナリ
全人格ヲ以
テス

テイヌスハ知識ノミナラズ、有ラユル方面ノ心理作用ヲ統括スル活キタル心ノ底ヲ以テ信仰ガ最高ノ實在タルヲ悟ラシメ、又此ノ信仰ガ萬般ノ生活並ビニ實在ノ知識ノ根元タルコトヲ猛烈ニ證明シタル者ナリ。

「アウグステイヌス」ハ生活經驗ヨリ證得シタルモノニテ後ニ知識ニ依リテ言ヒ現ハシタルノ知識ガ後レテ信仰ガ先キナリ。

第二 彼ハ自ラ此ノ種ノ感得ヲ鍛ヘタル順序ニ從ヒ知識ニヨリテ之ヲ論證シ、神ノ存在ヲモ證明セントセリ。

先ヅ自我内部ノ實在ヲ論ジテ曰ク。汝自身ヲ知ラントシツアル汝ハ、汝ノ存在スルコトヲ知ルカ。汝ハ汝ノ存在スルコトヲ知ラズト言ヒ得ザルベシ。何ニ由リテカ汝ノ存スルコトヲ知ルカ汝ハ之ヲ知ラズトモ言ヒ得ベシ。汝ハ又單一ノモノト思フカ複雑ノモノト思フカ、汝ハ之ヲ知ラズトモ言ヒ得ベシ。汝ハ又汝ヲ汝ガ動カスコトヲ知ルカ。汝之ヲ知ラズトモ言ヒ得ベシ。併シ汝ハ汝ガ思惟スルコトヲ知ルカ。汝ハ決シテ思惟スルコトヲ知ラズトハ言ヒ得マシ。サレバ自我ノ存在及ビ自我ノ思惟スルコト丈ケハ到底之ヲ否定シ難カルベシ。若シ汝ガ之ヲ疑フコトアリトスルモ、其ノ疑ヘル主體又ハ疑ハルル客體ガ即チ汝ナルベシト。(デカルト参照) 疑ヘバ疑フホド反ツテ益、疑フ自我ガ確カマリ、又疑フハ材料ト爲ル記憶ガ確カトナリ、記憶ノ主體ハ在ルコトヲ證明スルモノナリ。然モ管ニ思惟及ビ疑惑ニツキテノミナラズ、萬般ノ生活活動即チ矛盾反對ハ、皆其ノ主體タル自我ノ存在スルコトヲ證明スルモノニ非ザルハ

「デカルト」曰ク「孤ニ在リ」カサル者「ア」ラバ「バ」カ「サ」レ「ツ」ツ「ア」ル「モ」ノ「即」チ「自」我「ナ」リ「ト」
假令乾坤覆我更不疑

自我中ニ在
來ノ一切ヲ
顯ハセリ

近世ニ至リ
此ノ根據ノ
上ニ個人主
義ヲ成立セ

ナシ。此ノ生活活動矛盾反對ハ、即チ生活ナリ。自我ハ其ノ生活ノ主體ナリ。思惟疑惑生活ハ盡ク自我内部ノ存在ノ確實ナルコトヲ保障スルモノナリ。自我内部ノ存在ハ宇宙外界ノ利用及ビ其ノ是認ノ根柢ナリ、然ノミナラズ神及ビ心靈ノ不滅ヲモ意識シ得ル根據ナリ。タダ此ノ内部ニモ動カザルモノ在リ、動キツツアルモノ在リ、淺薄ナルモノ在リ、根柢的ナルモノ在リ。而シテ其ノ内部ノ眞面目ヲ發揮スルヲ要シ、之ヲ以テノミ始メテ神ヲ觀念スルコトヲ得ベシトスルモノナリ。(新プラトーン派殊ニ其ノ「エクスターゼ」参照)

大ニ唯識論ニ似タリ。後ニ「デカルト」ノ出發點トナル。西洋ニ於テ自己ガ如何ニ重キヲ置カラルカガ分ル。飽クマテ自我ヲ無クナサヌコト明ラカナリ。然ルニ中世ハ「自我ヲ蹂躪セシ」出發點ガ、又此ハ「アウグスティヌス」ナリ。又個人ヲ喧マシクイヘルハ近世ニシテ「デカルト」等ナリ。

「アウグスティヌス」ハ自己内部ニ於テ實在ヲ見タルト共ニ、内的經驗ヲ以テ、最モ確實ナルモノトシ、精神上ノ現象ハ精神ヨリ出發シ、其ノ内的經驗ヲ以テ、ハミ之ヲ解決シ得ベク、之ヲ離レテ外部ニ求メ得ベカラズトセリ。而シテ彼自身ノ有シタル内的經驗ハ純潔高遠ナリ(博識ノ謂ニ非ズ)。意思ヲ重

ンゼシ、羅馬人ノ主觀觀念ハ、アウグスティヌスニ至リテ大成セラレタルナリ。
 第三 自我アリ其ノ深キ内的經驗アルガ故ニ之ニヨリテ人間ヲ認メ得、神ヲ認ムルコトヲ得ルモノナリ。

自我ヲ離レテ神在ルヲ證明シ得ズ。自我ヲ透シテ神ヲ見得ルナリ。自我無ク内的經驗無クンバ神モアルコトナク、淺薄ナル經驗ニヨリテハ眞ノ神ヲ感ズルコト能ハザルベシ。此ノ神ハ「イエス」及ビ聖靈ト一體ヲナシテ存在スレドモ、「イエス」ヲ透シテ感ゼラレ、「イエス」ハ内ニ畫カレタル「イエス」ト同質ナル神ナリ。
 神ト「イエス」トハ本末ノ差ナク、聖靈又ハ「三者ハ相待ツテ始メテ完全ニ存在スルコトヲ得レドモ、相待テル根據ノ上ニハ各獨立シ、各完全圓滿永久不滅ノ存在ヲナス。然レドモ三ツノ相異レル萬能者アルニ非ズ。同時同處同等ニシテ唯一ナル神ナリ。三位一體タル唯一ノ神ガ萬物ヲ創造シ、人間ヲ愛護救済スルナリ。「イエス」ヨリ離レタル神ガ一己ニテ爲スニ非ズ、「イエス」一己ガ之ヲ爲スニモ非ズ、勿論聖靈ノミカ之ヲ爲スニモ非ザルナリ。(最小限度ノ國家表現人並ビニ國法ノ前後ナキコト參照 佛教哲理 二九九頁)

サレバ神ヲ信ズルコトハ「イエス」ト離レザル神ヲ信ズルノ謂ヒナリ。神ノ存在スルハ吾人ノ深キ内的經驗ニヨリ、「イエス」ト離レザル神ヲ感ジ得ルガ故ニ神ガ存スルナリ。「アウグスティヌス」ハ「イエス」ノ説キタル博愛ナル神ヨリ。而シテ「イエス」ハ神ト合一シツツアル人間ナリ。但シ人間タルコトヲ脱却シテ神ト爲リシ者ニ非ズ。「イエス」ハ神並ビニ人間ノ表現者ナリ。

第四 「アウグスティヌス」ハ自己及ビ神ヲ感ゼシノミナラズ、又普遍我タル人間ヲ感ズルコト切ナリシナリ。

神ニヨリテ救ハルベキ者ハ一般ニ人間トイフ者ナリ。各個人トシテハ神ノ自由ナル選擇豫定ニ從ヒ、特ニ神恩ヲ受ケ又ハ受ケザルコトヲ妨グス。各個人ハ人間トシテ皆一體ナリ。故ニ一人ガ善ヲ爲スコトアラバ猶人間ノ善ト爲リ、一人ガ惡ヲ爲スコトアラバ猶人間ノ惡ト爲ル。「アダム」Adamガ神ノ命ニ背キシハ、彼一己ノ惡ニシテ又人間ノ惡ナリ。「彼」ハ人間ニ存在セルヲ認ム。其ノ責任ヲ負擔スベキ者ハ、彼一己ニ止マラズシテ悉皆ノ人間ナリ。各個人ハ「アダム」ノ者ナリ故ニ刑罰ヲ受クベキモノナリ。「イエス」ガ一己トシテハ罪無キニ拘ハラズ。其ノ身ヲ殺

代理代表ニ
非ズシテ表
現ナリ

「イエス」ハ
ノ表現者ナ
ハレバ其ノ死
表現ナレド
モ「イエス」
ハ又他人ノ
於テ其ノ死
故ニ其ノ死
罪ヲ斷シ其
向上トナシ
テ現ス

「イエス」ハ
ノ表現者ナ
ハレバ其ノ死
表現ナレド
モ「イエス」
ハ又他人ノ
於テ其ノ死
故ニ其ノ死
罪ヲ斷シ其
向上トナシ
テ現ス

セシモ、人間トシテ人間ノ受クベキ刑罰ヲ引受けシモノハ、ハミ。神ノ豫定ニ依リ
人間ヲ救フベキ天職ヲ有スル神ノ子トシテ生レ來リシ「イエス」ガ、此ノ豫定ニ依リ
信仰ニ非ズ、アウグスティヌス等參照。個人トシテハ何等ノ罪科ナキニ、尙他ノ一切人ノ
罪ヲ引受けシモ、此ノ意味ニ於テ神聖ナリ。個人ガ過失ナクシテ人間ノ病ヲ
「ストア」ノ良心竝ビニ責任心ハ、「イエス」ノ實行及ビ「アウグスティヌス」ノ感想ニ因リ、
更ニ美事ナル事實ヲ結ビタルモノトイフベシ。

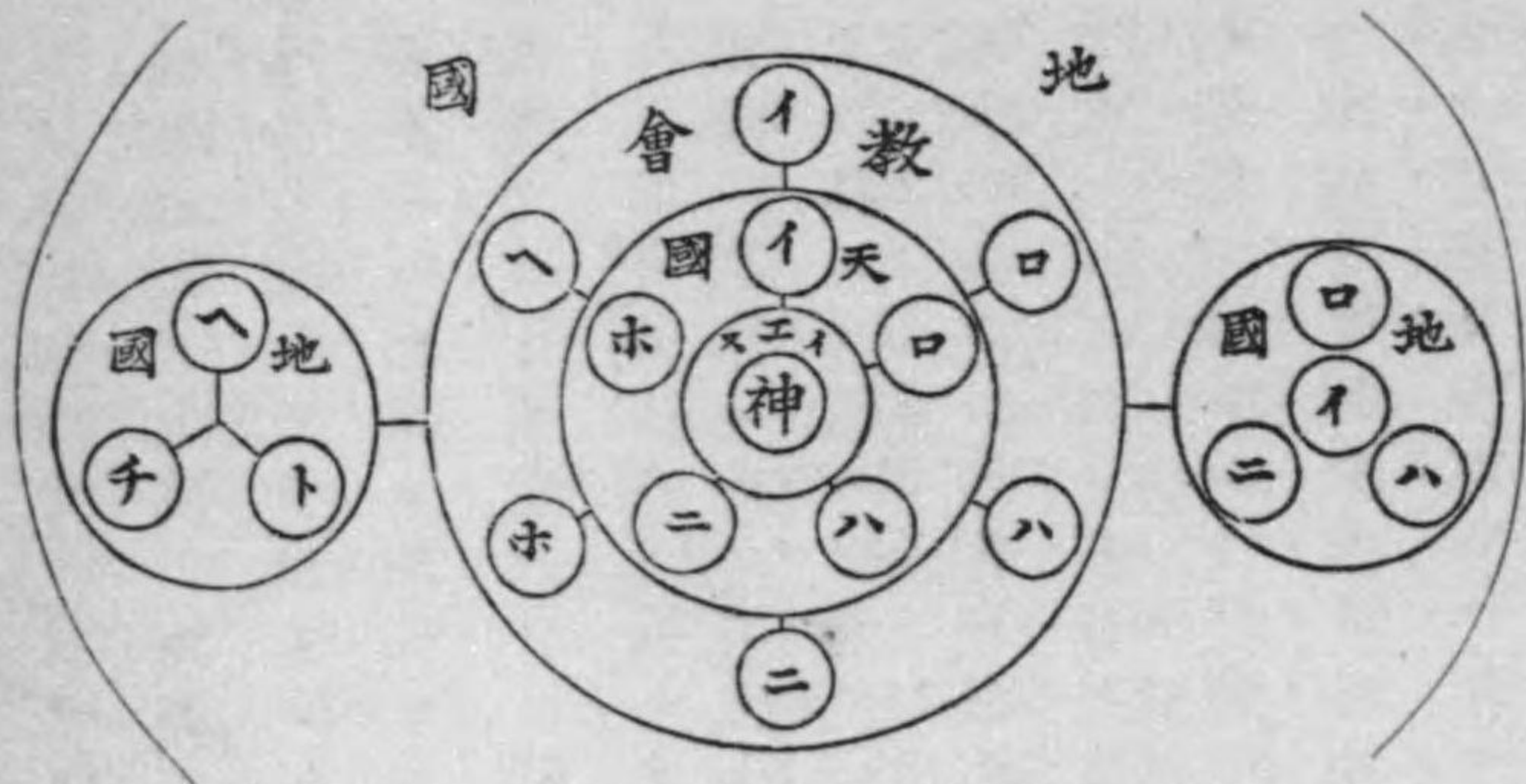
吾人ハ平生入ノ爲セシ苦ヲ引受けケテ居ル者ナリ。人ノ迷惑モ善キ事モ廻リ來ルモノナリ。
自分獨リ仕タ事ノミヲ自分ニ引受けケルノテナク、自己ノ事ニツキテノミ責任アリト思フハ狭
キ考ナリ。只一人存在スルノテナク、アダム「イブ」ヨリ一體ナリ。「イエス」ノ表現セシ人間ノ仲
間ニ入レバ宜シ「イエス」ヲ信セハ「イエス」ト一體タル人間トナリ、從ツテ「イエス」ノ行動ニヨリ「ア
ダム」以來ノ罪惡ヲ贖ハレ得ベシ。各個人ノ罪ハ「イエス」ガ救ヒ得ルトカ何トカノ議論アルモ
大體ノ人間トイフ上ニテ存スルナリ。普通ニ意識セシハ「アウグスティヌス」ノ大ナル所ナリ。
「アウグスティヌス」ハ一體タル人間ノ普通ノ存在ヲ經驗スルコト切ナリキ。
「イエス」ガ有セシ博愛ニヨリ自己ノ行動ヲ一切人ニ回向セシメントスル意識ハ
「アウグスティヌス」ニヨリ人間各個人相互ノ間ニ擴張セラレタリ。「アウグスティヌス

ス」ノ經驗ニヨレバ、各人ハ決シテ自力ノミニヨリ完全ナルコトヲ得ルモノニ非
ズ。皆他カト相待チテ存在ス、一人ノ善惡ハ他人ノ善惡ト爲リ、一人ノ責任ハ他
人ノ責任ト爲ルトイヒシモ即チ是ナリ。各人ハ相互ニ他人ヲ構成シ、又他人ニ
ヨリテ構成セラルトイフモ是ト同義ナリ。各人内部ノ品質ハ數量ニヨリテ之
ヲ保障スルヲ要スルモ、又是等ノ意義ト離レテ認メラルモノニ非ズ。偶然ナ
ル一個人ノ中ニ於テ全ク具備セラレ、又他人ノ保障ヲ待ツヲ要セズ、他力ニ信賴
スルノ必要ナキモノハ各自ノ慾性ナリ。併シ此ノ他ノ高尚ナル性質ハ高尚ナ
ルモノホド、愈々數量ニヨリ外部ヨリ之ヲ保障スルコトヲ要シ、他力ニ信賴シテ之
ヲ完成スルコトヲ要スルモノナリ。而シテ其ノ極點ハ神ノ信仰ナリ。神ハ一
己ハ内部ヲ通シテ觀ザレバ存在セザレドモ、唯偶然ナルノ一己ノミヲ通シテ其
ノ内部ニノミ存スルモノニ非ズ。一切人ヲ通シテ唯一ハ存在トシテ其ハ内ニ
現ハルモノナリ。タダ取止メナク一切人ヲ通シテ其ノ中ニ存スルモノニ非
ズ。總攬者タル「イエス」ヲ通シテ其ハ内ニ現ハレタル神ナリ。「イエス」ト前後本
末ナク存在スル神ナリ。勿論神ノ實在チ
否定スルニ非ズ。

第二支 教會並ビニ國家論(神國論)

「アウグスティヌス」ハ自我ヲ以テ「アルキメデース」ノ點ト爲シタルガ、其ノ結果ハ所謂個人主義ニ終ラズシテ、反ツテ「イエス」ト離レズニ認メ得ベキ神ヲ是認シ、多數自我ノ相互ニ回向スル所以ヲ説キ、各人ノ間ニ於テモ自力ノミニヨル救済ヲ排斥シテ他力主義ヲ唱ヘタリ。此ノ他力ハ理論的ノモノニ非ズシテ實行のハ、モノナルベク、無數ノ他力ヲ包括成シテ、普遍力タル他力ヲ發揚スルモノハ、使徒ト特別ノ關係ヲ有スル宗教團體ナラザルベカラズ。此ノ種ノ團體ヲ通シテ、個個ノ力ガ普遍力トシテ洽ク一切人ニ及ブコトヲ得、各人ハ此ノ種ノ團體ノ力ヲ通シテ、廣ク一切人ノ他力ヲ受クルコトヲ得ルモノナリ。團體ヲ通シテ博愛ガ其ノ眞ノ働ヲ發揚シ得ルモノナリ。(立憲國ノ法理ガ獨立單純人間ノ相互ノ歸一又ハ構成關係ヲ認メズシテ、團體ノ單純人トノ間ノ歸一構成ノ關係ヲ認ムルコトヲ本則トナスハ此ノ精神ト同一ナリ、立憲國ノ制度ハ博愛主義ガ制度上ニ實現セラレタルモノナリ) 是ニ於テカ彼ノ教會國家論ヲ略説セザルベカラ

第八十五圖 「アウグスティヌス」ノ三界ノ説



第一界 純粹ノ心靈界。
 第二界 信仰ト愛トヲ主義トシ
 天國ヲ現世ニ實現シツルアル世界。
 第三界 強力服従ニヨリテ成立シツツアル世界。

「アウグスティヌス」ハ其ノ神國論 *De civitate Dei* ニ於テ相對立シ相待ツテ離レザル國ノ三階級ヲ論ゼリ。其一ハ天國 *civitas caelestis* ニシテ三位一體タル神ガ自ラ愛ト自由トヲ以テ、各人内部ノ心其ノ深キ信仰ヲ支配シツツアリ。各人ハ各異ナレドモ、其ノ心靈ハ「イエス」ノ總攬ノ下ニ無差別平等ノ一體ト爲リ、國ヲ成シ、相互ニ圓融シツツアリ。其二ハ地國 *civitas terrena* ニ

此ノ三階級
ノ人類歴史
ガ證明スル
所ナルノ點
ニ照點スル

シテ人間ガ強制力ヲ以テ外部ニ現ハルル各人ノ行動ヲ支配シツツアリ。人爲ノ法認定及ビ人爲ノ正義ガ其ノ支配者並ビニ各人ノ行動ノ標準ナリ。其三ハ教會 ecclesia ニシテ、地上ニ於ケル正當ナル神ノ信仰ヲ擴メ、信仰ヲ修養セシムルノ要件タル信者ノ團體ナリ。使徒ノ後繼者タル羅馬法王ガ神命ヲ受ケテ其ノ支配者タリ。

天國地國教會ノ對立ヲ必要ト認メシハ、人類ノ歷史上モ亦證明セラレ。

教會ハ天國ニ非ズ、不完全ナル地上ノ團體ナリ。尙形式ヨリ離脱シ得ズ、過誤ナキヲ期スル能ハザレドモ、各人ノ信仰ハ教會ノ他力ニヨリ指導セラレ、是ニヨリ保障セララルルガ故ニ、各自ノ偶然獨斷ニ陥ルコトナク始メテ正當ナル信仰タルヲ得ベシ。此ノ根據ハ、上ニ各自ノ活動ガ始メテ人間一般ニ回向シ得ベキ博愛的活動ト爲ルコトヲ得ルモノナリ。故ニ此ノ教會ニ屬セザル者 地上ノ國家モ強制力ヲ以テ其ノ生命ト爲シ、罪惡ニヨリ成立セシモノナレバ、教會ニ歸服シ、其ノ指導ト保障トハ下ニ立ツニ及ンデ、其ノ強力ノ支配並ビニ活動ガ始メテ博愛ノ實現ト爲リ、神國ト矛盾セズシテ存在スルコトヲ得ルモノナリ。國家

ハ各分子タル個人ヲ率キ、一括シテ教會ノ下ニ立タシムルガ爲ニ正當ナリ。必要ナリ。各個人一般ヲシテ汎ク教會ノ命令ヲ奉ゼシメ、博愛ヲ實行セシメテ天國ニ入ラシムルニハ、國家ニ依リテ爲スヨリ有效ナルモノ在ラズ。是レ各個人ニ不完全ハ附着スル間ハ、天國教會及ビ地國ノ三者ガ相並ンデ缺クベカラザル所以ナリ。其ノ結果國家ヲシテ強力ヲ以テ異教徒ヲ嚴禁シ、人民ヲ

「アウグスティヌス」ノ神國論ハ、夫ノ中世ニ於ケル羅馬法王專制ノ旗幟ト爲リタルガ、同時ニ近世諸國ヲシテ人類發達ノ爲ニ各自ノ範圍ノ特色ヲ分擔セシメ、人道博愛ノ根據ニ立チテ其ノ分子ヲ統帥シ、民族相互ヲシテ競争セシムルニ至レリ。近世各國相互ノ競争交際及ビ援助モ國內ノ一切人ヲ率キテ地上ノ平和、人類ノ博愛及ビ融通、並ビニ切磋琢磨ヲ實行シツツアルモノナリ。國家アルニヨリ、各個人ノ行動ヲ表現人ノ行動トシテ、容易ニ先ヅ團體内ノ一切人ニ回向セシメ、次ギテ尙人類一般ニ回向セシメ得ルコトナリ、各個人ガ國家ヲ通シテ國內ハ一切人及ビ世界ノ一切人ノ他力ハ下ニ生活活動シ得ル所以ト爲ルモノナリ。從ツテ人類ノ救濟發達ヲ目的トシ、宇宙ノ研究ヲ目的トスル國內ニ於ケル個人

字ハ又ハ人
類ハ外ニ在
ラズ日本
ガ即チ人
即チ人ナリ
表即チ人ナリ

第一門 第五章 宗教時代 第三節 基督教ノ確立 教理ノ結成並ビニ發達 五九〇
ハ、行、動、ハ、國、家、ノ、目、的、ト、矛、盾、反、對、ス、ル、コ、ト、ナ、シ、國、家、ノ、目、的、モ、終、局、ス、ル、ト、コ、ロ、
人、類、普、遍、我、ノ、發、達、及、ビ、其、ノ、表、現、ニ、在、ル、モ、ノ、ナ、レ、バ、ナ、リ、
外人類ト普遍イテ我ト意味ニ非
ズ。二六頁參照。

附 錄

新歐羅巴人ノ思潮略說

目 次

- 第一章 中世思潮ノ概要
- 第二章 中世後期ノ思潮
- 第三章 第十六世紀ノ思潮(過渡時代)
- 第四章 第十七世紀第十八世紀ノ思潮(自然法全盛時代)
- 第五章 第十九世紀ノ思潮(歴史的分析時代)
- 第六章 結 論

第一章 中世思潮ノ概要

歐羅巴本部ノ新民族ヲ支配スルニ至リタル基督教ハ、西方教會ハ「ラテン」教會又「ローマ」教會。

附錄 新歐羅巴人ノ思潮略說 第一章 中世思潮ノ概要

ル、誤リタル概念ヲ以テ實在トセズ、事實上生活活動シ、矛盾シ變遷スル個人個物ヲ以テ實在ノ唯一ナル根源トセシモ、ハナリ。此ノ主義ハ古文復興並ビニ宗教改革ニヨリ近世ノ思潮ヲ開始セシメ、新鮮ナル活力ヲ以テ人類及ビ國民ノ共同生活ヲ改良シ、個人生活ヲ神聖ナラシメタリ。(以下佛教哲理中西洋思潮ノ大要以下九頁 參照)

「アリストテレス」ノ歸納法ハ、ヒドク中世ノ哲學ヲ鑄型ニ入ラシメ、又「イデア」論ヲ濫用セリ。

第三章 第十六世紀ノ思潮 (過渡時代)

目次

第一節 古文復興

第二節 宗教改革

第三節 世間生活ノ獨立

近世思潮ノ幕明ケハ古文復興 Renaissance 宗教改革 Reformation 及ビ俗生活ノ獨立 Secularisation ヲ以テ著シキモノトシ、自然ノ尊重ハ其ノ總ベテヲ貫通セリ。
世近

初期ノ著シキ事實ニハ活字ノ發明アリ、亞米利加ノ發見アリ。

第一節 古文復興

羅馬教會ガ約千年ニ互リ、新歐羅巴人ニ高等ナル共同生活ヲ教ヘ、差別ノ思想ニ偏執セル野蠻人ニ、無差別普遍ノ思想ヲ練修セシメタル結果ハ、人民一般ノ道德經濟法律政治其ノ他一切ノ社會狀態ニ著シキ進歩ヲナサシメタリ。中世ノ終リニ及ンデハ、最早ヤ專制的獨斷的形式的ナル教會ノ媒介ヲ待タズ、自ら精銳ハカ進取ノ氣象ヲ以テ、直接ニ古代文明ノ跡ヲ踏ミ、其ノ研究方法ヲ襲用シ、外物界及ビ社會ノ自然並ビニ歴史ヲ研究シ得ルニ至ラシメタリ。就中此ノ活キタル氣風ハ、眞面目ナル心靈ノ修養、事實上經驗シタル普遍ノ根據ノ上ニ、精神ニ富ミ調和ヲ失ハザル美術ヲ創設セシメ、調和セル自然界ノ研究ニモ種種ノ著シキ發見ヲナサシメタリ。獨逸人「ニコラウス・コペルニクス」 Nikolaus Kopernicus 1473-1543 ガ天體ニ關スル發見ヲナシ、今日ノ天文學ノ基礎ヲ作りシモ亦此ノ時期ニ在リ。古文復興ハ相爭フテ歸スル所ナカリシ古學ノ復活ナリ。古學ノ復活ト共ニ

數多ノ矛盾反對セル學說アリテ其ノ適歸スルトコロヲ知ラザラシメタリ。然
 モ斯ノ如キハ却ツテ益其ノ偶然ヲ去リ、獨斷ヲ排シ、自然ノ眞面目ヲ研究シ得セ
 シメ、學問ノ進歩ヲ促ガサシメタリ。但シ此ノ複雑ナル思想場裏ニ在リテ悉皆
 ノ學者ニ通ジ、一切ノ人民ニ行キ互リテ動カスベカラザル意識ハ、各個人ノ自信
 ナリ。各自ガ其ノ内部ニ信賴セントスルノ意識ニ在リ。各個人ノ有スル知識
 ノ正當ナルコトノ信仰ト共ニ、懷疑論ハ、全然屏息セルコトニ在リキ。中世ハ「ア
 ウグステイヌス」ノ他力説ノ實現ニシテ、近世ハ同ジ「アウグステイヌス」ノ自力説ヲ以
 テ開始シタルモノトイヒ得ベシ。而シテ神學ヲ離脱シ哲學上之ヲ自覺ニ上セ
 タル者ハ、第十七世紀ノ「ルネーデカルト」 René Descartes (Cartesius) 1596-1650 ナリ。マ
 タ「神聖ナル自我ノ確證」ニヨリ自己ノ所説ヲ確守シテ異端罪ニ問ハレ焚殺セラ
 レタル者ハ、伊國ノ哲學者「ジョルダノブルノー」 Giordano Bruno 1548-1600 ナリ。「ブルノ
 」ハ基督教ノ獨斷ヲ離レテ古代並ビニ基督教中ニ藏セラルル汎神論ノ精神ヲ
 結晶セシメ、歐洲近世ノ汎神論ノ先祖ト爲リタル者ナリ。彼ハ元「ドミニカ」
 「デカルト」及ビ「ジョルダノブルノー」ハ大切ノ人也。基督教ヨリ得タル精神ニシテ、死シテモ構

ハマ氣象ハ近世ニ至ルマテ存ス。古代ノ終リニ殺サレテ喜ビシハ傳道者ノミナリシガ、中世
 以降ハ學問技術發見ニ志ス人人ニマテ推シ擴メラレタリ。

第二節 宗教改革

古文復興ニヨル各個人ノ自意識ノ發達ハ、實際上腐敗シ又形式化シタル教會
 ノ專制ヲ脱シ、其ノ獨斷ノ羈絆ヲ離レ、各自ノ自由證得ヲ重ンズル新教ヲ樹立セ
 シムルニ至レリ。其ノ結果ハ、宗教生活ノミナラズ國家生活並ビニ學問美術ノ
 生活ニ自由主義ヲ認メ、且舊羅馬教會ヲモ刺激シテ新生活ヲ爲サシムルコトト
 ナレリ。今宗教改革ノ主要ナル影響ヲ述ベン。

第一 宗教改革ハ古文復興ト相待チテ著シク宗教生活ト世間生活トハ間ヲ
 調和シ、此ノ世ニ於テ神國ヲ實現セシムルヲ以テ主タル目的ト爲セリ。此ノ點
 ハ新教ニ於テ殊ニ顯著ナリトス。

Martin Lu-
 ther (geb.
 1483)
 Johannes
 Calvin (geb.
 1509)
 Ulrich Zwi-
 ngli (geb.
 1484)

例ヘズ「ルター」 Luther 自身ハ率先シテ家族生活ヲ營メルガ如シ。是レ中世ニ於テ頭ヲ擧
 ゲテハ神ヲ望ミ、頭ヲ垂レテハ罪惡ヲ回想スルノ外餘念無カリシト、大ニ趣ヲ異ニスル所ナリ。

第二 中世ニ於テハ神ニ事フルニハ各自敬神ノ念ノ厚キヲ要求シタルノミ

ナラズ、必ズ教會僧侶ノ媒介ニヨルヲ要シ、人間間ニ存スル他力ニ信賴スルヲ以テ信仰ノ要件トナセリ。之ニ反シテ改革以後ハ全然各自ノ自力ニヨリテ「イエス」ト離レザル神ニ事フルコトヲ得、神ノ感得體得ハ一ニ各個人ノ自由事業タルニ至レリ。

第三 宗教改革ハ國家ヲシテ全然羅馬教會ノ教權ヨリ獨立セシメ。國家ヲ以テ決シテ教會ノ下ニ立チ其ノ用ヲ爲スベキモノニ非ズト認メシメ。同時ニ國家ヲシテ教會ノ教理ヲ奪取シテ自家ノ法理ト爲シ、教會ノ制度ヲ持チ來リテ自家ノ制度ト爲サシメタリ。即チ寺院ノ權カハ神授ノモノナリト主張セラレタル中世ノ教會説ニ模倣シテ、國家コソ王國ヨリ侯國ニ至ルマデ悉ク神意ニ基ヅキ存スルモノナリト説明セラレ、國君ハ皆神授ノ權カヲ有スル者ト信ゼラレタリ。神ヨリ授ケラレタル神ノ權カナリトマデニハ行カズ、神ヨリ得タリ。ル君主ノ特權ナリト考ヘ、君主ヲ國權ノ主體ト見ル傾向ナリキ。其ノ上獨立シタル國家ハ僧門統括制ヲ採用シテ自己内部ノ外部的組成ヲ完成シ、教會法寺院ヲ奪フテ國法ノ一部ト爲シ、羅馬教會ノ專制的侵略主義專制的統一主義ヲ學ビテ國內ヲ統一シ外國ニ干涉スルニ至レリ。出世間ノ法理並ビニ政策

ガ宗教改革ト共ニ一轉シテ世間ノ法理並ビニ政策ニ化シタルモノニ外ナラズ。

近世ニナレバ教會、寺院、基督教ト離レテ國家ヲ研究シ得ベシト考フルハ大ナル間違ナリ。中世ノ形式精神ヲ其ノ儘俗世間生活ニ採納セシモノナレバナリ。

第三節 世間生活ノ獨立

近世ハ出世間的獨立ナル教會ノ普遍主義ノ打破ト共ニ始マレリ。然レドモ實際上永ク養成セラレタル信仰ハ、近世初期ニ在リテハ尙深ク人心ニ浸潤シ、普遍主義モ亦等シク生活ヲ支配セリ。故ニ近世ノ主義ハ個人主義ノ是認ニ始マリシガ、同時ニ國民生活ノ是認、人類生活ノ是認ヨリ起レリ。國民主義 Nationalism、人道主義 Humanism ハ、即チ個人主義 Individualism ト共ニ近世ノ題目ナリ。而シテ實行上之ヲ調和セント試ミテ成功セシモノハ、教會ニハ非ズシテ國家ナリ。君主ハ其ノ權勢ヲ中心トシテ國民ヲ範圍ト爲ス統一的ノ團體ヲ作り、一方ニハ其ノ内部ニ於ケル不自然ナル小團體及ビ階級ヲ排除シ、直接ニ各人民ヲ保護シ、他方ニハ外國ト競争シテ優勝ヲ得ント期待セリ。之ヲ近世ノ專制君

權國トナス。地上ノ國家ハ最早ヤ獨斷的形式的ナル教會ヲ離レ、獨立シテ神國ヲ實現セシメ得ルノ時期ニ達シタリシナリ。

第一 近世ノ社會生活ハ國家專制主義殊ニ君權專制主義ヲ以テ始マレリ。當時ノ君主大諸侯ハ專制ノ方針ヲ採リテ其ノ國家ヲ確立セリ。而シテ學者トシテ之ヲ是認シ獎勵シタル者ニハ、伊太利ノ「ニコロ、マキアヴェルリ」Nicolo Machiavelli 1469-1527 アリ、佛國ノ「ジャン、ボードン」Jean Bodin 1530-1596 アリ、夫ノ「ルーテル」ノ如キモ君權神授ヲ是認セリ。

第二 然レドモ之ト相併ビテ制限君權主義及ビ民權主義ニヨリ、個人性ヲ發揮セント圖リタルコトモ、亦已ニ第十六世紀ニ見得ル所ナリ。「カルヴン」Jean Calvin 教徒即チ改メ教會ノ全部及ビ「ルーテル」派ノ一部分ハ君權ノ制限ヲ必要トナシ、尙民權主義及ビ共產主義ヲ唱導スル者ヲ輩出セシメタリ。英國ノ「トーマス、モールズ」Thomas Morus 1487-1535 ハ一五二六年ニ「ウートピア」Utopia ヲ著ハシ、共同所有ヲ唱へ、遂ニ死刑ニ處セラレ、佛國人「ユーベナ、ランゲ」Hubert Languef 1518-1581 英國人「ジョージ、ブチャナン」George Buchanan 1506-1582 「リチャード、フーカー」Richard Hooker 1533-1600 ハ民

又 Suarez ア

約論者ニシテ、君民ノ契約ニ重キヲ置ク者ナリ。就中羅馬教會ノ革新ト共ニ起リ、其ノ忠僕タル「イエズイート」Jesuit 講社ハ舉ツテ君權主義ニ反對セリ。其ノ中學者トシテ掲クベキ者ニハ「ジャン、マリアーナ」Juan Mariana 1536-1623 アリ、彼ハ第十六世紀ノ終リニ君主論ヲ著ハシ、自然状態ヲ基礎トセル民約論殊ニ社會契約論ヲ唱ヘタリ。伊太利ノ「イエズイート」ナル「ロベルト、ベラルミン」Robert Bellarmin 1542-1601 民權論者トシテ知ラルル者ナリ。

宗教改革者中ニ於テモ其ノ俗權ニ對スル見解ハ一様ナラズ。「ルーテル」ハ諸侯ノ後援ヲ得テ其ノ改革ノ目的ヲ達シ、其ノ所説ニ於テモ、王侯ハ神命ヲ受ケテ神ハ民ヲ統治スルモハハルコトヲ認メ、其ノ有スル權力ニ裏書シタリ。故ニ其ノ教ハ君權國ニ於テ歡迎セラレツツアリ。然ルニ「カルヴン」ハ「ジュネヴァ」市民ノ贊同ヲ得、自ラ神權政治ヲ行ヒ、王侯ハ有スル俗權ノ制限並ニ之ニ對スル信者ノ自由ヲ主張セリ。(教權ヲ有セシ彼自身ハ專制的ナリ、其ノ教會ノ組織モ長老主義ヲ執レリ) 其ノ教ハ夫故、其ノ當時君權專制確定時代ナリシ佛國ニ於テ繁榮スル能ハズ、此ノ國ヲ超エテ個人ノ自由ト獨立獨歩ヲ主義トスル和蘭地方ニ根ヲ張り、移ツテ「スコットランド」ニ入レリ。「イングラランド」ニ於テハ、英國王ヲ戴ク自己在來ノ教會(英國國立教會ナリ)ヲ有シタレバ、主トシテ其ノ專制ト弊害トニ不服ナリシ「スコットランド」人ヲ動カシ、遂所謂清教徒 Puritans ヲ生セシメタルナリ。是等ノ人人ハヤガテ本國ノ抑壓ニ堪ヘカネテ「アメリカ」ニ

移住シ、此ノ所ニ於テ信仰ノ自由ヲ樂シミシガ、遂ニ此ノ信仰ニ根據シ當時西洋人ノ理想ト信
シ正義ト考ヘタル國家契約説ヲ實行シ純粹ノ民權國ヲ設立シタリ。(信仰無キ建國ニ非ズ、清
教徒ノ信仰ガ基礎トナリ、民約説ヲ理想トシテナセル建國ナリ)此ノ北米合衆國ノ建國ハ著シ
ク先進國民ヲ以テ自ラ許セシ佛蘭西人ヲ刺激シ彼等ヲシテ革命ニ向ツテ急進セシメタリ、
エネヅア市ノ「カルヴン」ハ、歐米人ニ大ナル影響ヲ與ヘタリ。

第四章 第十七世紀第十八世紀ノ思潮 (自然法全盛時代)

目次

- 第一節 概論
- 第二節 第十七世紀(立系時代)
- 第三節 第十八世紀(啓蒙時代)

第一節 概論

近世ノ文明ハ信仰ヲ鍊修シタル中世ノ基礎ノ上ニ發達スルコトヲ得タレド

モ、餘リニ專制的干涉的獨斷的ニシテ、極端ニ自然人事ヲ輕蔑シタル反動トシテ、
中世ノ形式並ビニ思想及ビ信仰ニ反對シツツ建設セラレントシタルモノナリ。
羅馬教及ビ中世的出世間ノ專制ヲ破碎シテ、基督教各宗派ノ獨立及ビ世間生活
並ビニ學問ノ獨立ヲ企テタルモノナリ。新歐羅巴人ガ永キ間教會ノ訓練ヲ受
ケタルダケ一層急速ニ還俗シ、教會ノ專制ガ極端且、不道理ナリシホド、愈々熾ナ
ル勢ヲ以テ舊式ヲ擊破セリ。第十六世紀ニ存セシ全部並ビニ獨斷的宗教ノ思
想ハ第十七世紀ノ識者間ニハ最早ヤ片影ダモ止メズ、第十八世紀ニ跨リ、單純明
瞭ナル個人主義トナリ、知識主義トナリ、自然主義トナリ、所謂自然法説ノ全盛時
代トナリシモノナリ。

俗事ニ關スル嗜好ハ急進シ、何事ニ關セズ苟クモ俗ノ字ヲ以テ形容セラルル
事項ハ大小トナク社會ヲ支配スルニ至レリ。俗事ノ中心點ハ佛國ナリ。俗世界
ヲ研究スル近世ノ法律學及ビ國家學モ皆第十六第十七世紀ノ間ニ生誕セリ。
是等ノ學者ハ已ニ羅馬教ノ獨斷的神學ニ根據シテ其ノ敷衍ヲ事トセズ。各人
ハ内部ニ存スル悟性Verstandニ對性Vernunftニ根據シ、論理ニヨリテ之ヲ排列セリ。

佛敎哲理
三十三頁
以下國家
起原

神意ハ認定法ヲ説明スルノ根據ト爲ラズ、自然人生及ビ是等ノ認識ヲ根據トシテ論述シタルガ、外物ノ認識ニツキテ、次第ニ實驗ノ價值ガ認めラレ、終ニ精神現象ノ講究ニモ推シ及ボサルルノ地盤ヲ作り、第十七世紀ノ終リニハ認識論ノ基礎ヲ立テシメ、第十八世紀ノ後半ニ至リテハ「カント」ノ認識論ヲ大成セシメタリ。

「デカルト」ヨリ「ロック」「ロック」「ライブ」「レヒツ」「バーク」「ペリクレー」「ベークレー」在リ。

然レドモ社會生活ノ研究ニツキテハ、尙ホ實驗ニ重キヲ置クコトナク、思辨的ニシテ、第十八世紀ノ終リマデハ、獨斷的ナル自然法學說流行ノ時代ナリ。社會及ビ君民ノ契約說ハ、國家法律學ノ獨斷的基礎ト爲リ、之ヲ不動ノ正理ト看做シ、テ一切ヲ論議セリ。此ノ獨斷的契約說ノ根本タル意識ハ、個人主義ノ是認ニ在リ。各個人ノ本來自來ノ一分子ニ非ズシテ、夫レ夫レ獨立全部者ナリ。國家ハ各個人ノ目的ノ爲ニ其ノ自由ニ作成セラレタルモノニシテ、各個人ニ後レテ存在スルニ至リシモノナリ。國家ガ本ニ非ラズシテ、個人カ本ナリ。自我ノ爲ニ國家ガ存在スナセリ。

宗教上ハ、獨斷ニ換フルニ知識上ハ、獨斷ヲ以テセリ。「カント」ノ如キスラ民約論ヲ唱ヘテ居

社會ノ商人

眞空ノ反對

レドモ其ノ基礎ガ正當ナラズ。

西洋近世ノ文明特ニ今日ハ文化ハ素町人ハ氣風ニヨリ改造セラレタルモノナリ。商人ハ勝利ト共ニ人ハ商人化セラレ、法制ハ悉ク商法化セラレタリ。此ノ影響ヲ受ケツツアル皇國モ日本古武士ノ氣風ハ消失シ、町人等ノ嗜好風習ガ自然ナリトシテ一般ニ歡迎セラレ。私利欲私ノ目的ヲ中心トスル根性が普及シツツアリ。公法ノ領域ニ於テサヘモ私法流ニ議論ヲ立テザレバ法律的議論ニ非ズト思惟スルガ如キハ其ノ基ク所茲ニ在リ。

當時ノ自然法說ノ思潮中ニハ二種ノ元素ヲ包含ス。一ハ消極的の元素ニシテ、他ハ積極的の元素ナリ。消極的の元素トハ、基督教ノ神學的世界觀ヲ離レ、獨立シテ自由ニ思索セシコトニシテ、積極的の元素トハ、契約ヲ獨斷シ、各自偶然ノ想ヒツキヲ出發點トシテ、國家法律ハ一切ヲ説明セントセシコトナリ。各個人ハ自己自由ノ意思ニヨリ國家ニ服従スルコトヲ明示的又ハ默示的ニ承認セルガ故ニ、國權ニ服従スルノ義務ヲ生ゼシモノナリトセリ。此ノ時代ハ各個人ハ敎會ノ專制ヲ脱シタルト共ニ、一ト先ツ小個人ノ獨斷及ビ個人專制ヲ神聖ナルモノト信シタルナリ。自然法說ノ前驅ハ第十六世紀「ラングエ」Langue 1518-1551 等ナリ。

第二節 第十七世紀 (立系時代)

目次

- 第一款 概説
- 第二款 各學説
 - 第一 「アルトージウス」
 - 第二 「グロテウス」
 - 第三 「ホップス」
 - 第四 「スピノザ」
 - 第五 「プーフェンドルフ」
 - 第六 「ロック」
 - 第七 「ライプニッツ」

第一款 概説

中世羅馬心教
會人自心
仰ヨリ自然
界ニ出テ
然リトナレ
便トナレ

第十七世紀ハ過渡時代ヲ承ケ、各自ノ思想ニ付キ、ヨリ思想ノ系統ヲ立テ、其空
 反對ナリ、日本今日ノ法律學問ヲ以テ自然界ヲ征服シ、個人ノ神タル所以ヲ證明
 ノ學問モ此ノ傾向アリ。學問ヲ以テ自然界ヲ征服シ、個人ノ神タル所以ヲ證明
 セントセシ、初期ナリ。其ノ學語ハ羅甸文ニシテ、其ノ研究ハ宇宙一般ヲ對象ト
 爲シ、其ノ見出サントスル學理ハ宇宙自然ノ真理ナリ。而シテ分析研究ハ先ヅ
 外界ニツキテ行ハレ、元素及ビ其ノ相互ノ關係ヲ支配スル因果關係ノ知識ハ次
 第二社會ニ關スル原子論ニ勢力ヲ附與シ、此ノ世紀ノ後半ヨリハ、之ト共ニ實驗
 的研究ガ着着進歩セリ。此ノ種ノ研究ガ社會ノ學問上ニ準用セラレタル結果、
 國家社會ヲ分析シテ得タルモノハ物質上ノ原子ニ當ルベキ個人ナリ。各個人
 ノ自信、自我ノ自意識ヲ中心トシテ出發シタル學問ハ、研究ノ結果、更ニ各個人(即
 チ個我)ヲ以テ唯一最終ノ單位ト看做スコトトナリ、個人個我ノ已惚レハ其ノ絶
 頂ニ達シタリ。而シテ君主モ亦獨立ノ個人トシテ、其ノ自信ニ基ヅキ、自信アル
 無數ノ個人ヲ統括シ、之ヲ強制スルモノナリトセリ。非ズ、獨立人ナリ。是ニ
 於テカ之ニ對シテ種種ノ評論ヲ試ムルニ至リ、其ノ形式ハ申合セタルガ如ク契
 約説ヲ用キタルガ契約ノ效果ニツキテハ極端ヨリ極端マデ異ナリ、其ノ何レニ

責任ハ其ノ
自由全體
個人全體
之ヲ免ル
能ハズ
之ヲ免ル
能ハズ
之ヲ免ル
能ハズ
之ヲ免ル
能ハズ

附録 新歐羅巴人 第四章 第十七世紀第十
八世紀ノ思潮 第二節 第十七世紀 各學說
據ル、心、キカヲ知ラザラシメタリ。

第二款、各學說

此ノ世紀ニ一般哲理ヲ討究シタル學者ニシテ特ニ留意スベキ人ニハ、英ノフ
ランシス「フーコン」Francis Bacon 1561- 及ビ佛國ノ「ルネー・デカルト」René Descartes
(Renatus Cartesius) 1596- アリ。「フーコン」ハ論理學ノ泰斗ニシテ、現今ニ至ルマデ、近
世ヲ貫キ、テ、彼ノ實利主義、倫理主義ノ下ニアリ。「デカルト」ハ分析ニヨリ自明ナ
ル根據ヲ「自我ノ意識」ニ求メ、(Cogito ergo sum) 純理論ヲ唱へ、外界ノ機械論ヲ説キ、
近世哲學ノ系統ヲ組織シ、其ノ祖ト爲レリ。形而上學的ニ認識論ノ 其他英ノ
「トーマス・ホブズ」Thomas Hobbes 「ジョン・ロック」John Locke 和ノ「バルック、デスピノザ」
Baruch Despinosa 獨ノ「ゴットフリート・ライブニッツ」Gottfried Leibnitz 等ハ法學上ノ
ミナラズ、一般哲理ノ變遷發達ニ重要ナル地位ヲ占ム。今次ギニハ當時ノ國家
法律論ニ關シテ有名ナル學者並ビニ其ノ意向ノ大要ヲ略記スルニ止メン。
「ペーコン」ト「デカルト」ハ兩大關ナリ。後者ハ派手テナク「スウェーデン」Sweden 王ノ處ニテ客

又 Baco

兩者ノ人格
ノ比較
「デカルト」
ハ心物ノ相
對立スルニ
元論ヲ唱
フ

死セルガ前者ハ派手ニシテ賄賂ナドヲ取リシタメ失策セリ。考モ相對立シテ今日ニ及ブ。

第一 「ヨハネス、アルトヴァージウス」Johannes

Althusius (獨) 1557-

「アルトヴァージウス」ハ法學神學及ビ哲學ヲ修メテ、遂ニ人道主義 Humanismus ノ精
神ヲ體得セシ者ナリ。其ノ法學ニツキテハ差別的ナル羅馬法ニ歸シ、神學ニツ
キテハ「カルヴン」Calvin 宗ニ屬シ、哲學ニツキテハ希臘古代殊ニ「アリストテレ
ス」ニ據レリ。人道主義ヲ重ズルト共ニ、獨斷專制ナル羅馬教會及ビ其ノ普遍
主義ヲ否認シ、専ラ論理及ビ主理的倫理ヲ所依トセリ。其ノ思想ニハ深ミハ無
ケレドモ、論理的透明ナル頭腦ハ能ク民權的民約說ニ巧妙ナル體裁ヲ與ヘタリ。
民約ヲ分析シテ社會契約ヲ主トシ、統治契約ヲ從トセシモ、彼ニ始マレリ。

人民ガ共ニ社會ヲナストノ契約ト、君主ヲ戴クノ契約トハ別ナリトセリ。統治契約ノ方ハ
第二段ノモノニテ破リ得ルトセリ。

第二 「フーゴー・グロテウス」Hugo Grotius

附録 新歐羅巴人 第四章 第十七世紀第十
八世紀ノ思潮 第二節 第十七世紀 各學說

Aristoteles
Caulvin

(de Groot) (和) 1583-1645

Hippias
Aristoteles
Glauco
Cantwin

希臘啓蒙時代ノ詭辯論者「ヒッピアス」及「アリストテレーヌ」並ビニ「ストア」哲學ノ影響ヲ受ケ、且「キケロ」ノ哲學、羅馬法學ノ研究ニヨリ、又前世紀ニ「ジエネツァ」Geneve (Genf) ヨリ起リ和蘭ヲ動カシタル「カルヴヰン」宗ノ思想ノ下ニ民權主義、自然法說、殊ニ人性法說ヲ唱へ、人性法說ハ「ヒッピアス」アリスレタリ。人道主義ト共ニ國際的生活ヲ要求セリ。彼ノ法理論ハ人民契約ヨリ始マレリ。民約說ハ既ニ「グロテ」ウス」以前ニ存セシガ、彼ノ論ハ穩健ニシテ且精神ノ活キタル點ニ於テ大ナル勢力ヲ得、其ノ國家說倫理觀ハ近世ヲ通ジテ永ク其ノ生命ヲ持續セリ。其ノ說ニ曰ク「人ハ共同生活ヲ爲スベキ性質ヲ有ス。此ハ内部ノ要求ガ相互ヲシテ契約ヲ結バシメ、國家法ヲ設定セシメタルモノナリ。故ニ國家ハ權利ノ共有ト一般ノ利益トヲ目的トスル個人ノ自由團結ナリト」。

第三 「トーマス、ホッブス」 Thomas Hobbes (英) 1588-1679

Epicurus

「ホッブス」ハ近世ノ原子論唯物論ノ祖ニシテ、又實證論 Positivismus ノ遠祖ナリ。力學トシテ、國家學法律學ヲ解決セントセシコトハ彼ノ活眼ヲ具ヘタルヲ證スルモノナリ。彼ハ古代詭辯論者ノ自然法學說ヲ採リ、且「エピクローヌ」及ビ其ノ快樂說ノ影響ヲ受ケタリ。曰ク人性素ト惡利己心アルノミ、故ニ自然ノ狀態ニ於テハ、各人ニ對スル各人ハ爭鬪 Bellum omnium contra omnes アルハミ。此ノ苦患ヲ脱センガ爲ニ相約シテ國家狀態ヲ開始セリ。併シ民約ノ結果ハ各個人天賦ハ權利ヲ絶對ニ君主ニ讓渡シタルモノナリト。サレバ彼ハ國權萬能主義即チ國家專制主義ヲ主張シ、君主ノ權力ノ犯スベカラザルコトヲ認メ (Hobbesianismus) 「君主即チ國家ガ唯自ラ反省シテ合理的政策ヲ採ルノ外ナキモノトシ、之ニヨリ合理主義ニ歸著スベキモノナルコトヲ要求セリ。曰ク認定法ハ此ノ君主即チ國家ノ命令ナルガ故ニ絶對ノ效力ヲ有スルモノナリ、唯理法タルガ故ニ強制力ヲ有スルモノニアラズト。認定法命「ホッブス」ノ說ハ當時隆盛ヲ極メタル民權論ト相併ビテ永ク歸依者ヲ有シ、殊ニ各國ノ君主ニ立憲國ノ法理ニ於テ兩極端ノ說ガ融合スルコトヲ得タリシナリ。

其ノ當時ニテハ極メテ正當ノ說ナリ。民權論ノ大ニ盛ンナルトキニ言ヘルモノニテ、第二
十世紀ノ時代ヲ以テ考ヘテハナラヌ。獨乙帝國ヤ亞米利加合衆國ノ約束ニテ出來タルガ如
シ。約束シテ出來タルドモ各州ハ最高ノ立法權ヲ拋棄シタルモノナリ。

Benedictus
de Spinoza
又ハ Baruch
Despinoza

第四 「バルック、デスピノザ」 Baruch Despinoza

(和) 1632-1677、ムステルダム「Amsterdam」ニ生ル、西班牙
猶太人ナリ、異端者トシテ猶太教會ヲ逐ハル。
Baruchハ「ヘブライ」語ナリ、ラテン語ニ譯
シテ Benedictus トイヒ、Benedict ト畧稱ス。

情緒慾性ハ
哲理的是認
之ヲ大規模
ニ法制上是
認セシハ第
十四世紀ナ

「スピノザ」Spinozaハ「ストア」及「ビョルダノ、ブルノー」ノ思想ニ對シ汎神論ヲ唱導
シ、同一哲學 Identitätsphilosophie ヲ主張セリ。心ト物トハ唯一ナル本體ノ兩方面ナ
ルコトヲイフモノナリ。從ツテ彼ハ外界ノ機械觀ヲ採リテ精神界ニ應用セン
トセリ。其ノ國家論ニツキテハ又民約說ヲ唱ヘ、「ホッブス」ニ反對シテ自由主義ヲ
以テ結論トナシ、其ノ生活モ亦著シク異ナレリ。唯不屈不撓ノ確信ヲ以テ自己
ノ學說ヲ枉ゲザリシ點ニ至リテハ共通ナリ。

皆偶然ヲ本トスル故ニ正反對トナル。「ホッブス」ハ政府ニ用非ラレ、スピノザハ眼鏡屋ナリ。
猶太人ナルニ關ハラズ、「ハイデルベルヒ」ノ大學ヨリ聘セラレシガ頑トシテ赴カザリキ。

第五 「ザムエル、フアン、ブーフエンドルフ」

Samuel von Pufendorf (獨) 1632-1694

「ブーフエンドルフ」ハ「グロタイウス」及「ビ、ホッブス」ノ說ヲ巧ミニ折衷シテ民約說ヲ立
テ、國權統一權力集中ノ必要ヲ是認セシ獨逸ノ官學者ナリ。

第六 「ジョン、ロック」 John Locke (英) 1632-1704

「ロック」ハ個人ノ認識能力ヲ研究シ、知識ノ凡テ後天的 a posteriori ナルコトヲ論ジ、
實驗ガ悉皆ノ知識ノ唯一ノ淵源ナルコトヲ主張セリ。從ツテ其ノ國家法律論
ニ於テ採用シタル民的說ヲ辯護シテ民約ヲ以テ歷史上ノ事實ナリトセリ。而
シテ英國ノ現狀ヲ標準トシテ述べタル國家制度論ガ、後日佛國人「モンテスキュー」
Montesquieu ノ三權分立論ノ基礎ヲ爲シタルコトハ人ノ知ルトコロナリ。

第七 「ゴットフリード、ウァルヘルム、フアン、ライ

「ライプニッツ」 Gottfried W. von Leibnitz (獨) 1646-1716

祖逸哲學ノ
ベト稱シ得

Platon
Aristoteles
Melancthon

三台ノ一念
華嚴ノ多
相容不同ノ
唯識論ノ
種子

「ライプニッツ」ハ殊ニ哲學及ビ數學ニ於テ有名ナレドモ、近世ニ於ケル最モ多方
面ノ學者ノ一人トシテ、學問ノ總ベテノ領域ニ亘リテ功蹟ヲ立テタリ、先ヅ法律
學ヨリ入り、政治家及ビ外交家トシテモ活動セシ人ナリ。法律ハ實際家トシテハ
就中、神學ハ新舊兩教ヲ兼テ、新學、物理學、法學、政治學、哲學及ビ神學ニ通達セリ。
彼ハ外界ノ機械觀ト「プラトーン」及ビ「アリストテレース」ノ目的論ヲ結合セシ
メ、又新教ノ神學ト舊教ノ神學ト哲學トヲ合一セシメタル者ナリ。「メランヒト
ーン」Melancthonノ研究ハ此ノ點ニツキテ彼ニ影響セリ。彼ハ唯心論者ニシテ、
「ブルノー」ニ次ギ單子論 Monadologieノ主唱者ナリ。對シテ「一元論」ニ反「モナ
ド」Monad 精神的原子ナリ、故ニ自動的自發的トハ獨立自存ノ主體タル、單一的精
神體ヲイフ。即チ精神的單子ナリ。佛敎唯識論ノ種子(佛哲三六七頁以下)華嚴ノ一天台
相容不同ノ理(同上)「モナード」ハ無數アリ豫定調和 Prastabilir Harmonieニヨリ
四三八頁以下)參照「モナード」ハ無數アリ豫定調和 Prastabilir Harmonieニヨリ
融合調和ス。各個人モ亦小宇宙ニシテ、各獨立シ、自存スル自主體ナリ。此ハ自

Sloan
Ulpianus
Grotius

Montes-
quieu

存ニ基ヅキ有スル真正ナル權利ノ主張ヲ調和スルモノガ認定法ナリ。故ニ法
律學ハ權利ノ學問ナリ。茲ニ於テカ法律學ハ正義ノ學「ストア」ウルピアヌス「グ
ロテウス」參照ヨリ、權利ノ學トナリ、在來ノ義務本位ノ學ハ轉ジテ權利本位ノ學
問トナレリ。之ト同時ニ各個人ハ獨立自存ノ主體ナレドモ、其ノ權利ノ主張ニ
ハ豫メ存スル調和ノ法則アリ。唯物論者ハ「ホッブス」ハ國家法律ヲ力學ニヨリ專
制的ニ説キタルガ、唯心論者タル「ライプニッツ」ハ「モナード」各自ガ己ニ具備スル豫
定調和ニヨル力ノ關係ニ基ヅキテ、國家法律ヲ説明セントセシ者ナリ。「ルーツ
」殊ニ「カント」參照 而シテ彼ハ極力「ロック」ガ主張セシ當時ノ純經驗論ニ反對シ
テ、主理論 Rationalismus 純理論又呼アヘタルガ「カント」ノ道德論參照法學研究ノ
方法ニツキテモ始メテ歴史的比较的研究ノ必要ヲ論ジタリ。(モンテスキュー「參
照) 彼ガ獨斷偏見ニ甘ンジタル者ニ非ザルコト、其ノ包容的ナルコト、推シテ知
ルベシ。

以上諸學者ノ外ニ自然現象ノ研究ニツキテハ、伊國ニ「ガリレオ、ガリレイ」Gal-
ileo Galilei 1564-1642 自然ヲ眞面目ニ分析研究ス。爲ニ教在リ。 埃國ニ「ヨゼフ、ケ
ー

ブレール Joseph Kepler 1571-1630 天體調和ニ關スル「ピタゴラス」及在リ。佛國ニ「ピエール・ガッサンディ」Pierre Gassendi 1593-1655 「ペーロン」ノ崇拜者ニシテ在リ。英國ニ「アイザック・ニュートン」1642-1727 在リ。「ニュートン」ニ「ペーロン」ノ研究方法ヲ襲用シ實驗ヲ主トシテ自然ヲ研究セシ者ナリ。而シテ第十七世紀ハ其ハ後半ヨリ實驗科學ハ研究ニ移リ始メタリ。

「オリヴァー・クロムウェル」Oliver Cromwell 1599-1658 此ノ頃ナリ、歐洲ニテ制度上ノ先進國タル英國當時ノ狀況ヲ回想シ得ベシ。「ジョン・ミルトン」John Milton 1608-1674 亦此ノ世紀ニ屬ス。

第三節 第十八世紀 (啓蒙 Aufklärung 時代)

目次

- 第一款 概説
- 第二款 各學説
- 第一 「ウチルフ」
- 第二 「フリードリッヒ」大王

Ephoros
enlighten-
ment
emanation-
tion intel-
lectuelle

此ノ時代ハ
一ノ干渉的
二ノ獨斷的
三ノ專制的
四ノ排他的
五ノ排他的
六ノ排他的
七ノ排他的
八ノ排他的
九ノ排他的
十ノ排他的

第一款 概説

第十八世紀ニ至リテモ、宗教トシテ人間ノ中心トセシ基督教ハ、ソノ頃輕視セラレツツアリシニモ拘ハラズ、自ラ尙思潮最後ノ根柢タリ。而シテ此ノ世紀ニ至リテハ、益々主我的トナリ、個人ノ自信及自由ヲ中心トシテ、其ハ文明各自ノ幸福ハ増進ヲ唯一ノ目的トセリ。各個人ノミナラズ、國家モ亦各個人ノ幸福ヲ終局ノ目的ト爲スニ至リシガ、前世紀以來ノ國家專制ト個人專制トハ二元對立ハ益々甚ダシキヲ致サシメタリ。此ノ點ニ於テモ亦中世的ナリ。而シテ此ノ二ツノ專制ノ衝突ハ例ヘバ佛國革命 F. Revolution ヲ生ゼシメタリ。

耶蘇教ガ已ニ二元的ナリ。神ト世界トノ對立ナリ。中世モ二元的ナリ、教會ト俗界トノ對立ナリ。新歐羅巴人ノ思潮略説 第四章 第十七世紀第十 第三節 第十八世紀 概説 六一九

矛盾ヲ根本
義トシ之ニ
ヨリ發達ス
ル所ナリ

幸福ニツキ
テハ人民本
位ノ絶頂

權力ニツキ
テハ專制的

立ナリ。其ノ形式ハソノ儘テナクモ近世ノ初メヨリ佛國革命マテ存在セリ。國家ハ獨斷
的ニセントシ人民モ獨斷的ニセントシ互ニ獨斷的排他的自己的ナリ。白キモ黒キモ各人ガ
獨斷ニテ自由ニ定メントシ國家ト人民トノ睨ミ合ナリ。第十九世紀ニ至ツテ此ノ二元形
式ハ國家ト社會トノ對立トシテ繼續セリ。

近世ノ專制國家ハ前世紀マデニ國家君主ノ爲ニ外部ニ對シテ自己ヲ主張シ
ツツ其ノ内部統一ノ難事ヲ完了シ全然其ノ權力ヲ確立シ得タリ。人道主義ト
個人主義トノ唱ヘラレタル事實上ハ調和ハ國民國別主義ヲ完成セシメタリ。
第十八世紀ニ於ケル是等ノ國家ハ其ノ人民ノ幸福ノ爲ニ其ノ統一ハ下ニ立ツ
悉皆ハ人民ヲ率ヒテ腕力ノミナラズ政治經濟ハ各方面ニ亘リ相互ニ競争ヲ試
ムルコトトナレリ。狭小ナル眼界ニ於ケル個人又ハ團體ノ競争ニハ非ズシテ
人民一般ノ幸福ノ爲ニスルトコロハ各專制國相互ノ國際的競争ナリ。前世紀
努力ハ國家及ビ君主ノ爲ナリ。國君ハ人民ノ爲ニ人民ノ指導者ヲ以テ自任シ
キ此ノ度ノ國家及ビ君主ノ爲ナリ。國君ハ人民ノ爲ニ人民ノ指導者ヲ以テ自任シ
中世ノ羅馬教會ノ如ク大トナク小トナク有形トナク無形トナク人民ニ干涉シ
強制力ヲ用キテ人民ヲ教育シ經濟生活ヲ發達セシメ富國強兵ヲ計レリ。中世
ノ終ヨリ次第ニ大規模トナリ第十六七世終ニ榮エタル重商主義 Mercantilism

利益ハ人民
各個人ニ歸ス
力ハ專制者
ナレドモ此
ナリ

ハ實行上其ノ絶頂ニ達シタリ。而シテ歐洲大陸殊ニ普漏西埃太利ニ於テ模範
的ノ開明的專制主義 *angeklärter Despotismus* ノ國家ヲ見ルコトヲ得且獨埃ニ於テ
國家ハ目的ニ關ヘル幸福説ノ優勢ナリシハ此ノ時代ナリ。

第十八世紀ハ人民ノタメトイフ旗ヲ立テタリ。トイヒシガ普國
ノブリードリヒ大王ハ君主ハ第一ノ役人ニ過キズトイヘリ其ノ見方大ニ異ナル。何セヨ經
濟生活ヲ發達セネバナラヌ輸出ガ大切ナリ國チ富マサネバナラヌ教育モ仕ナケレバナラヌ
トイヒテ君主ガ專制的ニ干涉シ強制セリ。

然レドモ之ト同時ニ國君及ビ貴族ガ自己ノ爲ニ益國家專制ニ偏執セシ佛蘭
西ニ於テモ思想政治並ビニ國家制度ニ於テ最モ進歩セシ英吉利ニ於テモ重商
主義並ビニ之ニ伴フ保護貿易主義ニ反對シ自由放任ヲ唱フル者ヲ生ゼシメタ
リ。「クネー」*Quesnay* ヲ始メトシ所謂佛國重農論者 *Physiokraten* (重農主義 *Physio-*
kraisches System) 及ビ英國ノ「アダム・スミス」*Adam Smith* 等即チ是ナリ。彼等ハ皆
現今ノ科學的經濟學ノ確立者ナリ。社會ノ各階級ニ亘リ富ノ分配ヲシテ當ヲ
得セシメシコトハ彼等ノ殊ニ重シタル所ニシテ富ノ分配ニ關スル自然法ハ
熱心ニ研究シ始メラレタリ。就中「スミス」ハ此ノ方面ノ完成者ニシテ法律並ビ

「スピノザ」
ノ情緒是認
ニ對ス

ニ道徳ヲ是認シツツ其ノ範圍内ニ於ケル各個人ノ利益即チ利己ノ主張ヲ正當トシ之ヲ中心トスル各自ノ自由競争ヲ以テ社會國家ノ富ノ發達並ビニ一般ノ幸福ヲ到達セシムベキモノナリト主張セリ。

此ノ利慾ノ是認ハ「スピノザ」ガ人間ノ情緒ハ神聖ノモノナレバ善キ方ニ利用スベシトセシト同一ナリ。「トーマス・リード」Thomas Reidガ「スコットランド」Scotlandニ於テ信仰ヲ元トシテ出發セシト同時代ナリ。

而シテ政治法律ノ方面ニ於テモ個人ノ自由並ビニ自治ノ精神ハ或ハ「モンテスキュー」ノ三權分立論ニヨリ或ハ又「ルソー」ノ民權的ノ民約論ニヨリ益々完成セラレ「カント」ノ國家目的ニ關スル法律說ヲモ出ダサシメタリ。法治國並ビニ自治制度ノ差別的方面ノ基礎ハ殆ンド此ノ世紀ニ築キ上グラレタルモノナリ。而シテ國家ト社會トノ相對立スル意識モ亦漸ク著シキニ至レリ。

此ノ世紀ノ思想界ハ斯ノ如ク二元的ナレドモ其ノ大體ヲ見レバ各個人ガ統一セラレタル政治組織ノ下ニ國民トシテ著シク發達シ漸ク散文ハ自國語ヲ以テ著述スルコトトナリ且平易簡單ノ著作ガ最モ流行スルニ至レリ。此ノ時代

第十六世紀
以後ノ自然
說モ皆實行
シテ研究セ
ラレナリ

ハ哲學者ハ他人ノ教ニ從ヒ前人ノ經驗並ビニ研究ニ信賴スルコトヲ屑シトセズ此ノ反對ハ中世往々自己偶然ノ見解ヲ立テ獨斷ヲ惡ムコト蛇蝎ノ如クシテ反ツト自己ノ狭小ナル獨斷迷信ニ陥レリ。其ノ他或ハ人智ノ過當ニ深遠ナルコトヲ認メナガラ外部的實驗ノミニヨリテ之ヲ獲得シ得ベキモノナリト獨斷シ或ハ人智ヲ以テ正確トシナガラ知識ノ效力ヲ疑ヒ或ハ知識ノ制限境界ヲ見出サンガ爲ニ専ラ知識ノミヲ用キテ之ヲ判斷セント苦心シタリ。

要スルニ此ノ時代ノ學說ハ其ノ研究ニツキ如何ナル方針ヲ採レル者ニテモ一般ニ個人ノ自由獨立ヲ主旨トシ主理的根據ノ上ニ立チ概シテ功利的道德說ヲ旨トセリ。宗教道德ヲ始メ法律政治經濟ノ學モ亦此ノ支配ヲ脱セルモノニ非ズ。而シテ當時ノ平易ナル哲學說ハ單純ナル道樂仕事ニ非ズシテ之ニヨリテ皆互ニ先ヲ爭フテ學問及ビ社會ノ改造ヲ企圖シタルモノナリ。哲學ハ先セル大革命者ナリ。社會改造ノ最モ根本的ナル動力ナリ。其ノ所說ガ後代ニ影響セシ所誠ニ大ナリ。就中政治法律ノ世界ニ大變化ヲ與ヘタル大切ノ原因ヲ爲セシ者ハ佛人「モンテスキュー」及ビ「ルソー」ナリ。「モンテスキュー」ハ尙比較

研究ノ必要ヲ唱ヘ「ルソー」ハ又知識主義ノ打破ヲ試ミ、此ノ點ニ於テモ亦時代思潮變遷ノ前驅ヲナセシ者ナリ。而シテ近世初期以來ノ認識論ニ論決ヲ與ヘ、哲學思想ヲ統一大成シ、哲學上宏大ナル系統ヲ立テ根本ヨリ思潮ヲ轉ゼシメ、後世哲學研究者ハ必ズ通過セザルベカラザル關門トナリシ者ハ「イムマヌエル、カント」Immanuel Kantナリ。

第二款 各學說

此ノ時代ノ有名ナル學者トシテ列舉スベキ者ハ左ノ如シ。

一 英國「スコットランド」ノ哲學者ニ「シェフツズリー」Shaftesbury (A. A. Cooper) 1671-1713 Deist 即チ自然神論者(世界ヲ自己ノ力ニ從ヒ自ラ動クトスル論者。最早見物者タルニ過ギズシテ世界ハ自己ノ力ニ從ヒ自ラ動クトスル論者。最カ此ノ點ニ於テ「Heist」然シ神ハ宇宙世界ノ外部ニ超然存在スルアリ。カ故ニ此ノ點ニ於テ汎神論者ト異ナル)ニシテ、牛バLockeノ弟子ナリ。アリ。「バークレー」Berkeley (George) 1685-1753 認識上ノ主觀觀念論者ニアリ。「ヒューム」Hume (David) 1711-1776 懷疑論者。アリ。「リード」Reid (Thomas) 1710-1796 スコットランド常アリ。「ベンサム」Benham (Jeremy) 1748-1832 功利アリ。政治家ニ「バーク」Bur-

ke (Edmund) 1730-1797 歴史アリ。經濟學者ニ「スミス」Smith (Adam) 1723-1790「ス」派ノ先驅。アリ。經濟學者ニ「スミス」Smith (Adam) 1723-1790「ス」生ドニアリ、經濟學ヲ分析シテ個人ノ利益主張ヲ是認シ、之ヲ中心トシテ佛國ノ重農主義ニ鑑ミ經濟學ヲ完成セリ。利益ヲ是認スレドモ其ノ範圍ヲ自由ナル利己ノ發展ト其ノ競争トニヨリ社會及ビ國家又法律家ニ「ブラックストーン」Blackston (William) 1723-1780 アリ。

二 佛國ニ「モンテスキュー」Montesquieu (Charles de Secondat, Baron de Brède et de) 1689-1755 法律アリ。「ヴォルテール」Voltaire (François Marie) 1694-1778 文士。アリ。「ディドロ」Diderot (Denis) 1713-1784 文士ニシテ自然論者ナリシアリ。「ルソー」Roussseau (Jean Jacques) 1712-1788 文士。アリ。「コンテヤヤク」Condillac (Etienne Bonnot de Mably) 1715-1780 重農主義士哲學者。アリ。「コンドルセー」Condorcet (Marie Jean Antoine Nicolas Caritat) 1743-1794 實證論者、政治家ニシアリ。テD'Alembert, Turgot 後繼者ナリ。アリ。

併シ當時佛國ノ哲學者ハ概シテ自然哲學ノ研究者ナリ。即チ「ラメットリ」Lametrie (Julien Offroy de) 1709-1751 醫者アリ。「ボタニアン」Buffon (George Louis de) 1707-1788 植物學アリ。「ダランブール」D'Alembert (Jean de Rond) 1717-1783 有名ナ者。汎神論者。アリ。

論者アリ。「ラグランジ」Lagrange (Joseph Louis) 1736-1813 機械的地理天文數學者ニアリ。
「ラプラス」Laplace (Pierre Simon) 1749-1827 數學的天文觀者ニシテアリ。「テュルゴ」
Turgot (Anne Robert Jacques) 1727-1781 政治家學者ニアリ。又經濟學者ニハ「クエ
ネー」Quesnay (Francois) 1694-1774 自然主義の自由放任主義の重農主義論者ニシテ
ニ在リ。故ニ純産額ノ社會階級ニ分配アリ。老「ミラボー」Mirabeau 1715-1789 重
セラルル法則ヲ見出ダサントセリ。配アリ。老「ミラボー」Mirabeau 1715-1789 重
在リ。

三 獨逸ノ哲學者ニハ「トーマシウス」Thomasius (Christian) 1655-1728 獨逸ニ先
入ニ制度ノアリ。「ヴォルフ」Wolff (Christian) 1679-1754 數學的の原理論者ニシテ國
改新ニ盡ス。アリ。「ゾチル」Zotter (Christian) 1712-1786 Antimachiavelle 試ニサナシ
リ。「フリードリッヒ」大王 Friedrich der Grosse 1712-1786 Antimachiavelle 試ニサナシ
Nicolai (Christoph Friedrich) 1733-1811 アリ。「ハッマン」Hamann 1717-1788 試ニサナシ
アリ。「ヘルデル」Herder (Johann Gottfried) 1744-1803 アリ。「ヴスタロッチ」Pestalozzi
(Johann Heinrich) 1746-1827 アリ。「カント」Kant (Immanuel) 1724-1804 アリ。
四 尙當時伊國ノ哲學者ニハ「ヴィッコ」Vico (Giovanni Battista) 1668-1744 アリ。「ベ
カリア」Beccaria (Cesare Bonesano) 1735-1794 死刑廢止論ノ先驅ニシテ
功利主義ノ哲學者及ビ法政學者アリ。

何處マアモ
個人本位ナ
ナリ人民本位

五 米國ニハ「フランクリン」Franklin (Benjamin) 1706-1790 政治家アリ。
是ニ由リテ觀ルモ第十八世紀ニ於テ最モ自然論實證論ノ傾向ヲ帶ビ、人間内
部ノ意識ヲ輕視セシ者ハ佛人ニ多ク、主理的觀念の傾向ハ獨逸人ニ多シ而シ
テ思想ハ有ラユル方面ヲ包容スレドモ尙急進ニ陥ラズ且常ニ信仰ノ根柢ヲ保
持シタリシ國民ハ英國人ニ之ヲ見ル。今其ノ主要ナル學說ヲ左ニ述ベシ。

第一 「ゾチル」Christian Wolff (獨) 1679-1754

「ゾチル」ハ自然法ノ潮流ノ進ムニ伴ヒ生ジタル獨乙啓蒙時代ノ學說ノ中心點
ト爲リシ人ニシテ、其ノ思辨的學說ハ其ノ頃ノ獨逸ニ於テ公ノ教科的哲學トナ
リタリ。彼ハ「ライブニッツ」Livnitz 試ミタル者ナリ。彼ハ「アリストテレス」ニ遵ヒ、善
トハ各個人ノ體力及ビ意思ノ充分ナル發達ニ在リ、道德ハ個人ノ發達ヲナスコ
トヲ意味スルモノトナス。各所自ノ理性ノ發揚ヲ即チ神ニ在リ。故ニ各個人ハ自己ノ發
達ヲナスベキ義務ヲ有シ、夫ニツキ他人ヨリ妨ダラザル權利ヲ有セザルベカ
ラズ。此ハ各個人ノ權利ヲ確保シ、其ノ義務ヲ行ハシメ、各個人ノ充實發達ニ機

個人本位集合ノナ
レバ脱セズ
未ダ健全ナ
セル普遍ニ達

會ヲ與ヘ、且之ヲ助長スル者ハ國家ナリ。斯ノ如キハ國家ヲシテ人民ノ善福ヲ
圖ル爲ニ行政權カスル必要ノ存スル所以ニシテ、助長行政ヲナスハ國家ノ權利
ニシテ又義務ナリ。國政ハ總ベテ君主又ハ官吏ノ私利ノ爲ニスルモノニ非ズ。
人民各個人ノ利益ノ爲ニ集合的の道理。 Kollektive Vernunft ニ依リテナスベキモノ
ナリト。

要スルニ此ノ思想ハ人民各個人ノ發達ハ爲ニ集合的の道理ニ依ル國權ノ全能ト、
人民發達ハ方便手段トシテ國民ガ權カヲ行フ權利義務ヲ有スルコトヲ主張ス
ルモノナリ。彼ハ「グロテウス」Grociusノ人性說「スピノザ」Spinozaノ自由主義ト
「ホッブス」ノ國家萬能主義トヲ調和シテ之ヲ實行シ易カラシメントセシ者ナルガ、
此ノ主義ノ忠實ナル實行者トシテ著名ナルハ、所謂開明專制ノ君主タル普國ノ
「フリードリッヒ、ヅィルヘルム」二世 Friedrich Wilhelm I「フリードリッヒ」三世 Friedrich III
及ビ埃國ノ「マリア、テレジア」Maria Theresia「ヨゼフ」二世 Joseph IIナリ。佛國ニハ
明專制君主ナシ。「ナポレオン」一世ハ其ノ地位ニ當ル。

第二 「フリードリッヒ」大王 Friedrich II oder der

Grosse (獨) 1713-1786

「フリードリッヒ」大王ハ當時ノ開明の專制君主中最モ模範的ナルモノナリ。王ハ
「マキアヴェリ」主義 Machiavellismus ニ反對シ、國權ヲ強固ニスルコト夫自身ガ最
高ノ目的ニ非ズシテ、善福ハ實現、人民人格ハ完成、其ノ安寧ヲ圖ルハ手段タリト
ナス。民ノ富ハ國ハ富ナリ、民ノ發達ハ國ハ發達ナリ、民ハ本ニシテ國ハ其ハ結
果ナリ。故ニ君主ハ權カモ其ハ基礎ヲ人民ニ對スル義務ニ存ス。君主ハ原始
契約ニ基ヅキ人民ヨリ公ノ政權ヲ掌握シ政治ヲ行フコトヲ委托セラレタル者
ナリ。君主ハ役人ナリ、國家ニ於ケル第一ノ役人ナレドモ、國權ノ主體ニハ非ズ。
役人ハ私ノ生活ヲ爲スベキ者ニ非ズシテ、國家ノ爲ニ奉公スベキ者ナリ。奉公
ノ點ニツキハ君主モ其ノ以下ノ官吏モ同一ナリトス。

此ノ精神ニヨリ、王ハ國家ノ外部的組成ヲ改善シ、之ト共ニ開明的政治主義ヲ
シテ法制上ノ主義トシテ確定セシメタリ。而シテ普國等ノ開明專制 Aufgekla-

君主ヲ以テ
國家ノ機關
トナス、所
謂君主機關
キ表現リ君
相距離ヲ君
遠シルコト

機關ハ種用
ノ意ハ此
所ニテハ目
的ヲ有セザ
ル手ノ義ナ

ter Despotismus ニ先チ制度上遙カニ進歩シツツアリシモノハ英國ニシテ、英人トシテ其ノ制度、法、理ヲ分析セシ者ニハ、既ニ「ロック」Locke等アリ。佛人トシテ英國ノ政治主義及ビ制度ノ美ヲ讚嘆シ、人民各個ノ發達ト其ノ自由行動ノ保障セラレツツアルコト、英國ノ國家組成ガ能ク國王及ビ教會ヲシテ國民全部ノ爲ニ行動セシムルニ適シ、其ハ權勢ヲ私シ得ザルコトヲ説キタル者ニハ、詩人ニ「ヴォルテール」Voltaire 在リ、法律學者ニ「モンテスキュー」Montesquieu 在リ。

第三 「ヴォルテール」 Francois Marie Voltaire (佛) 1694-1778

「ヴォルテール」ハ佛國ノ文豪ナレドモ、思想ハ著實ニモ深遠ニモ宏大ニモ非ズシテ、啓蒙時代ノ標本ナリ。追放セラレテ英國ニ至リ「ニュートン」Newton「ロック」Locke等ノ影響ヲ受ケ自由主義ヲ主張シ、佛國ノ啓蒙思潮ヲ誘致セリ。後普國王「フリードリッヒ」大王ノ友トシテ彼ノ開明專制ヲ助ケタリ。世界ノ一人ト呼バル。

第四 「モンテスキュー」 Montesquieu (佛) 1689-1755

Aristoteles
Ishmita
既ニ比較研
究ノ必要ヲ
唱ヘタリ

「モンテスキュー」モ「ニュートン」「ロック」等ノ影響ヲ受ケ、自然說ヲ採リ、事物自然ノ性質ニ關係シテ認定法ヲ説カントセシ者ナルガ、研究方法ニ至リテハ各國ヲ旅行シテ材料ヲ蒐メ、比較ニ重キヲ置キタレバ比較法學ノ祖ニ推サレタリ。「アリストテレス」「羅馬」ストア「羅馬」法學參照)英國ノ自由主義ニ敬服シ、國家教會ノ專制ニ反對シ、英國ノ制度ヲ理想化シ、之ヲ讚嘆シテ三權分立論ヲ唱ヘ、特ニ米國及ビ獨逸諸國ニ至大ノ影響ヲ與ヘタリ。然モ佛國革命ニ採用セラレタルモノハ「モンテスキュー」ノ冷靜ナル理論ニハ非ズシテ「ルソー」ノ燃ユルガ如キ感情論ナリ。萬法精理 De l'esprit de loi 1749 ハ彼ノ最大ナル著述ナリ。其ノ爲ニ彼ハ二十年ノ歳月ヲ費セリトイフ。

第五 「ジャン・ジャック・ルソー」 Jean Jacques Rousseau (佛) 1712-1788

「ルソー」ハ民約論者ナリ。極端ナル民權主義ノ論者ナレドモ、彼ハ總意說ハ個人主義ヨリ、特ニ團體說又ハ全部說ニ轉化セントスル懸橋ナリト見ルコトヲ得、個人ノ自由獨立ヲ重シズルト共ニ、大ニ全部ニ留意スルモノトイハザル

支那老莊ノ自然狀態ノ佛儒者ノ阿含經ノ自然狀態ノ佛說參照ニ比較第五圖

ベカラズ。彼ハ感覺論及ビ唯物論ノ反對者ナリ。但シ彼ノ說ニテハ個人カ何處マデモ本ニシテ先キナリ。全部ハ後ニシテ同時ニ非ザルナリ。彼ハ惟ヘラク、自然状態ニ於テハ人民ハ皆自由平等ニシテ博愛ヲ主義トセリ。 (liberté, égalité, et fraternité.) 所ニ執著スルガ故ニ其ノ状態ガ破ラレ、破ラルルト共ニ争闘止ムコトナク、遂ニ相約シテ國家ヲ成シ人民ノ總意 Volonté générale ヲ生ズルニ至ルト。 [ホアプス]ノ自然状態ノ正反對。 (支那老莊及ビ儒者ノ自然状態、佛敎阿含經ノ自然状態說 九頁以下參照) 總意トハ全部ノ統一的意思ニシテ、個人ノ意思ハ漏レナキ加算ニハ非ズ。國權國法ハ此ノ總意ヲ本質トナシ、人民ハ其ノ當初ノ絶對ノ自由ヲ失フテ之ニ服従スルコトトナル。併シ各個人ハ總意ハ支配ハ下ニ立ツニモ關ハラズ、實ニ其ハ構成分子ナリ。故ニ結局自ラ己ヲ支配シツツアルモノニシテ、他人ハ強制ニヨリ、其ノ獨立自存ヲ害セラレツツアルモノニ非ズ。汎神論的感ジガ如何ニルソノ民約論ヲシテ他ト區別セシメツツアルカニ注意スベシ。
「ルト」トハ偉大ナルコト並ビニ其ハ特色ハ、彼ハ民約論ノ結構又ハ論理ハ運用ニハ非ズシテ皮想的知識ニ換フルニ深キ感ジヲ以テセントセシ點ニ在リ。

心持ガ主眼ナリト非ズ

彼ハ主理的思潮ヲ轉ジテ感ジノ思潮ニ移ラシメ、人類社會ニ理想的自由平等博愛ヲ實現セシメント欲シタル者ナリ。テ感ズベシト絶叫セリ。 論理ヨリテ引キ出シタル彼ノ結論ハ別トシテ、其ノ精神ニ於テハ萬世ノ模範ト爲スニ足ル。自由平等博愛ノ執レモ深キ感シ、内心ノ經驗ヲ忘却シ、徒ラニ淺薄卑近ニ解スル勿レ、彼ガ「徒ラニ小智慧ノ形式ニ偏執スルコトナク、感シテ主トセヨ」ト絶叫シ、行動カコトハ著シク獨逸其ノ他ノ歐羅巴第十九世紀前半ノ思想界ニ永ク乾燥無味淺薄ニシテ矛盾反對ヲ以テ充タサレタル形式的煩瑣ノ理窟ニ飽キタル佛國人ガ、其ノ感ジ易キ熱シ易キ性質ニヨリ「ルソー」ノ社會契約論 *du contrat social* 出版ヲ以テ經典ト爲シタルハ當然ノコトナリ。久シク且益劇甚トナリタル專制政治ニ飽キ、人民ノ自由主張ニツキ最モ世界ハ流行ニ後レ居タル佛國人ガ、元來世界ノ先達ト中心トヲ以テ自ラ任ジツツアル所以ニ背カザランガ爲ニ急進シテ「ルト」トハ說ヲ實行セシハ決シテ怪ムニ足ラズ。理窟ボキ「モンテスキュー」ノ學說ガ後日外國ヲ動カシタルニ反シテ、此ノ當時直チニ佛國人ヲ動カシタル者ノ「ルソー」ナリシコトハ毫モ偶然ニ非ズ。近世初期ヨリ第十八世紀ノ終リニ至ルマデ、枚舉ニ堪ヘ難キホドノ多數ノ自然法說モ民約論ノ理窟ヲ始メテ歐

「レソー」ハ其ノ大ナル格ニヨリ重ク、要ナルニ非ズ、其ノ大ナル影ヲ於テナシ、偉大ナルナ

洲ニ於テ、而モ其ノ中心ニ大規模ニ之ヲ實現セシメタル者ハ、活キタル感ジト靈筆ト有セシ「レソー」ナリシナリ。之ニヨリテ彼ハ世界ノ大偉人ト爲レリ。

「レソー」ノ論ハ、理的ナリ、其ノ強ミハ空理ニ非ズシテ、内部ノ感ジヲ主トセル點ニ在リ。「モンテスキュー」ノ論モ尙理想ヲ缺ケルモノニ非ズ、其ノ強ミハ空理ナラズシテ、比較研究ヲナシ英國ノ事實ヲ分析記載シタルコトニ在リ。感得ヲ主トナセシ「レソー」ノ說ハ佛國革命ノ旗標トナリ、事實ノ分析ヲ主トセシ「モンテスキュー」ノ結論ハ第十九世紀前半ノ立憲運動ニ穩健ナル調和ノ標準ヲ指示セリ。前者ハ熱情ニヨリ形式的ナル空理並ビニ不都合ニ固定セル制度ヲ一掃シテ、感シノ思潮ニ移ラシメ、後者ハ冷靜ナル憲法ノ制定ニ貢獻セリ。而シテ是等兩氏ノ理想ヲ躊躇スルコトナク、實行セシ先達ハ歴史ヲ有セザル米國ナリシナリ。

第六 「イマヌエル、カント」Immanuel Kant (獨)

1724-1804、スコットランド「ヨリ」ノ移住民ノ子孫トイフ。

「カント」ハ「ライブニッツ」Leibnitzト共ニ宏學ニシテ神學、哲學、倫論學、教育學、論理學、人類學、數學、物理學、地文學、金石學及ビ法理學等ヲ研究セリ、而シテ彼ノ哲學ハ近世哲學上最モ樞要ナル地位ヲ占ム。彼ノ法律論ハイフマデモナク、彼ノ哲學ハ基礎ト雖ルベカラズ、故ニ先ヅ極メテ簡單ニ彼ノ哲理論ヲ紹介シ、次ギテ法律

論ニ及バン。

第一 哲理論。「カント」ハ近世ニ入りテ發達シタル「ロック」「Locke」等ノ分析的經驗論ト、之ト對立シテ降ラザリシ「ライブニッツ」等ノ思辨的合理論トヲ調和シタリ。

彼ハ遠クハ「プラトーン」及ビ「アリストテレース」ニ得ル所多ク、近クハ「ニュウトン」Newtonノ物理學ヲモ修メ、又「ロック」以下「バークレー」「Berkeley」「ホーム」Hume等ノ分析的經驗論、唯象論 Phenomenalism 並ビニ懷疑論ヲ發達セシメ、其ノ長所ヲ採納シテ認識ノ要件ヲ明ラカニスルト同時ニ、又「ライブニッツ」「ウテルフ」「Wolff」等ノ合理論ノ主理ノ精神ニ會シ「リード」「Rid」及ビ「ルソー」「Rousseau」ノ影響ヲ受ケ、認識ノ限界要件原理並ビニ吾人ノ意識中ニ於ケル知識ノ地位ヲ明ラカニシ、人類ノ理性ヲ神聖視シタリ。彼ハ在來ノ合理論的形而上學即チ獨斷哲學 dogmatische Philosophieノ所說ニ盲從スルコトナク、其ノ唱ヘタル實在論 Realismusヲ是認セザリシガ、殊ニ個人内部ノ道德的意識ヲ根據トシテ理性ヲ是認シ、實利的ナル啓蒙思想ヲ擊退シタル者ナリ。

哲學ノ研究ハ先ヅ認識力ノ批判ヨリ始ムベシトスルコトガ「カント」ノ意見ナ

「アウケス」深キ感シテ照ス

リ。認識力ノ批判トハ、認識ノ可能不可能、可能ナリトセバ其ノ程度範圍、其ノ條件ノ吟味ナリ。此ノ吟味ヲナサザル哲學ハ、獨斷哲學ニシテ、之ヲ出發點トスル哲學ハ批判哲學、Kritische Philosophie ナリト。然モ此ノ批判ハ徒ラニ外部及び其經驗ヲ分析スルモノニ非ズシテ、吾人ガ先天的ニ具備スル理性及び其ノ作用ヲ分析シ精査スルコトニ歸着スルガ故ニ、又超絶哲學 transcendentaler Philosophie ト稱セラル。

彼ハ「純粹理性ノ批判」Kritik der reinen Vernunft 1781ニ於テ認識ノ範圍條件及び之ヲ支配スル原理ヲ討究シタリ。其ノ說ニ從ヘバ、認識ハ感覺ニヨリテ其ノ材料ヲ獲得スレドモ、其ノ材料ガ其ノ儘知識トナルニ非ズ、是等ヲ綜合シテ知識トナシ、學識トナスモハ、吾人純粹理性ノ先天的作用ニ外ナラズ。故ニ吾人ノ認識スル外界ハ現象ニシテ「外物自體」Ding an sichタル實在ニ非ズ、換言スレバ認識ノ對象ハ現象 Erscheinungニシテ吾人ハ先天作用ノ所産ニ外ナラズ。現象ニ對スル眞ノ實在ハ「外物自體」トシテ其ノ背後ニ存スレドモ、純粹理性ヲ以テシテハ到底之ヲ窺知スベキニ非ズ、知識ハ最早之ニ向ツテ、一步ヲモ進ムル能ハズ。是

外物自體
「カント」
ノ大問題
ト後
ナレリ

ニ於テハ、純粹理性ヲ以テ満足スルヲ得ズ、實踐理性ヲ以テ此ノ「外物自體」ト交渉セザルベカラズ。

「カント」ハ「外物自體」トイフ認識ヲ緣ズル或存在ヲ認ムルガ故ニ自ラ經驗的實在論 empirischer Realismusヲ唱フル者ナリトイヘリ。

吾人ノ世界ハ吾人ノ主觀ヲ通シタ世界ナリ。然レドモ何故ニソウイフコトヲ描カシムルカ分ラズ。「カント」ハ「外物自體」ガアリテ、吾人ヲ刺激シテ吾人ノ世界ヲ作ラシムルモノナリトイヘリ。人間ヲ離レテ此ノ世界アルモノニ非ズ、吾人ノ意識ニヨリテ存スレドモ先ヅ刺激スル外物自體ガ無クテハナラズ。然シ外物自體ノ何タルカハ人間ニハ到底認識シ得ラレヌモノトセリ。此ノ外物自體ノ緣ニ應ジテ吾人ガ經驗シテ所謂此ノ外界ヲ意識シ認識ストセリ。故ニ經驗的實在論トイヒタルナリ。

然シ之ト同時ニ彼ハ、吾人ガ「外物自體」ノ緣ズル所ニヨリ認識シツツアル世界並ビニ外物ヲ以テ、外物自體ニ非ズシテ吾人主觀ノ所産ニ外ナラズトナシ、自ラ呼ンデ批判的觀念論 kritischer Idealismus 又ハ先天的觀念論或ハ超絶的觀念論 transcendentaler Idealismus ナリトイヘリ。彼ハ又自ラ其ノ說ヲ呼稱シテ形式的觀念論 formaler Idealismus トイヘリ、蓋シ所謂自然外界ハ主觀先

天作用ノ所作ナレドモ、其ノ原料ハ不明ナル物自體ニシテ、其ノ刺激ニヨリ之ヲ細工スルモノガ主觀ナルノミ、故ニ觀念ハ唯、物自體ヲ形式的ニ組み立ツルニ止マル、モノナレバナリ。

我以外ニ物が實在ストイフ故實在論ナリ。但シ外界トシテ認識セラルル世界ハ人間ノPraxisニ持ツテオタル作用ニヨリ觀念スルモノニ外ナラズ。サレバ吾人ノ所謂世界ハ觀念ニ過ギザル故觀念論ナリ。獨斷テナク吟味セラレタル根據ノ上ニ立ツ故批判的觀念論ナリ。材料ヲ組成セシモノ故形式的觀念論ナリ。

彼ハ次ギデ其ノ「實踐理性ノ批判」Kritik der praktischen Vernunft 1788ニ於テ、意思ヲ主トスル實踐理性ガ、道德宗教ノ要件トシテ知識ノ要件タル純粹理性ノ上位ニ在ルコトヲ論ジ、道德學及ビ道德的神學ヲシテ知識ノ羈絆ヲ脱セシメ、是等ニ獨立不可侵ナル根柢ヲ附與シタリ。Primat der Willa 及 Prinat der praktischen Vernunft 之ト同時ニ實踐理性ハ直チニ入ツテ外物自體ト交通シ得ル超經驗的ノモノナレバ、純經驗的ナル利益幸福ハ上ニ在リ、福利ト一致スルト否トニ拘ハラズ、夫自身獨立シテ神聖ナリ。啓蒙時代ニ於テ旺盛ヲ極メシ道德ニ關スル幸福說功利說ハ彼ニヨリテ打破セラレタリ。而シテ彼ハ尙終リニ判斷力ノ批判「Kritik der Urteilskraft 1790ニ

各人ノ根柢ハ即チ外物自體其ノ儘ナリ
Platon「イデア」論ニ參照

活潑精神ヲ省
ミズ形式ノ論
ニ拘泥スルミ
ハ近來ノ風ナ
リ學ノ弊ナ

於テ美ノ判斷ヲ論ジ、實踐理性ト純粹理性トヲ調和スルモノハ美ニ在リトナシタリ。此ノ美ノ判斷論モ「シルレル」Schiller「シェリング」Schelling 以下「ワグネル」Wagner等ノ美ニ關スル思想ニ影響シタルモノナリ。然モ「カント」ガ其ノ後代ニ遺シタル問題ハ、彼ガ劃然ト分離シタル實踐理性ト純粹理性トヲ更ニ合一セシメ得ル方法ナキカ否カ、並ビニ「外物自體」ノ何物タルカトイフコトナリ。

第二 法律論。「カント」ノ國家法律論ハ、其ノ哲學論ニ於テ充分鍛鍊セラレタル深キ根據ヲ有スル實踐理性說ノ上ニ建設セラレタリ、從ツテ其ノ說明ノ形式ノ完全タルト否トヲ問ハズ活精神ヲ以テ充タサル。說明ノ形式ハ尙民約ニヨレドモ、彼ハ「ロック」其ノ他ノ民約論者ト異ナリ、事實上人民ガ契約シタリト主張スル者ニ非ズシテ、斯ノ如キ形式ニヨリ説明スルコトガ理性ノ要求ニ協フトスルニ止マル。「カント」後ノ民約論者ハ最早決シテ彼ノ範圍ヲ超エテ歷史上ノ事實タル民約ヲ主張スル者ナシ。例ヘバ「フキヒテ」Fichte「シェー」Schopenhauer等。

「カント」ハ各個人ガ理性ノ主體タルコトヲ前提セリ。(vernünftiges Wesen) 各人ハ皆實踐理性 praktische Vernunft ヲ具有シ、其ノ命令ニヨリ自己ノ意思發動ニ對ス

Rousseau
Herakleitos
Jesus
Augustinus

此ノ精神ハ
普遍我ノ表
現者トシテ
有スル各自
ノ規律心ヲ
合スルニ
ルナ義ニ合
スル

深キ内心ノ
命令ナルガ

己ノ實踐理性ニ基ヅキ自己ニ對シ自由ニ立法スベキ者ナリ。外部ノ神國「アウグラス」ノ自カ他カノ調和説參照。但シ理性ノ命令トシテハ、各自ガ或特定ノ場合ニ限リテ自己ニ有效ナル格率ヲ設定スルノミニテハ不足ナリ、各自一人ノミニ都合ヨキ規律心ヲ設定スルコトヲ以テ充分トセズ、必ズ一切人ニ通ジテ有效ナルベキ規律心タルベキコトヲ要求スルナリ。「カント」ハ「汝ノ意思ノ格率ガ常ニ普遍的立法トシテ何人ニモ妥當スルガ如ク行動セヨ」トイヘリ。換言スレバ自ラ個人ノ地位ニ立ツモ他人ガ自己ノ地位ニ立ツモ共ニ有效ナルベキ規律心ナラザルベカラズ、又自己ノ規律心トシテモ、他人ノ規律心トシテモ、自己並ビニ他人ガ一樣ニ準據シ得ベキ性質ノモノナラザルベカラズ。規律心格率ノハタダ一人ニ對シテモ存シ得ベシ、然シ「一切人ノ意思發動ニ有效ナル規律心即チ普遍的格率ハ即チ命令ナリ。此ノ命令ニシテ、理窟福利等ヨリ獨立シ、何等ノ條件モ理由モナク唯實踐理性ノ命令ナルガ故ニ之ヲ守ラザルベカラズトスルモノナリ、即チ無上命令」カトシテ言 Kathgorischer Imperativ ナリ。此ノ

故ニ理由ノ
有無利益ノ
如何ヲ問フ
ズ之ヲ遵守
ス「ストア」
精神ナリ

責任心ハ外
物自得ト交
渉シ格ト可
想的性格ヲ
ヨリ内部分
ル眞實ナリ
理窟ニ非ズ

無上命令ハ道德ノ根源ニシテ又認定法ノ實質的根柢ナリ。(ストア)主義參照

在來ハ契約ノ事實ヲ根據トシテ、各人ガ各人ニ對シテ拘束セラルル所以トナシタル「カント」ハ之ヲ轉倒シテ、實踐理性ニ基キ道德律ニ服從スベキ要求ニヨリ、各人ノ各人ニ對スル義務ヲ生ズルモノトシ、契約ハ之ヲ説明スルノ必要ニ外ナラズトセリ。
「ヘーラクライトス」トイヒ方ガ異ナレリ、ヘーラクライトスニヨレバ自然ノ大法ハ立派ノ人間ヲ通シテ現ハレテ來ルトセリ。賢人ノ大精神中ニ大法ガ顯現ストイフナリ。

「カント」ハ各人ノ實踐理性トシテ具有スル責任心ヲ以テ各自ノ意思ノ自由ノ認識的根據ナリトシ、是ニヨリ人格ノ自由ノ可想的性格タル我 Das Ich 認メシモノニシテ、先ヅ知識ニヨリ自由在ルコトヲ論證シテ後ニ責任心ノ合理的ナルコトヲ論述セシ者ニ非ズ。合理不合理ニ拘ラズ神聖ニシテ何人ニモ通スル責任心在リ、自己ノ行為ヲ是非シ自己ノ行動ヲ規律スル自己ノ命令ニ從フベキモノトスル感ジ在リ。故ニ自由在リ、自由ナル我在ルヲ許サザルヲ得ザルナリ。國家法律ハ各個人ガ一樣ニ有スル此ノ責任心此ノ自由ニ基ヅキ、普遍的ニ有效ナルガ如クニ自由ニ自己ヲ規律セントスル要求ヲ助成保障センガ爲ニ設定セラレルモノナリ。故ニ樂天的自由 無上命令ニ從フ自己ノ規律ハ自己一人ノミ

何人格者ハ如
具於其場
任心ノ實
ズ其ノ有
ベキ自由
ルキニ由
サテラズ

各自内部
本體ノ心
同シク各
ニ於テ見
合ノ見ル
ガ故ニ契
リテ明ス

ナラズ萬人ニ通ジデ一樣ニ有效ナルベキ規律力タラザルベカラズ故ニ萬人ノ
力ヲ合成シテ之ヲ確定シ之ヲ遂行セシムル必要アリ。是實ニ自由ナル獨立人
ガ手段ニ非ズシテ夫自身目的タル人格者ナルニモ拘ハラズ國家ノ權力及ビ其
ハ認定法ノ下ニ立ツ所以ナリ。而シテ本來不羈獨立自由ナル各個人ガ他ノ拘
束ノ下ニ立チ其ノ自由ヲ制限セラレ獨立ナラザルニ至ルコトハ本來各個人ハ
意思ノ合致在ルモノトナサザルヘカラズ。自ラ己ヲ制限シ之ニヨリ反ツテ眞
ノ自由ナル我ヲ發揚センガ爲ニ元元一般ノ民約在ルモノト説明セザルヲ得ザ
ルベシ。「カント」ガ自我ヲ見テ普遍我ヲ見ズ獨立單純我ノミヲ認メテ出發シタ
ル結果ハ其ノ活キタル無上命令ヲ貫徹スル爲ニ如何ニ苦心セシカラ察スルヲ
得ベシ。各個我ガ本來ノ一心同體トシテ數ニヨリ相互ノ内部ニ在ル品質ノ發
揚ヲ保障セラレベキモノタルコト。各個我ガ其ノ内部ノ品質ヲ外部ノ數トシ
テ實現スベキ性質ヲ以テ生マレタルコト即チ普遍我ノ表現人タル方面ヲ達觀
スルトキハ「カント」其ノ他ノ契約說論者ノ言ハント欲シテ言ヒ得ザリシ根柢ヲ
容易ニ明ラカニナシ得ベシ。(佛教三寶論「イエス」ノ神國「アウグスティヌス」ノ他力

論參照

「カント」ハ個人ニ重キヲ置キテ出發セリ。普遍我ヲ個人ト同時ニ認メザリキ。各個人ガ本
來一體タルコトヲ知レバ契約說ヲ持チ來ルノ要ナシ。然ラザル故ニ各人ヲ纏メルニ契約ア
リト曰ハネバナラヌデアアル。各人ハ本來合一スル者ナルコトヲ言ハント欲スルナレド當
初ヨリ個個ニ獨立シテ居ルト思ヒ込テ居ルカラ契約在リイハネバナラヌ譯トナル。

此ノ論法當然ノ結果トシテ彼ハ各個人ノ團結ヲ擴張シ各國ヲ統括セル一大
國ヲ作り永久ノ平和ヲ計ラント主張セシガ。又國家ヲ以テ認定法ヲ確定シ之
ヲ維持發達セシムルハ任務ヲ有スルニ止マルモノトナシ此ノ範圍ヲ超エテ人
民各個ノ自由ヲ拘束シ其ノ精神狀態ニ立チ入ラントスルハ國家ノ目的以外ノ
行動ナリト論ゼリ。「ツタルフ」等ノ說。即チ國家ノ目的ニツキテハ法律說ニシテ
夜番說ノ渾名ヲ得タルモノナリ。彼ハ獨逸ニ於テ此ノ重點ニツキ自由主

人民ヲ形式的權力ヲ強力ニテ外部ヨリ教育スベキモノニ非ズトノ說ナリ。「ツタルフ」ハ人民
ノ爲ニスルノナラ何デモカテモ國家ノ權力ヲ以テヤレトイフ人民ノ爲ニ人民ノ力ニテ人民
ガ爲スノテナク國家ヲ通シテ人民ノ爲ニ爲セトイフガ開明專制時代ノ幸福說ナリ。「カント」
ノハ國家ハ人民ヲシテ自力ニテ爲サシメヨトイフニ在リ。

Wolf

「ストア」ノ
觀人生觀道德

第三 結論。要スルニ「カント」ハ、近世ニ入りテ益々發達シタル個人ノ自意識、其ノ自信ノ限界ヲ明ラカニセシト共ニ、哲學上個人ノ真正ナル價值ヲ確定シ、其ノ認識論ニヨリ在來ノ客觀的自然界ヲ轉ジテ主觀的觀念界トナサシメ、希臘時代思ハ外ニ在ルト。其ノ道德論ニヨリ機械的因果的ノ世界ヲ轉ジテ責任心ヲ中心トスル自由生活ト爲サシメ、「ストア」又在來契約ノ事實ヲ根據トシテ、各人ノ各人ニ對スル拘束及ビ責任ヲ説キタルコトヲ顛倒シテ、無上命令及ビ責任心ヲ本ト爲サシメ、其ノ法律論ニヨリ外部的他動的ノ世界ヲ轉ジテ内部的自動的ノ世界ト爲シタル者ナリ。第十八世紀第十九世紀ノ界ニアル彼ノ感得ハ、古代中世ノ界ニ於ケル「アウグスティヌス」ガ汎神論者ニ非ズシテ尙超越神論ヲ信ジタルガ如ク「カント」ハ尙各個人ヲ中心トシ、決シテ普遍我或ハ其ノ上ノ絕對我ヲ中心トスル者ニ非ズ。又心識一元論ニモ非ズ。心識ト外物自體トヲ相對立セシムル二元論ナリシナリ。

「アウグスティヌス」モ其ノ出發點ノ嚴格ニ哲學的ナルニ似ズ、遂ニハ外部ニ神等ノ實在ヲ是認セリ。

「カント」ハ
深キヨリモ
廣シトイフ

龍樹ハ矛盾反對スル各方面ノ思想ヲ其ノ偉大ナル精神ニヨリテ統一シ、中道論ヲ主唱シ眞空ヲ達觀シテ、大乘佛敎中興ノ祖トナレリ。「アウグスティヌス」ハ其ノ深キ心持ニヨリ古代ニ於ケル基督教ノ神學並ニ信仰ヲ統一大成シテ後代基督教ノ關門トナレリ。之ト等シク「カント」ハ近來唱道セラレタル一切ノ哲理ヲ其ノ緻密ナル頭腦ニヨリ廣大ナル系統中ニ取リ纏メテ之ヲ第十九世紀以後ニ引キ渡シタリ。彼ノ後、哲理ヲ談セントスル者ハ必ズ先ツ彼ノ思想ニ入ラザルベカラズシテ、少クモ第十九世紀ノ獨逸哲學者ハ一人トシテ彼ノ影響ノ下ニ立タザル者ナシ。タダ彼ヲ推感スルノ範圍程度方向ニ至ツテハ、各異ルコト言テ待タズ。

「カント」以後哲學上ノ一疑題トナリタルハ、外物自體ノ有無及ビ其ノ性質ナリ。外物自體ノ存在スルトカ存在セズトカイフコトモ、孰モ吾人ノ意識ニヨリテイフコトナレバ、吾人ノ意識吾人ノ作用ヲ離レテ果シテ外物自體ナルモノガ存スルヲ斷言シ得ベキカ。嚴格ニ知識ノ形式ハ範圍内ニ止マレバ、其ノ存在ヲ認メタクナル。然シ人格全體ノ根柢ヲ以テ外界ヲ思惟シ、意思及ビ感情ハ各方面ノ要求ヲ統括シテ、考フルトキハ、到底主客觀ノ合一ニ重キヲ置ク觀念論ニ歸着セネバナラヌ。觀念論中ニテモ意志ノ經驗ニ重キヲ置ケバ自由觀念論ニ傾キ、感覺的經驗ニ深ケレバ客觀觀念論ニ近ヅクガ實ハ此ノ雙方ヲ統括スル表現汎神論又ハ主客觀觀念論ヲナケレバナラヌ。若シ人格全體ヲ率テ研究スルコトナク、知識ノ經驗ノミニ拘ハリ外界ヲ分析セントスレバ實證論ニ陥ルベシ。實證論ハ狭少ニシテ觀念論ヲ容ルルノ餘地無ケレドモ、觀念論ハ實證論ヲ排斥セザルヲ得タダ實證論主義ガ偏狹ニシテ要領ヲ盡サザルコトヲ破スルノミ。

第五章 第十九世紀ノ思潮 (歷史的分析時代)

目次

- 第一節 概論
- 第二節 學說ノ系統

第一節 概論

目次

- 第一款 第十九世紀ノ前半
 - 第一 歷史的研究
 - 第二 感想的的研究
 - 第三 全部的研究
 - 第四 神學及ビ教會ノ復興
 - 第五 立憲制度ノ確定

第二款 第十九世紀ノ後半

- 第一 實證論ノ全盛及ビ進化論ノ普及
- 第二 社會學ノ興起及ビ社會ノ要求
- 第三 國內公法學ノ發達
- 第四 國際關係國際法學ノ發達及ビ國民主義ノ興隆

第一款 第十九世紀ノ前半

第十八世紀ノ後半ニ於テ、次第ニ兆シ、ツツアリシ、感想的思潮ハ、主理的思潮ノ反動トシテ、第十九世紀ノ初葉ヲ支配セリ。之ト同時ニ、獨リ人智ニ依賴セントシテ、爲シタル大失敗ハ、認識論ノ發達ニ伴フ經驗ノ價值ノ確定ト共ニ、歷史的研究ヲ勃興セシメ、個人主義ニヨル社會ノ組成並ビニ研究ノ蹉躓ハ、全部主義團體主義ニ傾カシムルコトトナリ。各自ノ獨斷ガ相互ニ衝突シ、不成功ニ終リタルコトハ、一方ニ於テハ、吟味セラレタル根據アル意識ヲ基礎トシテ學問ヲ建設スルコトトナリ、他方ニ於テハ、他力及ビ宗教ノ再興ヲ促ガサシメタリ。是等ノ新

思潮ハ希臘ノ哲學美術ヲ更ニ新ナル眼光ヲ以テ盛ンニ研究セシメ希臘以前及
ビ印度哲學ニモ留意セシムルコトナリ東洋流ノ神秘主義ヲ帶ビタル新プラ
トーン學派並ビニ信仰ト普遍トヲ生命トスル中世教會主義ハ第十七八世紀ノ
淺薄輕浮ナル思潮ニ對シテ更ニ重要ナルモノト看做サレタリ。此ノ思潮ハ殊
盛ンナリ。

第十九世紀ノ前半ニ當リテハ近世ノ初メニ於テ地球並ビニ自然界ノ研究ニ
忙殺セラレシト全ク趣ヲ異ニシ人間個人ノ内部ノ分析ヲ主トセリ。近世ノ初
メヨリハ個人ハ自意識ヲ中心トシテ出發シタルガ尙外界タル自然ノ對立ヲ認
メ不可解ナル個人ヲ明瞭ノモノト獨斷シテ其ノ明智ニヨリ自然法ヲ觀破シ其
ノ明鏡ニ自然法ソノママヲ映出セシメントセリ。第一ノ佛國革命ヲ以テ終リ
「カント」ヲ經テ始マリタル第十九世紀ノ前半ハ全然主觀的ノ世界ニシテ此ノ神
妙神秘ナル小宇宙エヲ社會ノ歷史並ビニ大宇宙ニ照シテ分析セントセシモノ
ナリ。古代ノ神秘說汎神論ノ再興セラレ更ニ自信ヲ以テ大成セラレタルハ深
キ理由ヲ存ス。此ノ點ニ付キ最も重要ナル地位ヲ占ムル者ハ「フキヒテ」^{Plato}及ビ「ヘーゲル」^{Hegel}等ナリ。

近世ハ個人個人ト騷ガガ個人ノ何タルカノ研究ハ尙出來テ居ラザリキ。「カント」ノ意ニヨ
ルモ外物自體ト吾人ノ作用トハ對立シテ居ル。「ロック」ノ如キハ人ノ智トハ外物が鏡ニ映ルガ
如キモノト考ヘタリ。今日ハ古キ考ナレドモ尙日本ニ此ノ種ノ考チ有スル人多シ。第十九
世紀ニ至リテ外界モ皆我ニ入りテ居ルトフイニ至リタリ「フキヒテ」ノ觀念論ニヨレバ絕對我が
我ニ在ルトセリ。第十九世紀ノ汎神論ハ「カント」ノ認識論ヲ通リテ其ノ上ニ出デントセシモ
ノナリ。

是等ノ思潮ト近世初期以來ノ思潮トガ融合シテ結ビタル世間的果實ハ即チ
統一セラレタル國權ヲ有スレドモ專制主義ニ依ラザル立憲的國家ナリ。又個
人ノ自由獨立ヲ尊重スレドモ專制的個人ヲ認メザル立憲的國家ナリ。曩ニ絶
エズ矛盾反對シツツ終ニ革命ヲモ生ゼシメタル二個ノ專制ガ一段高キ憲法政
治ニヨリテ統括セラレタルニ至リ。其ノ他自然必至ト人間精神ノ自由ト主觀
的的要求ト歴史的事實トノ到處調和シ難ク見エタル矛盾ハ發達ノ事實並ビニ
自覺ニヨリテ解決セラレタリ。此ノ大ナル自覺ハ特ニ「ヘーゲル」ニ於テ著シ。
以後ノ社會個人並ビニ自然ヲ研究スル者ハ一人トシテ發達ヲ主トセザル者ナ
ク有機的研究歴史的研究分析的研究內在的研究ハ即チ之ト離ルベカラザル所

ノモノナリ。

第十九世紀ニ入りテ經驗ヲ離レテ仕事ヲ爲ス者ナク、歴史的分析的ニ研究セザル者ナシ、之ヲ離レタルガ如ク見ユル研究ニテモ皆之ト連絡シテ離レルコトナシ。始メニハ形式的外部ヲ歴史的二分析セシガ次第ニ精神ノ内部ヲ歴史的二分析スルニ至レリ。

第一 歴史的研究

維新運動

第十九世紀ト共ニ復古運動 Restoration 運動開始セラレ、啓蒙思想ノ理窟ニヨリ、一概ニ排斥セラレタル歴史的事實、既往ノ思想及ビ歴史的制度ノ再建並ビニ研究ヲ事トセリ。第十八世紀ノ末ニ起リタル革命 Revolution ハ時ト處トニ於ケル第一事實 Die erste Thatssache ヲ反省セズ、第一事實正當ノ原理 Princip der Legitimität der ersten Thatssache ニ氣付カズ、濫リニ歴史ヲ離レ、單純ナル小理窟ニ依リ之ヲ實行セントセシモノナリ。革命ハ小智慧ヲ振フテ早速ノ論結ヲ得ルト共ニ之ヲ自然法 Naturrecht ト認定シ、直チニ之ヲ學問ハミナラズ、國家社會ニ移サントセリ。即チ小智慧ノ專制ナリ。然ルニ革命ハ終ニ失敗ニ歸シ、其ノ結果第一事實ノ力

Aristoteles
ノ革命論參照

的況神的內在

Aristoteles
ノ War-
sozialleh-
re 參照

ハ人間ノ小智慧ヨリモ、遙カニ強大ナル根據ヲ以テ存在シツツアルコトヲ悟ラシメ、其ノ第一事實ヲ包容スル一層高等ナル大智ニ依ルハ必要ヲ感ゼシメタリ。サレバ法制風俗ヨリ文學美術ニ至ルマデ、革命ニヨリテ破壊セラレタル所ヲ再興シ、復古セントスル維新運動ト爲リ、何レモ歴史ヲ研究シテ之ト離レズニ、且其ノ内ニ存在スル理法ニヨリテノミ發達セシメラルベキモノトセリ。眞理ニ永久不易ノモノナシ。眞理ハ皆歴史ニヨリテ支配セラレ、其ノ内ニ存在スル關係的眞理ナリ。學問ノ職分トスルトコロハ、歴史ニヨリテ與ヘラレタル事實自身ヲ研究シ、其ノ意義ヲ明ラカニスルニ在ルノミ。第十九世紀以後ハ重大ナル研究ハ、其ノ如何ナル學派ニ屬スルヲ問ハズ、人類ノ歴史及ビ經驗ヨリ離レテ絕對ニ之ニ超越スル理法ヲ求めメントスル者無シ。是レ殊ニ注意スベキトコロナリ。故ニ觀念論ト實驗派又ハ歴史派ト相對立セシメテ相容レザルモノハ、如何ク分類スルコトハ少クモ第十九世紀以後ニハ適用シ難シ。

第二 感性的研究

又 Ekstasis

第十九世紀ノ前半ニハ、特ニ獨逸小理窟ニ非ザル人心ノ根柢ニ潜メラル。感想ヲ完成シ、之ヲ感想ノ形ニ於テ相交換セントセシ思潮アリ。故ニ全ク廢シ居タル新プラトーン派ノ心身忘脱 Ekstase ノ價值ハ漸ク認メラレ「プラトーン」ノ理想觀念 Idea ノ精神モ初メテ價值アルモノトナレリ。是ニ於テカ人格ノ價ハ論理的頭腦窟窟ニ達シタルコトニ非ズシテ、感想ニ在リ、思想ノ根柢的ナルコトニ在リトセラレ、總ジテ文學ガ哲理ヨリモ先導者トナリ、皆社會ノ制度、風俗、思想ノ改造ヲ以テ其ノ任務トナセリ。此ノ傾向ノ最モ著シカリシ獨逸中ニ於テ其ノ中心ト爲リシ者ハ「ゴーター」Goethe 1748-1832 及「シルレル」Schiller 1759-1805 ナリ。「フーテ」ハ汎神論者ニシテ「シルレル」ハ寧ロ自由觀念論者ナリ。

此ノ方向ハ所謂「ローマン主義」Romanticismus (Romanik) ヲ興サシメタリ。此ノ主義ハ近世ノ輕浮ナル小智慧主義ニモ、然ノミナラズ古代ノ主智的思潮ニモ飽キ足ラズ、寧ロ中世ノ基督教趣味ニ安立セントスル「シムレーゲル」Fr. von Schlegel 1773-1839 「ノヴァリス」Novalis 1772-1801 等ノ一派ノ奉ゼシ所ナリ。

第三 全部的研究

第十九世紀ノ前半ニ於テハ第十七世紀第十八世紀ニ於テ機械觀及ビ原子論ヲ主トセシニ反シテ、有機的觀察生物的研究方法ヲ用キ、全部的、統一的、有機的觀察ヲ爲セリ。歴史的世界ニ於ケル總ベテノ事物ハ生物及ビ其ノ部分ニ類ス。故ニ自然ニ客觀的ニ統一的全部ヲ成スモノニシテ、各個人ガ其ノ目的ニ從ツテ人爲ニ作リタルモノニ非ズ。又神ガ目的ヲ以テ自然法ニ準ジテ外部ヨリ機械的ニ作リシモノニモ非ズ。事物ハ皆自己ノ内部ニ備ハレル自然ニヨリテ自ら發達成長變遷スベキモノナリ。事物自身ガ神ナリ。神自身ハ自然ナリ。自然ハ神ノ顯現ナリ、即チ汎神論ナリ。

Theismus ヨリ Deismus ナ生シ遂ニ Pantheismus 及 Propantheismus トナル。

サレバ美術家及ビ詩人ハ素ヨリ學者モ政治家モ法律家モ皆事物ノ外部ニ眞理ヲ求めメントスルコトナク、一方ニ於テハ自己ノ内心ニ立チ歸リテ靜慮熟考スルヲ要スルト共ニ他方ニ於テハ必ず外部ノ自然事物中ニ具ハレル理法ヲ慮

自然ガ有機體ナルニ非ズ、
自己ニ有ル之ヲ實現セシメ
メテシテシテメ
成リテメ
實立ルメ
成アリメ
人ガ有機體ナリ

心平氣ニ研究シ其ノ事物ヲシテ自ラ己ヲ發揚セシメザルベカラズ。美術文學モ法律制度モ共ニ作ラルルモノニ非ズ考へ出ダサルモノニ非ズ成長スルモノナリ。發達スルモノナリ。是等ノモノハ之ニ預ル人ノ才能ニヨルモノナリ。其ノ能力ガ或ハ文學美術法制等ト爲リテ外部ニ現ハルルニ外ナラズ。併シ社會ニ於ケル各個人ノ能力ハ外部ヨリ人爲的ニ作ラレタルモノニ非ズ。其ノ内部ノ要求ニヨリテ發達スルモノナリ。從ツテ以上各種ノ事物モ各個人ノ發達ト共ニ自ラ成長スルモノナリ。例ヘバ言語ハ發明セラレタル結果存在スルモノニ非ズシテ自ラ社會ニ於テ發達スルモノナリ。宗教モ然リ社會國家法律モ皆然リ憲法モ亦然ルベシ。神聖ナル憲法モ皆自然ニ成長シタルモノナラザルベカラス。「カント」ニ由リ自覺セラレタル主觀的世界ハ益其ノ内部ニ統括スル客觀的方面ノ客觀的研究ノ必要ヲ意識セシメタルモノトイフベシ。而シテ自己ヲ通シテ所謂自己ニ對スル自然界ヲ存在セシメツツアル以上ハ自己ガ統一體タル所トナサザルベカラズ。是等汎神論者トシテ著名ナル者ニ「ヘーゲル」Ho-

gel 1770-「シリング」Schelling 1775-「クラウゼ」Krause 1781-等ニシテ「ヘーゲル」クラウゼ」ハ又法理學ヲ研究セシ者ナリ。又此ノ頃ノ歴史法學者トシテ掲グベキ者ニ「ザヴ・ヒー」Savigny 1779-「アイヒホルン」Eichhorn 1816-等アリ。宇宙ハ統一のカ有機的カ分ラマゲ統一的ハ吾人ヲ通シテ存スル限リ宇宙ヲ統一的ノモノト見ルコトハ正シ。

第四 神學及ビ教會ノ復興

各個人ハ元自力ニ依リテ生活シ思惟スルモノニ非ズ。各人ハ皆相待ツテ人間ノ事業ヲ分擔スルガ故ニ自己ノ事業以外ノコトニツキテハ専門家ニ信頼セザルベカラズ。教會ハ歴史上動カザル信仰ノ指導者ナリ。國家及ビ其ノ認定法ハ神ノ定ムルトコロニヨリ成立存在發達スルモノニシテ意思生活ノ先導者ナリ。國法及ビ國家ハ各個人ノ自力ニ基ヅキ其ノ小理窟ニヨリ契約シテ生ゼシメラレタル製作物ニ非ズ。意思生活ニツキ各個人ヲ完成セシムルガ爲ニ缺クベカラザル意思上ノ他方ヲ供給スル爲ニ神ノ創設セルトコロナリ。

斯ノ如ク汎神論ノ興起ト併ビテ獨斷教モ亦其ノ信用ヲ恢復シ。就中羅馬教會ハ勃然トシテ興リ俗界ニ對シテモ大ナル勢力ヲ振フコトナリタリ。即チ「ヴキクトル、クローザン」Victor Cousin 1792-ハ中世ノ哲學ヲ研究シ「ド、メートル」Jos de Maistre 1754-「ド、ボナーン」De Bonald 1754-「シトローブリアン」Chateau Briand 1768-「ラムネー」Lamennais 1782-等ハ哲學說ガ各矛盾反對シ、又變遷シテ信賴シ難ク雄大ナル生活ヲ築クベキ鞏固ナル土臺ト爲スニ足ラザルベキヲ述ベ、之ニ信賴セシ結果ハ皆失敗ニ終リタルヲ證明シ、永久不變不易ナル鍛鍊セラレタル唯一ハ羅馬舊教ハ獨斷コソ、眞ニ人生ノ安立スベキ所ナルヲ唱ヘタリ。

新教ノ學者モ亦同一ノ運動ヲ開始シタルガ、神學者トシテ有名ナル哲學者ニ「シ、ライエ、ヘル、マ、ル」Schleiermacher 1768-在リ。「カルル、フ、ン、ハ、ル、ラー」Karl von Haller 1763-等ハ舊教ニ改宗セリ。尙「ユリウス、シ、タ、ール」Julius Stahl 1802-ノ如キハ、歴史的眼光ヲ以テ國家君主ノ説明ト第一事實トハ相離ルベカラザル所以ヲ洞察シ、君主ノ權力ハ神授ノモノナリ、多數ガ必ズシモ權威アルモノニ非ズト主張セリ。 Das Königtum von Gottes Gnade.

第五 立憲制度ノ確定

第十九世紀ノ前半ニ於テハ、國家國法ハ人爲ニ非ズシテ自然ナルコトヲ唱ヘ、國家ハ本來自然の全部ナリ、國法ハ全部ノ意思ナリト認ムルコトヲ一般ノ思想トシ、或ハ哲學上或ハ神學ノ方面ヨリ之ヲ論證セリ。然レドモ人類タル各個ノ自我ガ自由、平等、博愛ヲ主義トスルコトモ、亦自然ナリト認めラレ、世界ニ於ケル個人ノ尊重モ亦進歩シテ息マザリキ。サレバ第十九世紀ハ決シテ第十八世紀マデニ發達シタル自由思想、團體思想、平等思想ヲ打破セシモノニ非ズ。之ヲ國家世界ノ全部思想ト調和セシメ、益適當健全ナル方面ニ發展セシメ、終ニ認定法上、歐洲大陸諸國ノ立憲主義、立憲制度 Constitutionalism, Constitutionヲ確立セシメタリ。英國ハ約二百年前ニ確立セリ。故ニ立憲制度ノ研究ハ少クモ第十六七世紀以後ノ差別的、自然法ノ思想ト、第十九世紀ノ無差別的、全部思想ト、國家主義及並ビニ歴史的、自覺ニ分析シテ、精細ニ之ヲ吟味セザルベカラズ。目前ニ現ハレタル政争ノ事實ノ如キハ此ノ根本的思想ノ一表徵タルニ過キズ。

歴史モ自然法モ全部的思想モ考ヘザルベカラズ、全部相對ト歸一トヲ見ザルベカラズ。然シ、第十九世紀ニハ無差別方面ハ尙充分ニハ自覺モサレズ、況ヤ、發揚セラレズ、差別無差別ノ完全ナル調和ハ第二十世紀ハ仕事ナリ。

第二款 第十九世紀ノ後半

各個人博愛ノ實行ハ統一團體ノ確立ニヨリテ全キヲ得、各個人ノ自由ハ何人モ國家ノ活動ニ與カリ得ニ官吏議員ト權利義務アリ、兵役ルノミナラズ、國家ノ自治組織ト認メラルルコトニヨリテ國家普遍意思ノ確定ト調和シ得、各個人ノ平等ハ武力權力信仰ノ階級ノ廢止ト共ニ、國家社會ノ表現人タル根據ヲ均フシ得ルコトトナリ、其ノ獨立人トシテ有スル本來ノ價值ヲ等フスルコトトナレリ。然レドモ、國法及ビ國家組成ハ意思生活ヲ主トシテ存在スルモノナリ。故ニ國家國法ハ一應整頓スルモ、社會生活ノ各方面ノ事實ハ之ニヨリ整頓シ終リタルモノニ非ズ。殊ニ各種ノ社會的性情ノ下ニ成立シタル憲法ハ、必ずシモ理想及ビ理法ヲ満足セシムルヲ得ズ。設定シタル憲法生活ニ慣レシメ、益之ヲ根

個人ヨリ其ノ集合ニ移ルル位ナリ

私立憲法及ビ個人性ヲ認メ、自由ナル權利ヲ保障スルナリ

據トシテ法律生活ヲ發達セシムルト共ニ、是非共社會ノ事實的研究ニヨリ、社會國家國法ヲ改善セシメザルベカラズ。是ニ於テカーニハ社會學ノ發達ヲ誘起シ、ニハ國內公法ノ學問ヲ確定セシメ、三ハ國際法ヲ發達セシメタリ。然モ此ノ研究方法ハ第十九世紀前半ノ主義ヨリ一轉シテ差別的集合的トナリ、自然論的實證論的トナレリ。而シテ此ノ傾向ヲ助ケタルハ、憲法ノ確定一般人民ノ發達ト共ニ多數ノ淺薄小智ナル者ガ思潮ノ變遷ノ大動力トナリシコトニ在リ。漸ク第十八世紀ノ學風思想ニ感染シ了リタル一般人民ガ此ノ思想ヲ以テ満足シ得ル研究ヲ歡迎シタルコトニ在リ。故ニ研究者ノ多數ナルコト多方面ニ互リテ存在スルコトハ、未ダ嘗テ其ノ類ヲ見ザル所ナレドモ、多クハ卑近ニシテ入り易キ實證論實利論ニ執ヘラレタリ。獨逸ノ第十九世紀前半ノ觀念論ガ、寧ロ古キ制度ヲ有スル英國ニ於テ其ノ後繼者ヲ有スルモ亦奇觀トイフベシ。

第一 實證論ノ全盛及ビ進化論ノ普及

第一 實證論ノ全盛

故ニ法律哲
學ヲモ認メ
ズ

四料棟ノ春
人不奪境ノ
説明参照ノ

自然科學ノ發達及ビ成功ト共ニ自由ヲ否定シ、內的經驗ヲ度外視シ、外的經驗ハミヲ有効トシ原因結果ハミヲ獨リ用キラレ得ベキコトヲ獨斷シ、此ノ方法ヲ用キテ精神及ビ社會現象ヲ説明セントセシ者ハ、第十八世紀ノ終リニ急ニ民衆本位トナリタル佛國ノ「オーギスト・コムト」Auguste Comte 1798-1857ナリ。數學、星學、物理學、化學、生物學、及ビ社會學ノ六科以外ニハ、哲學モ亦存セザルモノトスルハ、彼ノ意見ナリ。此ノ說ハ佛英獨共ニ其ノ信仰者ヲ有ス。佛ノ「ラフ・ヤット」Laffite「ロビネー」Robinet等ハ純粹ナル後繼者ニシテ、稍緩和セラレタル「ルナン」J. Ernest Renan 1823-1892 及「テー・マ」Hippolyte Taine 1828-1893モ亦其ノ系統ニ屬ス。獨逸ニハ「デーリ・ンダ」Engen Dühring 1833-「マ・ハ・ク」Mach 1838-「アヴ・ナリウス」Avenarius 1845-「リスト」Liszt 1851-等在リ「リール」Riehlモ亦實證論ト新「カント」派トノ界ニ在ル者ナリ。英國ニ於テ「ミル」J. S. Mill 1806-1873ハ固ヨリ「ペーン」Alexander Bain 1818-「シヂ・ウ・ク」Sidgwick 1838-「ハックスレー」Huxley 1825-1900等皆多少此ノ方面ノ趣味ヲ帶ビ「スペンサー」Spencer 1820-モ亦此ノ方面ノ著シキ者ナリ。「スペンサー」カ我が國ニ影響セシコトノ大ナルハ人ノ許ス所ナリ。(臨濟四料棟ノ奪人不奪境佛哲四頁參照)

第二 進化論ノ普及。

Charles Darwin

進化ノ研究
ハ當時ノ要
求ナリキ
Hegelノ發
達ノ論理
Goetheノ
進化發展ノ
研究

Struggle for existence

Heraclitos
及「Hegel」
ノ矛盾

進化論「ダーウ・ン」Darwinニヨリ唱ヘラレタルモノナリ。彼ハ生物學的觀察ヲナシ、其ノ間ニ存スル進化ノ理法ヲ研究セリ。而シテ社會國家法制ノ觀察モ亦此ノ影響ノ下ニ立ツニ至レリ。人間ハ本來靈妙ノ性質ヲ有スル生物ニ非ズシテ、元ハ下等動物ノ漸次發達シタルモノニ過ギズ。此ノ人間ニ存在スル風俗習慣法律モ亦動物の生活ト離ルベカラザル關係ヲ有シ、皆其ノ種族保存ノ必要ニ基ヅキ存在スルモノナリ。家族生活ノ始マリハ元動物タル雌雄兩性ノ性愛性慾ニヨル結合ノ結果ナリ。此ノ生物的結合ガ團體殊ニ國家ヲ作ラシムルノ根本的要素ナリト。彼ノ影響ヲ受ケタル學徒ハ此ノ種ノ精神ニ基ヅキ人類ヲ他ノ生物ト比較シ、又ハ人類相互ヲ生物トシテ比較シ、國家法制ヲ研究シ之ヲ説明セントセリ。

尙彼ハ生物ノ間ヲ支配スル生存競争 Kampf ums Daseinニヨル優勝劣敗適者生存ノ理ヲ説明セシガ之ヲ用キテ、人類テハ生物間ニ存スル社會現象ヲモ説明セハントセリ (Darwinismus)。國民ノ間ニモ絶エズ生存競争ガ行ハルルモノニシテ、一

Aristoteles

ニ其ノ結果トシテ國民ノ發達ヲナサシムルモノナリ國民ノ發達ハ此ノ競争ノ程度ト相消長ス。蓋シ生物間ノ差別心及ビ卑近ナル情慾其ノ他ノ心理ノミヲ基礎トシテ實證論的ニ研究スルモノニシテ唯精神現象社會生活ノ一方面ノミヲ説明シ得ルニ過ギザルモノトス。(アリストテレス)ノ國家概念參照)

第二 社會學ノ興起及ビ社會ノ要求

第十九世紀ノ哲學ハ人生哲學ヲ以テ始マリシガ其ノ後半ニ至リテハ社會學ガ殆ンド哲學ニ代ルガ如キ勢力トナレリ。永キ争點タリシ國家根本組成ノ結末ヲ得タルト共ニ注目點ハ一ニ社會ニ集マリ自然科學的實證論的差別的ニ社會ヲ研究シ改革シ國家ニ對抗セントスルコトトナレリ。併シ大略第十八世紀ニ於ケルガ如キ極端ナル個人本位ニハ非ズシテ寧ロ多數ノ個人ト離レザル個人又ハ個人ノ集合ヲ以テ本位トナス。故ニ此ノ時代ノ社會學ハ何レモ個人集合ノ研究ニシテ人格者ノ歸一同體即チ普遍我ノ研究ニハ非ズ。且專ラ國家國權ヲ以テ社會ト相並ビテ外部的ニ對立スルモノト思惟シ且内的經驗ヲ捨テテ

蓋シ Person が最大多數ノ最ヘタリ

集合本位

外部的經驗ハミニ偏執セシモノナレドモ經濟學ヲ始メ刑法學其ノ他國家法律政治學ノ各方面ニ影響セシトコロ尠カラズ。是等ノ諸學問ヲシテ社會學ノ研究ヲ基礎又ハ參考トシテ立論セシムルニ至レリ。而シテ是等研究者ノ主義トスル所ハ概シテ在來ノ社會及ビ其ノ制度ヲ保存スルコトヲ以テ満足セザルモハニシテ大略左ノ三種アリ。

此ノ三種ノ主義ノ有スル缺點ノ根本ハ普遍及ビ表現ヲ悟ラズシテ徒ラニ個人ノ差別ニ拘泥スルノ點ニ在リ。從ツテ個人ノ集合ヲ見得ルモ本來ノ一心同體ヲ見ル能ハズ。本來ノ一心同體ヲ悟ラバ是等ヲ統括スル一層健全ナル主義ニ達シ得ベシ。

第一 自由主義

自由主義ハ及ブ丈ケ社會ヲ國家及ビ其ノ權力ヨリ解放センコトヲ主意トナス。國家ガ社會生活經濟生活ニ干涉スルハ社會ノ活動ヲ妨害スルモノ故全ク之ヲ社會事業ニ委スベキモノトナス。サレバ社會經濟ノ必然ナル調和ハ自由貿易ニアリテ保護貿易ニ在ラズ精神教育ノ事業モ出來得ル丈ケ之ヲ人民ノ私業又ハ社會ノ自治ニ委スベキモノニシテ成ルベク國權ヲ制限セザルベカラズ

トナス。此ノ主義ハ第十九世紀ノ後半ノ中頃マデハ極メテ有力ナリシ所ノモノナリ。

第二 國家社會主義 Staatssozialismus 國家ノ社會政策主義 Socialpolitik des Staates

凡そ所有ノ論
參照
今日ノ社會
政治ハ狹ク
労働者ノ保
護ヲ當面ノ
内容トナス
社會全部ノ
平均ヲ保ツ
及ビ國法ナ
リ

ヲ廢シ、殊ニ財力ノ專制ヲ打破セントス。愛情、信仰、武力、智力、各種ノ階級ノ別
消滅ト共ニ、獨リ財力ノミガ其ノ專制ヲ逞フスルニ至リ、財產ノ所有額ハ同時ニ
各個人間ニ差別ヲ立テシムル唯一ノ標準トナリ、財力ノ存スル所、其ノ壓制力ノ
存スル所ニシテ、自由獨立ノ聖ト感ゼラレタル人格者ハ、人格者ニ對シテニ非ズ
財物ニ對シテ、禮拜シ、財物ニヨリテ驅使セラレルコトヲ感ズル切ナルヲ致セ
リ。然ルニ經濟學及ビ社會學ノ進歩ト共ニ、財物ハ即チ人格者全體ノ創設スル
所ニシテ、又一個人一人ノ作ル所ニ非ズ。個人ノ集合ニヨリテ存スル社會ノ作
ル所ナリ。一人ノ私スベキ物ニ非ズシテ、社會ノ利用スヘキ物ナリ。故ニ國
家ノ權法律ハ此ノ財力ノ分配ヲシテ、其ノ當ヲ得セシムベキモノニシテ、形式的
ニ舊套ヲ墨守スルヲ以テ足レリトナスベキモノニ非ズ。社會ニ於テハ各種ノ

優者特ニ財力家ガ自己ノ私ヲ恣ニスル傾向アルニ對シ、此ノ私ヲ抑壓シ、國民及
ビ社會全部ノ平均ヲ保ツモノガ國權及ビ國法ナリ。國家ハ人民ノ自由ニ干渉
シテマデモ此ノ公平ナル社會目的ヲ達スルコトニ盡力スベキモノナリ。國家
ノ成立存在スル所以モ亦實ニ社會ノ健全公平ヲ維持スルコトニ在リ。而シテ
此ノ國家社會主義ノ或部分ハ、社會政策種トイフモ方針國家ヲ刺戟シテ殊ニ第十
九世紀ノ末葉ヨリ國家ノ社會政策ヲ定メシメ、立法及ビ行政ニヨリテ、着實行
セシメツツアリテ、益其ノ歩ヲ進ムルノ傾向ヲ有ス。 租稅、公用、徵收、事實、營業、國
營事業等其ノ重要ナル手
段ナ

社會ノ進歩人心ノ向上ト共ニ、社會ニ於ケル各般ノ專制主義絕對主義ハ
次第ニ打破セラレ、何人モ社會ノ普遍的產物ヲ私シ得ザルニ至レリ。獨リ
財物ニツキテハ未ダ充分ナル解決ヲ見ズ。財力專制ハ他ノ專制ガ存ゼザ
ルニ至リシト共ニ、益專制的獨占的ニ其ノ暴威ヲ振ヒツツアリ。此ノ財力
ニ對スル私ヲ整理シ、表現人ノ根柢ノ上ニ財力ヲ運用スルニ至ラシムルニ
ハ如何ニスベキカ。コハ世界全體ニ跨ガル大問題ナリ。 食物ノ不足等重
愈此ノ問題ナリ

如何ニシテ
健全ナル
第一ノ確
信ヲ立テ
リガ之ヲ
確立ガ必
要ナル全
ナリ

要ナラ

社會主義ハ個人本位ナリ、物質主義ナリ、所謂自然論ナリ。口ニ普遍ヲ唱フルコトアリテモ、實ハ個人主義ヲ満足セシムルノ方便ナルノミ。故ニ個人ガ本ニシテ目的ナリ、普遍ハ末ナリ、手段ナリ。此ノ精神ハ全ク本末ヲ顛倒セリ。

第三 社會主義

社會主義ニハ其ノ種類多ケレドモ、概シテ原子論ヲ最後ノ根據トナシ、各個人ハ差別ニ執着シ、其ノ無差別主義ヲ唱フル者モ、其ノ本心ノ歸着スル所ハ個人ノ國家及ビ認定法ヲ以テ強者階級及ビ其ノ意思ト同一視シ、又ハ之ヲ以テ權力者及ビ財力者ガ自己ノ權力ヲ維持スルノ道具ナリト獨斷ス。即チ希臘時代ノ詭辯論者ト全然其ノ基礎ヲ同フスルモノナリ。希臘當時又ハ近世初期ノ權力社會ニ於テハ、今日ノ公平ナル唯詭辯論者ノ自然法ハ強者ノ私ニ媚ビテ之ヲ是認シタルガ、社會主義殊ニ社會民主主義 Socialdemokratie, Socialdemokratismusノ獨斷ニヨレハ、強者ヲ疾視シテ之ヲ否認シ、不道理ナル壓力ヲ打破スルコトヲ以テ動カスベカラザル正義ト認ムルモノナリ。此ノ種ノ兩極端ハ第十七八世紀ノ頃モ

此兩者ハ結
論正反對
ニシテ反
一ノ根據
立ノ此兩
者ハ相
遠キガ
立ノ此兩
者ハ相
遠キガ

其ノ相
近シテ
當リテ
而シテ
當リテ
ニシテ
義者ト
トナル
主

稍變形シテ存在シ共ニ原子論ノ、差別的、ノ、根據、ノ、上、ニ、立、チ、ツ、ツ、一ハ「ホップス」及ビ「ルイ」第十四世ノ如ク強者ノ專制ヲ認メ、他ハ無數ノ民權論者ノ如ク個人ノ專制ヲ主張シ、終ニ革命トシテ大衝突ヲ來セシモノナリ。全ク同一ノ不健全不完全ナル獨斷ニ據リナガラ、愛憎好惡ニヨリテ偶然一方ニ味方スルガ故ニ、カカル大誤謬大騷動ニ陥ルモノニ外ナラズ。而シテ社會民主主義者 Socialdemokratenガ國權ヲ憎惡スレドモ、社會ニ於ケル不公平ナル私心ヲ抑へ、財力權力ヲ共同所有トナシ、其ノ分配使用ヲシテ當ヲ得セシメンガ爲ニハ、一層強大ナル強制力ヲ用キザルベカラズ。此ノ點ガ社會主義者ノ苦シミツツアル矛盾ニシテ其ノ大難點ナリ。此ノ點ガ其ノ主義ノ中ニ在セル調和シ難キ矛盾ナリ。要スルニ國家ハ強者ト同一ニ非ズ。國法ハ優者ノ私ノ意思ニ非ズ、國家ハ普遍我ニシテ國法ハ普遍意思ナリ。故ニ此ノ國家國法以外ニ一層公平ナル社會及ビ強力ヲ求メントスルハ絶對ニ誤マレモノトイハザルベカラズ。卑近ノ所ヲ見ルモ現ニ主義者、獨「サン・シモン、Saint Simon」以來ノ佛國社會主義者、獨「Tasselle, Marx, Engels」皆其ノ頭領ナリ。

第十九世紀
前半の國內
運動
ノ立憲
英國ノ獨
臺ナリ

帝國主義

附錄 新歐羅巴人 第五章 第十九世紀ノ思潮 第二節 學說ノ系統

六七〇

スルコトナレリ。而シテ其ノ競争ノ必要ハ極端ニシテ差別的ナル自由主義
社會主義ヲ壓シテ、愈々國家國權ノ鞏固ナルヲ致サシメ、能ク「アウグスタス」ノ理
想ヲモ實現セシメツツアリ。而シテ交通ノ頻繁ニヨリ愈々複雑トナレル國際關
係ハ、今ヤ國際法ト共ニ規則正シク發達スルコトナリ、協商主義ニ移リ、其ノ範
圍内ニ於テハ富國強兵ヲ主義トシ、又帝國主義ハ傍ラニ新タナル生命ヲ以テ國
民主義ヲ再興セシメ、又重商主義ヲ兼テ採用スルノ勢トナルニ至レリ。

故ニ又思ヒ違ヒテナシテ專制論ナドヲ唱フル學者ヲモ出セシナリ。今日ノ重商主義ハ同時
ニ協商的ニシテ等十七七八世紀ノ主義ト異ナル所ナリ。

第二節 學說ノ系統

別表三葉ニ讓ル。

第六章 結論

以上吾人ハ希臘人ノ知識理想羅馬人ノ武斷主義新プラトーン派ノ神秘說基

吾人ハ神ノ
愛ヲ求メ
モ亦シメ
現者ニシテ
テ人ノ示
テ人ニ示
テ人ニ示

古神道
ノ思潮
ノ研究
支那

督教ノ信仰中世ノ形式的他力主義近世ノ逸樂利益ノ競争個人主義全部主義等
ヲ反省セリ。蓋シ吾人ハ根本ニ於テ皆人類ノ表現者ナリ。彼等ノ思想先人ノ
生活經驗ハ則チ吾人ノ思想ナリ。吾人ハ原罪ヲ犯シ、又吾人
ハ死ヲ以テ之ヲ購ヒタリ。吾人ハ己ニ逸樂ヲ肆ニセリ、吾人ハ既ニ甚ダシキ失
敗ヲ試ミタリ。故ニ今更改メテ之ヲ繰返ス必要ナシ、獨リ新方面ニ向ヒ人類新
經驗ノ途ヲ開ク。表現心ヲ有スベキノミ。吾人ノ生活經驗ハ既ニ數千年ニ遡
リテ擴張セラレ遠ク歐米ニ推シ擴ゲラタリ、其ノ根據ヲ失ハズ、其ノ基礎ノ上
ニ時ト處トニ於テ人類ノ發達特色ヲ分擔スルコトガ吾人内部ノ無上命令ナリ。
東洋人トシテ人類ノ發達ヲ日本トシテ東洋人ノ發達ヲ法律政治經濟生活ヲ
ナス各個人トシテ日本人ノ特色發達ヲ分擔スルコトガ權限ナリ。是レ吾人ノ
表現義務ニシテ又表現權利ナリ。苟クモ此ノ擴張セル大精神ヲ失ハサレバ活
キタル創設力ハ深キ内部ヨリ湧出シ、混混沌沌ノ世紀ニ於テ學問上實際生活上少
クモ必ズ確定セラレベキモノノ一ハ各種ノ觀念論及ビ實證論等ヲ統括スル表

附錄 新歐羅巴人ノ思潮 第六章 結論

六七一

古神道ノ表
現況神論發
揚ノ必要

附錄 新歐羅巴人ノ思潮 第六章 結論

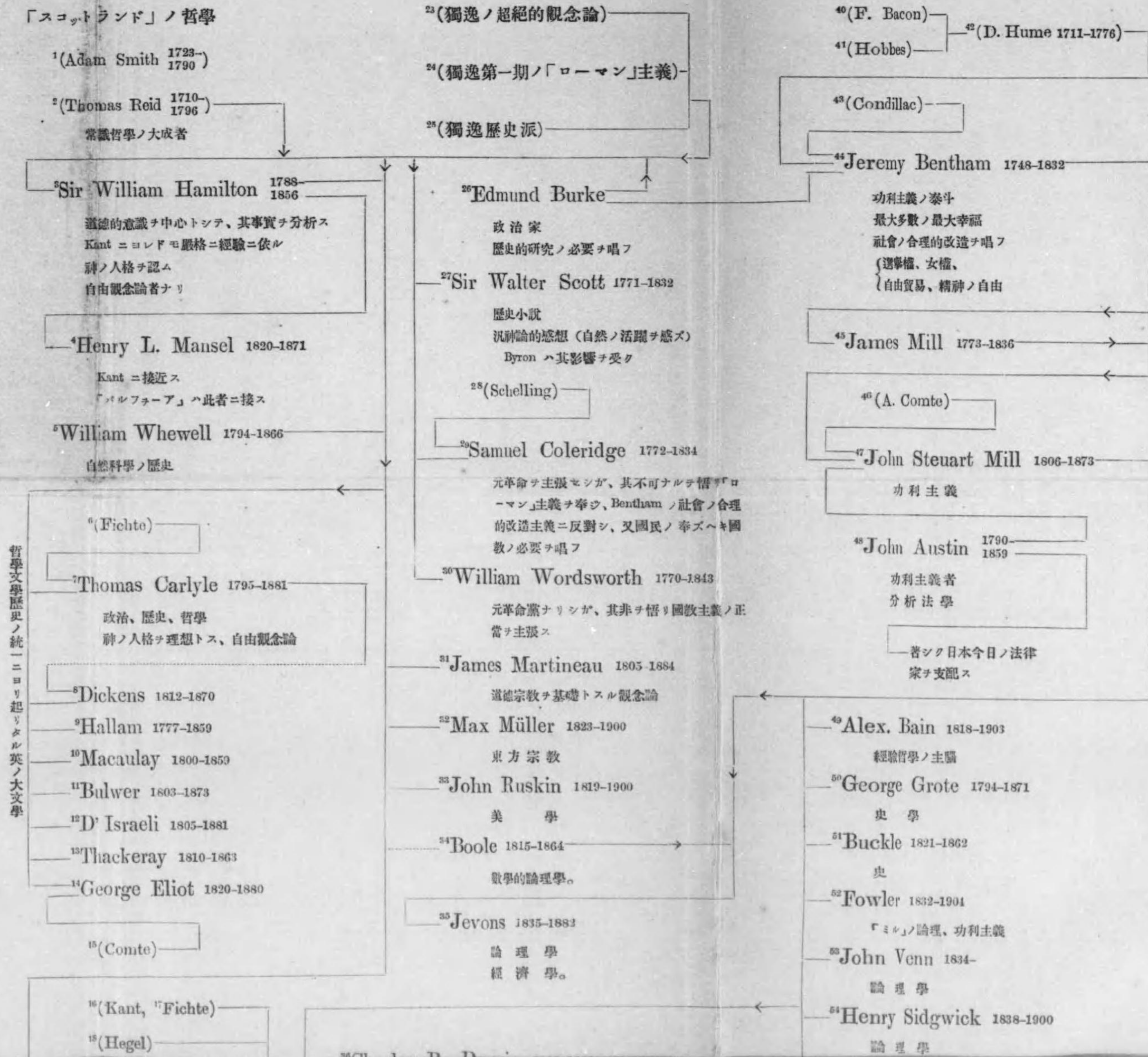
六七二

現況神論及ヒ其ノ基礎タル普遍我表現人ノ自覺並ビニ其ノ實現ナリ。
單純ニ理窟ニ止マラズ其ノ信念ナリ其ノ大精神ナリ。

法理學第二卷畢

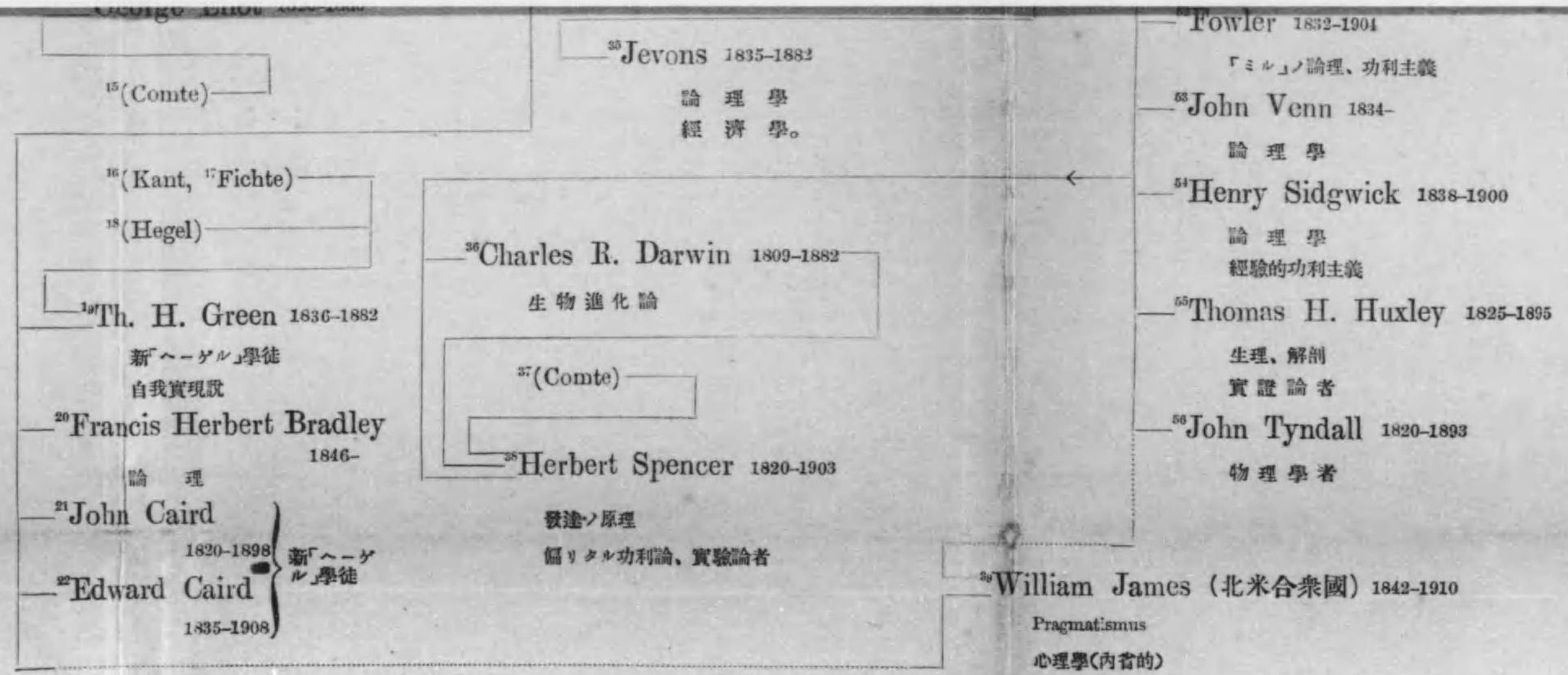
「スコット
¹(Adam
²(Thor
常
³Sir
道
K
神
自
⁴He
⁵Will
自

第一表 第十九世紀ニ於ケル英國人ノ思想



哲學文學歴史ノ統一ニヨリ起リタル英ノ大文學





注意 1英國此ノ世紀ノ思潮ノ大體ハ批判的ニ吾人内部ノ意識ヲ分析シツツアリ。獨乙ヨリ進入セル觀念論、佛蘭西ヨリ侵入セル實證論ハ、大要英國人ノ着實健全ナル人格ニヨリ中庸ヲ失ハズニ同化セラレツツアリ。然モ日本ノ如キハ徒ラニ其表面ノ形式ヲ輸入シタリ。

2現今日本ヲ支配シツツアル思想ハ向ツテ右ニ在ル功利主義ノ系統ナリ、此系統ノ思想ハ根柢タル觀念ノ研究ヲナサズ、故ニ直チニ入り易シ。元ヨリ必要ナル思想ノ一ツタルコトハイフマテモナシ。

第二表 第十九世紀ニ於ケル佛國人ノ思想

實證論主義者

¹(Jean le Rond D'Alembert) 1717-1783

²(Anne Robert Jacques Turgot) 1727-1781

³(M. J. A. N. C. Condorcet) 1743-1794

⁴Pierre Jean Georges Cabanis 1757-1808

唯物論者

⁵Destutt de Tracy 1754-1836

⁶Claude Henri Saint-Simon 1760-1825

社會主義

(社會學ノ發達 (哲學ノ地位ニ代ハル)
1. 哲學ハ人間ヲ研究スル 社會學ニ外ナラズ
2. 革命以來革命主義ト自然科学トヲ結合シ、
全然實證論的ニ社會ヲ説明セントス

⁷Saint-Simon ノ學徒ノ唱道セル

社會主義

⁸Bazard 1791-1832

空想家

⁹Enfantin 1796-1864

空想家

¹⁰Fourier 1772-1837

¹¹Proudhon 1809-1865

¹²Louis Blanc 1811-1882

佛國唯心論者

²³Ampère 1775-1826

數學、物理學者

²⁴Royer-Collard

²⁵(Descartes)

²⁶(「スコットランド」學派)

²⁷(Kant)

²⁸Maine de Biran 1766-1824

大ナル分析家

折衷派ナリ

我ノ中ニ在ル先天的自活カヲ認ム

²⁹Jouffroy 1796-1842

折衷派、心理派、我ヲ出發點トス。

Cour de drvit Naturel 1834/5

³⁰(Hegel)

³¹(Jacobi)

³²(Schelling)

³³(Goethe)

³⁴Victor Cousin 1792-1867

折衷派、唯心論

歴史特ニ中世史ニ精通ス

³⁵Guizot 1787-1874

³⁶Aug. Thierry 1795-1856

³⁷Villemain 1790-1870

³⁸Paul Janet 1823-1899

Cousin ノ唯心論

折衷派

³⁹Ravaisson 1813-1900

唯心的實在論、實證論ニ反對ス。

⁴⁰(Aristoteles)

⁴¹(Leibnitz) ⁴²(Schelling)

⁴³Henri Bergson 1859

神權論主義者

¹⁸De Bonald 1754-1840

間接啓示説

¹⁹Joseph de Maistre 1754-1821

間接啓示説

²⁰Châteaubriand 1763-1848

²¹Lamennais 1782-1854

²²(基督教舊教)

¹³Auguste Comte 1798-1857

實證論ノ大成者

哲學ノ存在ヲ否認ス(科學外ニ)

特殊ノ信仰ヲ入道宗教トナル

政治上社會上ニ大ナル影響ヲ與フ

¹⁴P. Laffitte 1823-1903

入道宗教ノ首長

¹⁵Robinet 1735-1820

1848ノ革命以後

労働階級

物質主義

社會主義

ノ勝利ト共ニ Comte ノ「實證論主義」ハ 入道宗教 religion de l'humanité トナレリ

¹⁶Ernst Renan 1823-1892

英國並ニ獨國ノ思潮

¹⁷Hippolyte Taine 1828-1893

注意 第十九世ノ佛國ハ其ノ前世ノ實證論的思潮ヲ長大成セシメ、此ノ點ニ於テ發動的ニ世界ニ影響ヲ及ボシタレドモ、其ノ觀念論ニ至ツテハ全ク受動的ナリ。

¹³Auguste Comte 1798-1857

實證論ノ大成者
哲學ノ存在ヲ否認ス(科學外ニ)
特殊ノ信仰タル人道宗教トナル
政治上社會上ニ大ナル影響ヲ與フ

¹⁴P. Laffitte 1823-1903

人道宗教ノ首長

¹⁵Robinet 1735-1820

1848ノ革命以後

勞働階級
物質主義
社會主義

ノ勝利ト共ニ Comteノ「實證論主義」ハ人道宗教 religion de l'humanité トナレリ

¹⁶Ernst Renan 1823-1892

英國並ニ獨國ノ思潮

¹⁷Hippolyte Taine 1828-1893

神權論主義者

¹⁸De Bonald 1754-1840

間接啓示説

¹⁹Joseph de Maistre 1754-1821

間接啓示説

²⁰Chateaubriand 1768-1848

²¹Lamennais 1782-1854

²²(基督教舊教)

折衷派、心理派、我ヲ出發點トス。
Cour de droit Naturel 1834/5

³⁰(Hegel)

³¹(Jacobi)

³²(Schelling)

³³(Goethe)

³⁴Victor Cousin 1792-1867

折衷派、唯心論
歴史特ニ中世史ニ精通ス

³⁵Guizot 1787-1874

³⁶Aug. Thierry 1795-1856

³⁷Villemain 1790-1870

³⁸Paul Janet 1823-1899

Cousinノ唯心論
折衷派

³⁹Ravaisson 1813-1900

唯心の實在論、實證論ニ反對ス。

⁴⁰(Aristoteles)

⁴¹(Leibnitz) ⁴²(Schelling)

⁴³Henri Bergson 1859

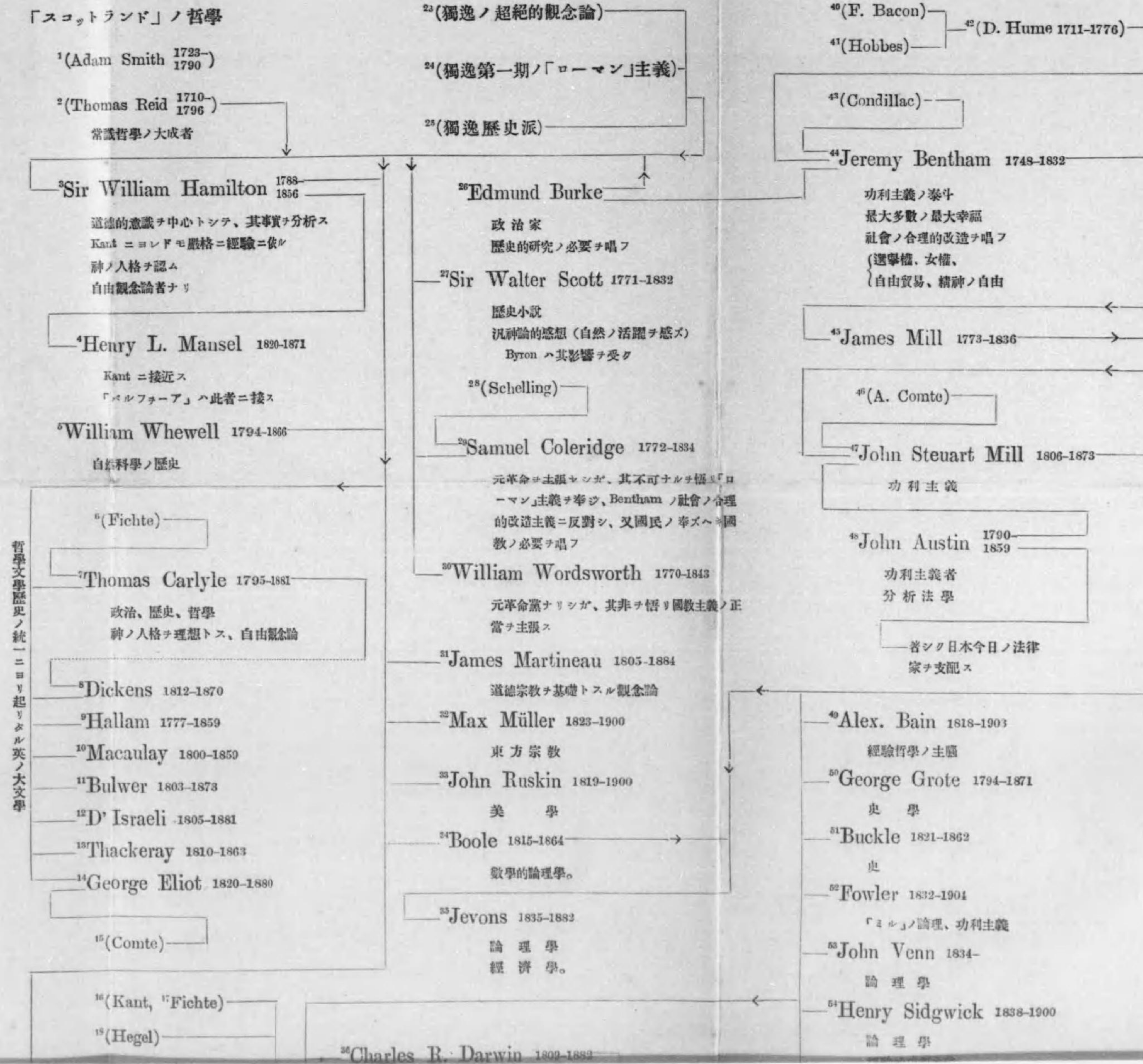
新唯心論派
汎生論 Panvitalismus
內的經驗ニ根據ス
Irrationalismus

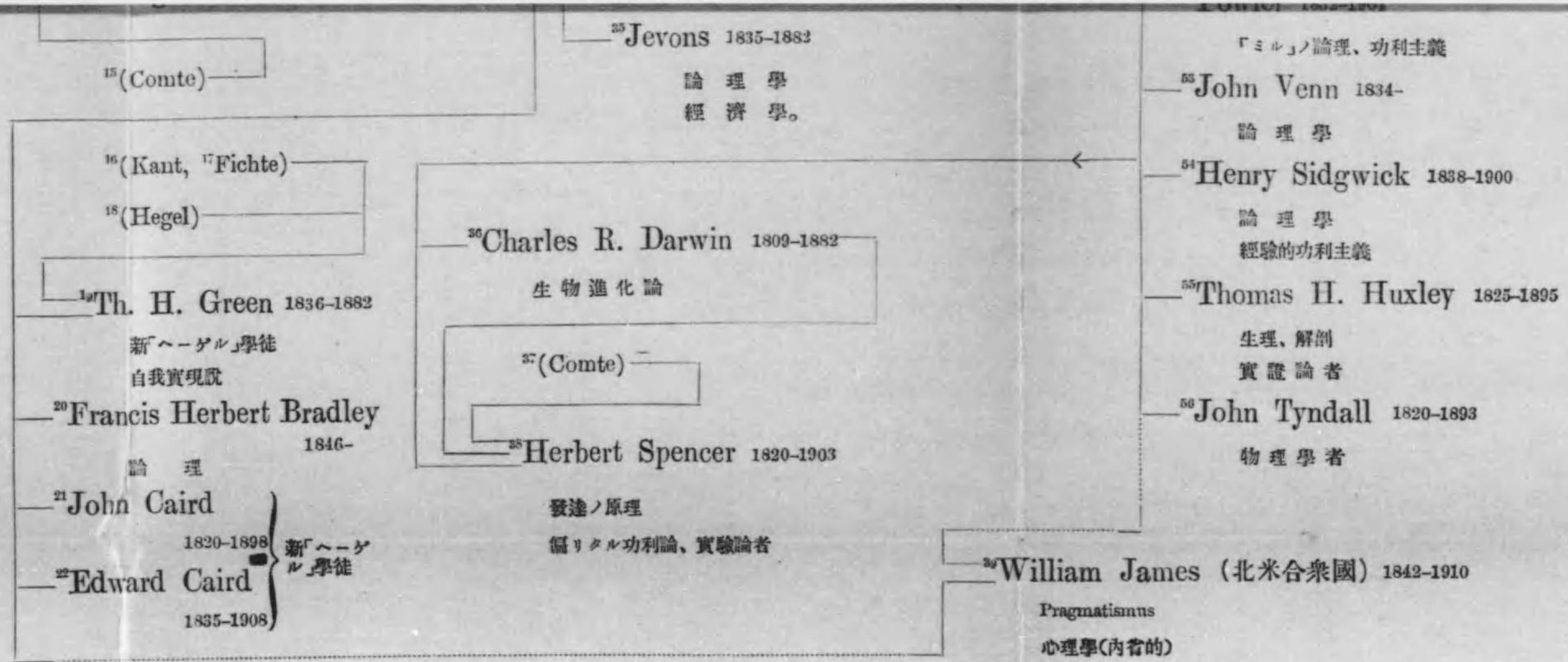
注意 第十九世ノ佛國ハ其ノ前世紀ノ實證論的思潮ヲ長大成セシメ、此ノ點ニ於テ發動的ニ世界ニ影響ヲ及ボシタレドモ、其ノ觀念論ニ至ツテハ全ク受動的ナリ。

自然科學ノ勝利、哲學ノ屏息、實證論主義ノ旺盛及ビ社會主義ノ中心點タルコトガ此ノ世紀ニ於ケル佛國思潮ノ特色ナリ。

如何ニ實證論ガ社會主義ト手ヲ連ネテ卑近淺薄ナル利己心ヲ是認セシカニ注意セヨ、其ノ反動ハ最近ニ至リ Bergson 等ヲ通シテ漸ク起リツツアリ。

第一表 第十九世紀ニ於ケル英國人ノ思想





注意 1 英國此ノ世紀ノ思潮ノ大體ハ批判的ニ吾人内部ノ意識ヲ分析シツツアリ。獨乙ヨリ進入セル觀念論、佛蘭西ヨリ侵入セル實證論ハ、大要英國人ノ着實健全ナル人格ニヨリ中庸ヲ失ハズニ同化セラレツツアリ。然モ日本ノ如キハ徒ラニ其表面ノ形式ヲ輸入シタリ。

2 現今日本ヲ支配シツツアル思想ハ向ツテ右ニ在ル功利主義ノ系統ナリ、此系統ノ思想ハ根柢タル觀念ノ研究ヲナサズ、故ニ直チニ入り易シ。元ヨリ必要ナル思想ノ一ツタルコトハイフマテモナシ。

大正二年十二月七日印刷
大正二年十二月十二日發行

西洋哲理上奥附
定價金 參圓

著作
所有

著作
者 笈 克 彦

發行者
江 草 重 忠

東京市神田區一ツ橋通町五番地

印刷者
松 澤 玨 三

東京市麴町區下六番町十七番地

發行所

有斐閣書房

東京市神田區南神保町十三番地
電話本局三二三一四四九番
振替口座東京三七〇番

發賣所
發賣所
發賣所

東京市本郷區森川町一番地
振替東京五四〇六番
東京市牛込區早稻田鶴卷町

有斐閣雜誌店
有斐閣書店
文影堂書店

(舍勞同【九六三町番話電】地番七十町番六下區町麴市京東 所刷印)

法學博士 克彥先生著書

第一理學 佛敎哲理 全一冊 定價金 參圓五拾錢 郵稅金 拾六錢

第二理學 西洋哲理 上 定價金 拾參錢 郵稅金 貳錢

法理 戲論 全一冊 定價金 八拾錢 郵稅金 八錢

萬國之根抵 古神道大義 全一冊 定價金 壹圓七拾錢 郵稅金 貳錢

國家之研究 第一卷 定價金 壹圓八拾錢 郵稅金 貳錢

324
244

終

